

年 報

2012年度
(平成24年度)

聖路加看護大学
St. Luke's College of Nursing

目 次

ごあいさつ	理事長 福井 次矢	・ 1
序文	学 長 井部 俊子	・ 2
組織図		3
重点活動計画		4
学事暦		5
I 法人機関		・ 7
1 理事会		7
2 常任理事会		7
3 評議員会		8
4 法人事務局		8
5 大学運営会議		9
6 募金活動推進委員会		9
II 大学決議機関		・ 12
1 教授会		12
2 研究科委員会		12
III 教学組織		・ 14
1 看護学部 看護学科（在籍者・入学者・卒業者数などのデータ）		14
（1）入試委員会		23
（2）カリキュラム運用委員会		23
① 実習単位認定者会議		24
② 臨地実習Ⅱ担当者会議		25
（3）実習室委員会		25
（4）体育デー委員会		26
（5）多様な学生の学びに関するプロジェクト		27
（6）看護教育会議		27
（7）教育会議		28
（8）養護教諭ネットワーク会議		28
2 看護学研究科		29
（1）がんプロフェッショナル養成プラン		31
（2）組織的な若手研究者等海外派遣プログラム		32
「市民参画型ケアを推進する看護学若手研究者の育成」に関する委員会		
（3）アジア・アフリカ学術基盤形成事業		33
タンザニアの母子保健改善に貢献する持続的な若手研究者の育成		
（4）専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業		34
「チームビルディング力育成プログラム」推進委員会		
3 図書館		37
（1）図書館		37
（2）大学史編纂・資料室		44
4 看護実践開発研究センター		46
（1）運営委員会		46
（2）People-Centered Care 実践開発部門		50

(3) キャリア開発支援部門	53
(4) 研究活動支援部門	55
(5) WHOコラボレーティングセンタープライマリヘルスケア WHO看護開発協力センター事務局	56
(6) るかなび運営会議	58
(7) 聖路加・テルモ共同研究事業	60
(8) 福島県災害支援プロジェクト	60
IV 学生支援組織	62
1 教務部	62
2 学生部	62
(1) チャペルアワー委員会	66
V 大学事務局	68
1 秘書室	68
2 総務課 (学生課)	69
3 経理課	71
4 管財課	71
5 健康管理室	77
6 研究支援室	81
7 危機管理室	81
8 広報室	82
VI 学長諮問委員会	83
1 学事協議会	83
2 自己評価委員会	83
3 研究倫理審査委員会	84
4 人権委員会	85
5 発明委員会	86
6 将来構想委員会	86
7 奨学生選考委員会	87
8 危機管理委員会	88
VII 常設委員会	89
1 教育予算委員会	89
2 広報委員会	90
3 学園ニュース委員会	92
4 情報システム委員会	93
5 国際化推進委員会	94
6 表彰運営委員会	95
7 紀要委員会	97
8 オリエンテーション・セミナー委員会	97
9 FDS委員会	98
VIII 連携等会議	99
1 ファカルティ・スタッフミーティング	99
2 リエゾン・コミッティ	99
3 聖路加国際病院ナースマネージャー会	99
4 ウィリアムズ主教記念基金委員会	100

ごあいさつ

聖路加看護学園理事長 福井 次矢

2012年度における聖路加看護大学の教育研究活動の記録を関係各位の皆様にお届けいたします。

私が2012年4月1日に当学園の理事長職に就任して、最初の1年間が終わりました。28年間もの長期にわたり、日野原重明先生が理事長を務められた後ですので、うまく舵取りができるか心もとない船出ではありましたが、大学のスタッフ、理事・評議員の皆様のご協力により、例年のように活発な教育研究活動が遂行されました。心から感謝申し上げます。

当大学の役割は、これまでの歴史を踏まえ、優れた看護職の養成と看護界におけるリーダーの養成にあり、それらの目的が達成されるかどうかは、第一義的には、教育現場における日々の教員と学生の相互関係性の中で左右されます。理事長職に求められる役割とはそのような教員と学生の相互関係性が生起する環境をできる限り理想的なものとするものであり、具体的には、経営管理・将来像の提示・人事という3つの側面に絞られると思います。

2012年度中に私が関わった事柄を列挙します。2012年度前半には、大学の大多数のスタッフが委員を務める「将来構想委員会」での真摯な検討の結果を伺い、改革・改善すべき課題が多々あることを認識しました。

8月には、文部科学省高等教育局医学教育課課長と面会し、聖路加国際病院（一般財団法人）を聖路加看護学園（学校法人）に組み入れることができないか、具体的な相談を開始しました。

10月1日付で、山口喜義氏の後任として、事務局長に渡辺明良氏（聖路加国際病院財務経理課マネジャー）が就任し、学園の組織や規程・規則の見直しを精緻かつ精力的に行ってきました。

年度当初から行ってきた毎週月曜日の学長、事務局長とのミーティングに加え、年度の後半には、大学運営会議（理事長、学長、学部長、事務局長、教授2名、事務職2名）を正式にスタートし、大学内の情報を速やかに共有し対応する体制が整いつつあります。

2013年度は、聖路加看護大学の将来像をより具体化、確定できるよう努力したいと思っています。引き続き、関係各位の皆様のご協力をお願い申し上げます。

序 文

2012年度の聖路加看護大学は、福井理事長のもとに、聖路加国際病院との法人一体化にむけた準備が、文部科学省との事前相談という形で、具体的に開始された。10月に就任した渡辺事務局長は、大学のすべての規程を整備し、規程にもとづいた組織体制の再構築を行なった。また、全教職員が参加して検討した「将来構想」は9月18日に全体会で発表され、9月28日の理事・評議員懇談会に提出された。学部教育の方向性、大学院のあり方、教育研究のためのフィールドの確保、職場環境の改善、大学経営の効率化、情報戦略の改革といった6班の提案が大学活動の中に反映されていくことになった。

教育活動では、来年度から科目ナンバリング、GPAの導入を決定した。また、学部入学定員を60名から75名とし、収容定員を300名から360名に変更する定員増を来年度から実施することとなった。情報システムは、次年度以降クラウド化に移行することとなった。看護学研究では、がんプロフェッショナル養成プラン、組織的な若手研究者等海外派遣プログラム、アジア・アフリカ学術基盤形成事業、チームビルディング力育成プログラムが活発に行なわれた。図書館機能の一環としてアクティブ・ラーニング支援が検討された。

研究活動では、科学研究費採択率が全国第一位となった。研究支援室、研究倫理審査委員会はより一層の活動がもてめられた。

看護実践開発研究センターでは、PCC実践開発部門が19事業、キャリア開発支援部門が22事業を展開した。またWHOコラボレーティングセンターとして、5月に再委嘱され、委嘱機関を学部から研究センターに移行することとした。福島県災害支援は、NPO法人日本臨床研究支援ユニット（J-CRSU）と行政（いわき市、富岡町）との業務委託契約のもとに支援活動が展開された。さらに支援活動について学会発表がなされ、訪問活動で得られた研究データの分析が検討された。

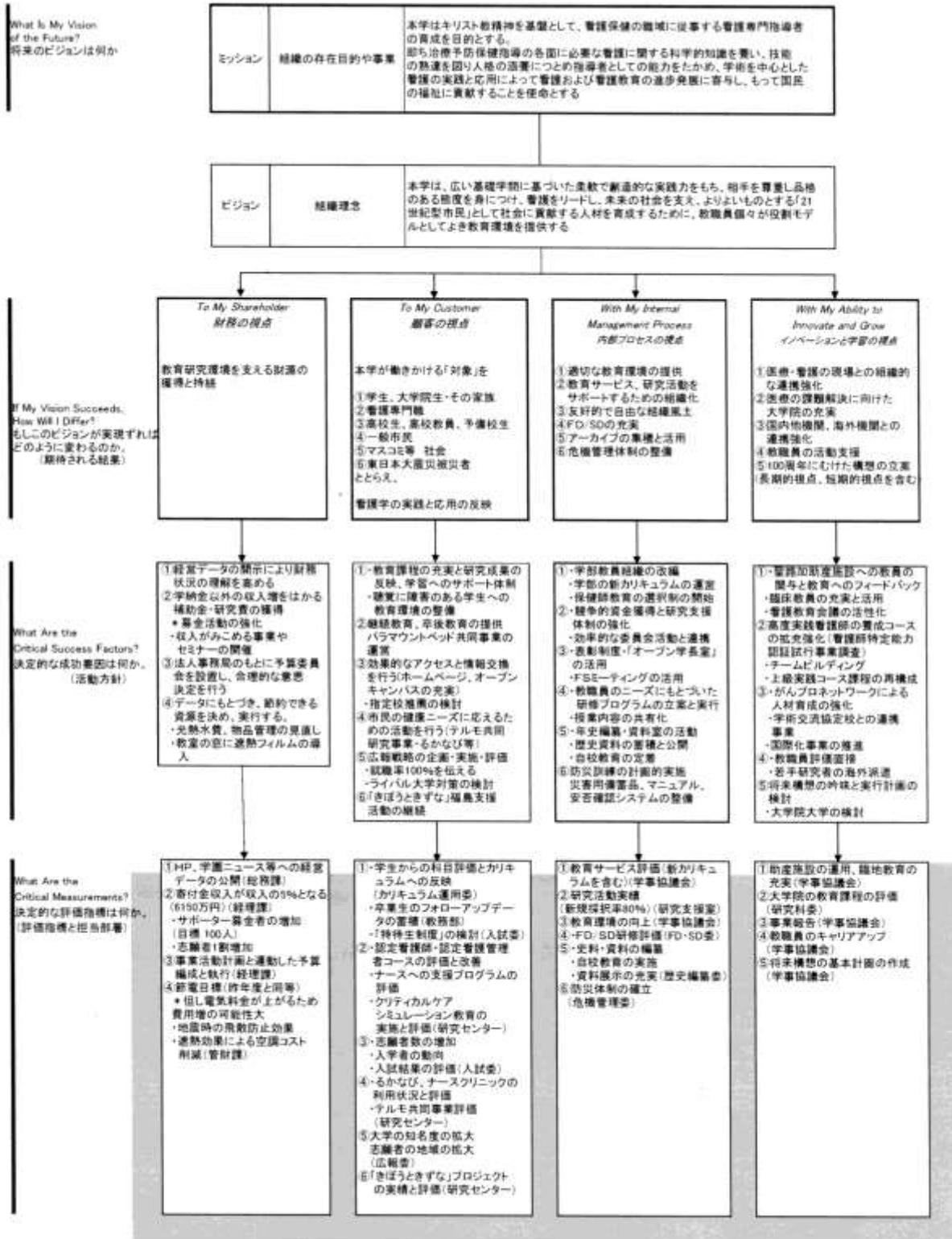
大学運営体制も整備された。常任理事会のもとに、大学運営会議を設置し、理事長との定期的な会合を開催し迅速な意思決定を行なった。法人事務局では、法人に関するすべての規程の構造と内容を整理し、法人の重要文書の保管、公印取扱いに関する規程を作成した。寄付金管理は法人事務局が担当することとし、募金活動推進委員会は終了した。大学事務局体制の整備も行なわれ、事務次長を新設、広報機能の強化、危機管理機能の強化、情報システム室専任者の設置が実施された。

このように、2012年度は、本学がさらなる飛躍に向けた基盤整備が精力的に行われた年であった。2020年の創立100周年に向けて、聖路加看護大学の「次のステージ」への跳躍が予感される。

2013年3月31日

聖路加看護大学学長 井部俊子

2012年度聖路加看護大学 重点活動計画



* 上段と下段の番号は関連しています。

* オープン学長室 (教職員対象)

原則 第4週月曜日 6-7pm 於)学長室

5月28日 11月26日

6月25日 12月17日

7月23日 1月28日

10月22日 2月25日

2012年度 学事暦

年 月 日	大 学 行 事	理事会・教授会・委員会など
2012年		
4月 4日 (水)	学部入学式・始業式	
5日 (木)	新入生オリエンテーション	
6日 (金)	オリエンテーションセミナー (清里・清泉寮) (～7日(土))	
9日 (月)	学部授業開始	
10日 (火)		教授会
11日 (水)	大学院入学式・開講式	
12日 (木)	大学院新入生オリエンテーション (～13日(金))	
14日 (土)	大学院授業開始	
17日 (火)		研究科委員会
5月 1日 (火)	学部休講日 (～2日(水))	
8日 (火)		教授会
15日 (火)	修士論文研究計画書提出締切	研究科委員会
23日 (水)		常任理事会
28日 (月)		理事会・評議員会
6月 7日 (木)	体育デー	
11日 (月)	養護実習 (～7月13日(金))	
11日 (月)	総合実習 (～7月20日(金))	
12日 (火)		教授会
19日 (火)		研究科委員会
30日 (土)	オープンキャンパス (大学説明会)	
7月10日 (火)	博士論文提出締切	教授会
17日 (火)		研究科委員会
18日 (水)	修士課程学内推薦入学試験	
23日 (月)	前期定期試験 (～27日(金))	
28日 (土)	オープンキャンパス (大学説明会) (～29(日))	
夏季休暇 7月30日 (月)～9月22日 (土) 大学一斉休暇 8月13日 (月)～18日 (土)		
9月 4日 (火)		臨時研究科委員会
11日 (火)	学位授与・論文発表会	教授会
17日 (月)	体育Ⅱ (野外活動実習) (～20日(木))	
18日 (火)		研究科委員会
19日 (水)	学士編入学試験	
20日 (木)	臨地実習オリエンテーション (～21日(金))	常任理事会
24日 (月)	後期授業開始	
24日 (月)	臨地実習 (～2月22日(金))	
25日 (火)		臨時教授会
28日 (金)		理事会・評議員会
10月 1日 (月)	大学院授業開始	
9日 (火)		教授会
16日 (火)	博士後期課程入学試験	

年 月 日	大 学 行 事	理事会・教授会・委員会など
11月 1日 (木) 3日 (土) 5日 (月) 6日 (火) 13日 (火) 20日 (火)	推薦入学試験 白楊祭 (～4日(日)) 白楊祭振替休日	臨時教授会 教授会 研究科委員会
12月10日 (月) 11日 (火) 18日 (火) 21日 (金)	修士論文研究計画書提出締切 クリスマス集い	教授会 研究科委員会
冬季休暇 12月24日 (月)～1月5日 (土)		
2013年 1月 7日 (月) 8日 (火) 10日 (木) 15日 (火) 23日 (水) 25日 (金) 31日 (木)	授業開始 博士論文提出締切 学部後期試験 (～19日(土)) 大学創立記念行事 大学創立記念日 (休校) 修士論文提出締切	教授会 研究科委員会
2月 1日 (金) 12日 (火) 14日 (木) 18日 (月) 19日 (火) 25日 (月) 26日 (火) 27日 (水) 28日 (木)	学部一般入学試験 (休講) (・5日(火)) 看護展開論実習 (～3月5日(火)) 修士論文審査・最終試験 (～23日(土)) 博士論文発表会 修士論文発表会 (修論・上級実践) (～3月1日(金))	教授会 常任理事会 研究科委員会 臨時研究科委員会・臨時教授会 理事会・評議員会
3月 5日 (火) 8日 (金) 12日 (火) 19日 (火) 22日 (金)	卒業式・修了式	臨時研究科委員会 教授会 研究科委員会、臨時教授会 教育会議

*補講日 (いずれも土曜日) 6月9日、7月14日、10月6日、10月27日、11月10日、11月24日、12月15日

I 法人機関

1 理事会

1. 役割・職務

- 1) 役員および理事会は、寄附行為第5条から第17条に規定されている。
- 2) 学校法人の業務を決し、役員を選任および解任、理事長の選任を行う。理事の職務の遂行を監督する。理事長を選任する。
- 3) 理事長は法人を代表し、その業務を総理する。
- 4) 監事は、法人業務および財産の監査を実施し、監査報告書を理事会・評議員会に提出する。

2. 活動内容

下記のとおり4回の理事会を開催した。

- 1) 2012年5月28日(月) コートヤード・マリオット銀座東武ホテル
理事10名出席、監事2名出席
決議事項
①2011年度決算の承認 ②同決算の監査報告 ③2013年度入学生の学納金 ④寄附行為の変更 ⑤入学定員増および学則変更 ⑥役員・評議員の選任 ⑦日本私立大学協会評議員の変更 ⑧大口寄付について
- 2) 2012年6月6日(月) 聖路加看護大学
理事11名出席、監事2名出席
決議事項 ①2013年度入学検定料変更について
- 3) 2012年9月28日(金) コートヤード・マリオット銀座東武ホテル
理事11名出席、監事1名出席、1名欠席
決議事項
①寄附行為の変更 ②規程改定 ③事務局長人事 ④理事・評議員の選任 ⑤理事長選任 ⑥理事長代行者の決定
- 4) 2013年2月27日(水) コートヤード・マリオット銀座東武ホテル
理事11名出席(うち3名委任状出席)、監事2名出席
決議事項
①前回理事会における決議事項の訂正 ②理事の再任および理事長の選任 ③寄附行為変更の申請

時期 ④2013年度学費 ⑤2013年度事業計画・予算案の承認 ⑥規程制定および改定 ⑦ふじみ野市とのクラブハウス使用貸借契約

3. 課題

- ①法人事務局体制の整備による、理事会運営の強化
- ②聖路加国際病院との一体化計画を踏まえ、寄附行為改定をはじめとする重要案件の検討ならびに意思決定。

2 常任理事会

1. 役割・職務

- 1) 常任理事会規程に規定されている。
理事会の委任に基づき経営の基本方針、全般的業務執行方針、並びに重要な業務の計画・実施に関し協議し、理事会で付議する事項を除き審議し決定する。
- 2) 常任理事会の付議事項については、同規程別表1に規定されている。

2. 活動内容

下記のとおり3回の常任理事会を開催した。

- 1) 第27回 2012年5月23日(水) 会議室
審議事項
①2011年度決算案②同決算の監査報告 ③2013年度入学生の学納金 ④寄附行為の変更 ⑤入学定員増および学則変更 ⑥役員・評議員の選任 ⑦日本私立大学協会評議員の変更 ⑧大口寄付について
- 2) 第28回 2012年9月20日(木) 会議室
審議事項
①寄附行為の変更 ②規程改定 ③事務局長人事 ④理事・評議員の選任 ⑤理事長選任 ⑥理事長代行者の決定
- 3) 第29回 2013年2月18日(月) 会議室
審議事項
①前回理事会における決議事項の訂正 ②理事の再任および理事長の選任 ③寄附行為変更の申請時期 ④2013年度学費 ⑤2013年度事業計画・予

算案の承認 ⑥規程制定および改定 ⑦ふじみ野市とのクラブハウス使用貸借契約

3. 課題

- ・寄附行為における常任理事会の位置づけの明確化
- ・日常の経営ならびに管理運営に関する意思決定を行う大学運営会議を12月に設置したことから、大学運営会議と常任理事会の、それぞれの役割と機能、ならびに組織上の位置づけを整理する必要がある。

3 評議員会

- 1) 評議員会は、寄附行為第18条から第24条に規定されている。
- 2) 寄附行為に規定された諮問事項について、理事長は評議員会の意見を聞かなければならない。諮問事項とは、予算、借入金、基本財産の処分、事業計画、予算外の新たな義務負担または権利の放棄、寄附行為の変更、合併、解散、寄附金品の募集等である。
- 3) 法人業務、財産の状況、役員の業務執行状況について意見を述べ、もしくはその諮問に答え、または役員から報告を徴することができる。

2. 活動内容

下記のとおり3回の評議員会を開催した。

- 1) 2012年5月28日(月) コートヤード・マリオット 銀座東武ホテル
評議員25名出席、監事2名出席
決議事項
①2011年度決算の承認 ②同決算の監査報告
③2013年度入学生の学納金 ④寄附行為の変更
⑤入学定員増および学則変更 ⑥役員・評議員の選任 ⑦日本私立大学協会評議員の変更 ⑧大口寄付について
- 2) 2012年9月28日(金) コートヤード・マリオット 銀座東武ホテル
評議員26名出席(うち5名委任状出席)、監事1名出席、1名欠席
決議事項
①規程改定 ②事務局長人事 ③理事・評議員の選任
- 3) 2013年2月27日(水) コートヤード・マリオット

銀座東武ホテル

評議員27名出席(うち6名委任状出席)、監事2名出席

決議事項

- ①前回理事会における決議事項の訂正 ②理事の再任および理事長の選任 ③寄附行為変更の申請時期 ④2013年度学費 ⑤2013年度事業計画・予算案の承認 ⑥規程制定および改定 ⑦ふじみ野市とのクラブハウス使用貸借契約

3. 課題

法人に関する重要事項の審議、理事長への意見具中はしっかりと行われている。今年度の評議員会で示された主な課題は以下の通りである。

- ・常任理事会と大学運営会議の法人組織における位置づけの検討
- ・寄附行為改定による評議員数見直しの実施時期

4 法人事務局

1. 役割・職務

「学校法人聖路加看護学園法人事務組織規程」に定められている。

2. 活動内容

- 1) 理事長印及び学長印の公印取扱いに関し規程を作成し、2013年2月27日の理事会承認を得た。
- 2) 理事会(2012年5月28日・9月28日・2013年2月27日)、評議員会(2012年5月28日・9月28日・2013年2月27日)、常任理事会(2012年5月23日・9月20日・2013年2月18日)の事務局を担った。
- 3) 入学検定料の値上げを実施。2013年2月8日に文部科学省へ届出完了。
- 4) 法人の重要文書の保管に関し規程を作成し、2013年2月27日の理事会承認を得た。
- 5) 法人に関するすべての規程の構造と内容を整理。2013年2月27日の理事会承認を得た。
- 6) 聖路加国際病院との一体化を計画し、文部科学省との折衝を開始。
- 7) 寄付金募集に関し、総務課からの業務引き継ぎを開始。
- 8) 法人全体の組織図を再編し、2013年2月27日の理事会承認を得た。

3. 課題

- 1) 聖路加国際病院との一体化をできる限り早期に実現する。
- 2) 将来構想委員会にて2012年度に構築した将来構想の実現に向け、ハード・ソフト両面における計画立案を行う。
- 3) 2020年の創立100周年に向けた事業構想を立案すべく、委員会を設置し検討を開始する。
- 4) 寄付管理を新しくデザインする。

月27日の理事会で承認を得た。

- 5) 組織図の改編案を作成。2013年2月27日の理事会で承認を得た。
- 6) 聖路加国際病院との一体化計画案を作成し、内容を検討した。
- 7) 2014年度学納金の検討を開始。
- 8) 就業規則の改定、36協定の締結を完了。
- 9) 校章・卒業徽章等の商標登録出願。
- 10) ふじみ野市との聖路加看護学園クラブハウス使用貸借契約の締結を検討し、2013年2月27日の理事会で承認を得た。
- 11) 志願者数の増加策を検討。入試改革プロジェクトの発足を検討した。

5 大学運営会議

1. 役割・職務

「学校法人聖路加看護学園大学運営会議細則」に定められている。

2. 活動内容

- 1) 2012年11月に当会を発足。2013年2月27日の理事会へ規程を提出。2012年度は7回開催。
- 2) 2013年度予算を編成し、2013年2月27日の理事会で承認を得た。
- 3) 月次予算執行状況把握と寄付金募集管理を開始。
- 4) すべての規程の構造・改廃等を見直し、2013年2

3. 課題

- 1) 常任理事会との組織役割の再検討
- 2) 中長期計画の策定

6 募金活動推進委員会

1. 役割・職務

募金計画を立て、募金活動の推進を行う。

2010年9月に評議員会・理事会決定され本委員会を設置、同年10月に第1回委員会を開催し、活動を開始した。

2. 活動内容

2012年度には5度の委員会を開催した。議事内容は以下のとおり。

回	年月日	報告内容および決定事項
第12回	2012年 4月20日(金)	① 2012年度「募金カレンダー」を作成し活動予定を確認 ② 年末頃より法人などの大口寄付を働きかけること ③ 細分化された募金目的をわかりやすく統合すること ④ 募金の使途を明確化すること ⑤ 高額寄付者の銘板を作成し掲示すること
第13回	6月19日(火)	① 施設設備資金、教育研究資金など長く保持した目的指定寄付金を早く使用することを申し合わせ ② 銘板の設置について(株)ソーリツにデザインを依頼 ③ ゾンネンシャイン財団の特待生奨学金を対象とした寄付の検討、また「遺贈」についての検討
第14回	9月5日(水)	① 学園ニュース 300 記念号に広告記事「サポーター募金募集について」を掲載 ② 寄付目的を統合した新しいパンフレットを作成
第15回	11月5日(月)	① 2号館1階に「未来の助産師基金寄付者芳名」板を設置

		② 10月22日に開催された「聖路加市民アカデミー」で新パンフレットを来場者350名に配付 ③ 同窓会が12月初旬に発送する「同窓会だより」に同封してサポーター募金募集キットを会員3,050名に発送 ④ 本館1階ロビーに掲示する「寄付者銘板」のデザインを決定（記載するのは、2009年度以降で累計10万円以上の寄付をいただいた個人・法人） ⑤ 12月7日学園ニュース301号に同封して、学生ご家族510名に対して新パンフレットを発送 ⑥ 聖路加国際病院にも新パンフレットを備え置いた
第16回	2013年 1月8日(火)	① 「寄付者銘板」を1月18日に設置 ② サポーター申込者が当面の目標であった100名を突破

3. 課題

- ① 法人などの大口寄付者への働きかけが不十分であったこと。これについては創立100周年となる2020年に向けて準備すること。
- ② 聖路加国際病院の協力も得て遺贈などに取り組むべきこと。
- ③ 寄付者が寄付金の税額控除を受けられるための本

学園の認可資格を維持継続するためには、各年度の平均で100名以上の募金者（役員や重複寄付者を除く）を確保することが必要であり、今後も地道なサポーターの獲得の活動が必要である。

本委員会は第16回で終了し、次年度以降、募金事務は従来の総務課から法人事務局が引き継ぐことになった。

4. データ

2012年度寄付金実績

目的種別	件	金額(千円)	
施設設備充実基金	4	1,300	
教育・研究振興資金	3	1,050	
教育研究維持充実資金	34	10,010	
大学史編纂・自校教育・資料保存展示事業資金	10	3,672	
未来の助産師奨学基金	8	2,780	
青木奨学金・ウバウバ奨学金	3	2,260	
寄付講座・共同研究事業(受配者指定寄付)	6	20,400	
指定寄付金(研究者・研究室指定)	1	4,807	
るかなび基金(聖路加健康ナビスポット)	2	410	
指定寄付金(その他)	1	300	
遺贈	1	10,000	
サポーター募金	91	2,050	入金ベース
現物寄付	147	4,332	
合計	311	63,371	

サポーターの数および申込者数および金額

	人	人数%	千円	金額%
同窓生(教職員・評議員も含む)	65	63%	1,650	70.5%
教職員(元も含む)	12	12%	320	13.7%
在学生家族	18	17%	230	9.8%
役員・評議員(元も含む)	5	5%	100	4.3%
るかなび	2	2%	20	0.9%
認定課程聴講生	1	1%	10	0.4%
その他	1	1%	10	0.4%
計	104	100%	2,340	100.0%

Ⅱ 大学決議機関

1 教授会

1. 役割・職務（学則第40条）

教授会は次の事項を審議する。

- 1) 学則に関する事項
- 2) 教育課程に関する事項
- 3) 研究および教授に関する事項
- 4) 学生の入学、退学、転入学、休学、編入学、再入学、卒業および賞罰に関する事項
- 5) その他学長が諮問する事項

2. 活動内容

定例会（11回）、臨時会（5回）を開催し、上記の審議事項の他に、以下について話し合を行った。

- 1) グローバル人材育成推進事業にプロジェクトを組み、申請することを決めた。
- 2) 理事長からの提案により、学部入学定員を60名から75名とし、収容定員を300名から360名に変更する定員増が承認され理事会に諮った。
- 3) 本学の保健師教育を考える会を発足し、大学院に新たなヘルスプロモーション専攻を設置し、保健師免許取得を大学院に移行すること、養護教諭専修免許状取得コースを設置すること等の提案があり、検討を行った。
- 4) 入試委員会からの指定校推薦入学試験復活についての提案を検討し、2014年度入試より聖公会関係の学校10校の指定校推薦を実施することを決定した。
- 5) 情報システム委員会から本学の情報システムを次年度以降クラウド化することの提案があり、決定した。
- 6) 科目ナンバリング、GPA、アドバイザー制の導入について検討し、2013年度入学生より科目ナンバリング、GPAを導入することになった。
- 7) 2002年度に10年間の期限限定で制度化し、2003年度より開始された看護系の講師・助教授(当時)を対象とした博士号取得促進策が、2012年度末で終了した。支援策を取得した教員は10年間で6名であった。4名は本学大学院へ進学、2名は論文執筆のための休職の支援策を受けた。大学院進学者は1年目の一部業務免除（4名）、論文作成のための休職（2名）を

取得した。このうち学位を取得したのは3名である。

看護系教員の博士取得率は、制度を開始した2003年度は34.2%であったが、本年度末は58.0%に増加した。また開始当時在職していた支援対象者13名のうち12名(92.3%)が博士号取得に向けた活動を行っていた。以上から、本制度は教員の博士取得促進に一定の効果があったと評価できる。

- 8) 規程全般の構造の見直しを行い、下記規程の改訂を行った。

国際化推進委員会規程、認定看護師教育課程規則、大学史編纂・資料室規程、大学史編纂・資料室委員会規程、認定看護師教育課程規則、認定看護管理者（ファーストレベル・セカンドレベル）運営委員会規則、教授会規程、学部長任用細則、聖路加看護大学予算委員会細則、聖路加看護大学 FSDS 委員会細則、聖路加看護大学広報委員会細則。

3. 課題

- 1) 新入生の学生数増加に伴い、教室等の使用や整備上の問題点が挙げられている。教室等の整備について、徐々にではあるが視聴覚の整備、机の増設等を実施したが、改善されたとは言い難い状況である。さらに、次年度は入学定員増となり80名の1年生が入学予定であるため、さらなる検討が必要である。
- 2) 成人看護学（慢性）の教授人事が継続審議となっていたが、継続が難しく、人事委員会の活動を停止することになった。さらに、助教の退任に伴う後任人事が新年度の開始時に決まっていない状況となった。
- 3) 次年度教授会メンバーは、4名増の40名となる予定である。現在の大会議室では手狭となり、早急に開催場所を検討する必要がある。

2 研究科委員会

1. 役割・職務（研究科委員会規程による）

- 1) 大学院担当教員の人事に関する事項
- 2) 入学・修了・休学・退学・転学・留学・賞罰その他学生の身分に関する事項
- 3) 教育課程および研究指導に関する事項

-
- 4) 学位の審査に関する事項
 - 5) その他大学院に関する事項

2. 活動内容

定例委員会（11回）、臨時委員会（7回）を開催し、上記の職務を遂行した。なお、学籍、入試、学位授与のデータに関してはⅢ-2を参照のこと。

- 1) 次年度の非常勤講師、客員教授の選任を行った。
- 2) 修士課程推薦入試、看護学専攻入試Ⅰ期・Ⅱ期、ウィメンズヘルス助産学専攻入試Ⅰ期、博士後期課程入試1次・2次を施行し、入学者を決定した。修了の認定を行い、修了者を決定した。学生からの休学、退学の願いを受けて、審議決定した。
- 3) チームビルディング力強化科目を実施した（詳細は2-(4)）。次年度のカリキュラムと担当者、時間割を決定した。次年度博士後期課程に遺伝看護学を開設する手続きを行うことを決定した。
- 4) 修士課程論文コースでは論文審査と最終試験、上級実践コースは最終試験の委員を決定し、実施した。博士論文審査委員会を設置し、実施した。研究計画書の審査委員会を設置、実施した。論文博士について、資格審査、予備審査を実施した。

- 5) 厚生労働省による看護師特定能力養成調査試行事業に、小児看護学、老年看護学、精神看護学、周麻酔看護学の各上級実践コースが参加した。

保健師養成課程の大学院への移行について検討した。

研究倫理審査委員会からの提案を受け、修士論文計画書審査の方法の変更を決定した。

3. 課題

- 1) 客員教授の条件等の整備が課題である。
- 2) 聖路加国際病院看護師の本研究科への入学を促進することが課題である。
- 3) 多様なコースへの対応を、教員の配置、授業料を含めて見直しが必要である。博士課程の就業年限を大幅に超える学生への指導が課題である。
- 4) 博士論文の Web 公開への変更を受け、学位授与と雑誌投稿との関係を見直す必要がある。
- 5) 看護師特定能力養成調査試行事業に関しては、本学のカリキュラムとして運用を継続するが、法制化との関連を見極めていく必要がある。保健師養成課程の大学院への移行については次年度継続審議となっている。

Ⅲ 教学組織

1 看護学部・看護学科

【在籍者】

収容定員に対する在籍者数

(2012.4 現在)

学 年	収容定員	現 員 数	休学者数 (内数)	留年者数 (内数)
1 年	60	77	0	2
2 年	80	90	0	0
3 年	80	105	0	1
4 年	80	98	0	5
計	300	370 (123.3%)	0 (0%)	8 (2.2%)

【入学者】

学 部

《 》…男子内数

	学部一般	推薦/・帰国生入学		学士編入学	科目等履修生
募集要項配布期間	2012年8月～ 2013年1月	2012年7月～11月		2012年7月～9月	2013年2月～ 2013年3月
願書受付期間	2013年1月7日～ 1月21日	2012年10月15日～ 10月22日		2012年9月3日～ 9月7日	2013年2月20日～ 3月6日
募 集 人 員	75 (推薦・帰国生入学 15名程度を含む)	【推薦】 15	【帰国生】 若干名	20	各科目若干名
志願者数(倍率)	388 (5.2倍) 《16》	36 (2.4倍) 《0》	2 《0》	39 (2.0倍) 《3》	1
受 験 者 数	380 (5.1倍) 《16》	36 (2.4倍) 《0》	2 《0》	36 (1.8倍) 《3》	1
合 格 者 数	1次試験 183 《6》 2次試験 91 《3》	16 《0》	2 《0》	20 《2》	1
補 欠 者 数	51			3 《0》	
入学者数	62 《1》	16 《0》	2 《0》	19 《2》	

【卒業生】

	学部一般	編入生
卒業生数	72	22
入学時人数	75	20
上級から加わる	2	3
下級へ下がる	5	1
退学	0	0

【平均修得単位数】

平均修得単位数（学士編入生を除く）

		卒業所要 単位数	平均取得 単位数	最高取得 単位数	最低取得 単位数
教養科目	教養科目		25	50	18
	外国語科目	10	10	13	10
	小計	28	35	60	28
基礎科目		32	32	32	32
専門科目		69	72	77	69
総計		128	137	169	130

【国家試験結果】

国家試験結果

	受験者 (名)	合格者 (名)	合格率 (%)
保健師	92	90	97.8
看護師	93	91	97.8

【学部科目等履修生】

科目等履修生開講科目および履修者数(なし)

	授業科目	単位数
前期	看護提供システムⅠ	2
	看護技術論	1
	老年看護学（基礎）	1
	急性期看護論Ⅲ	1
	学校保健	2
	養護概説	2
	看護研究Ⅰ	2
	看護ゼミナール（がん看護）	1
	看護ゼミナール（緩和ケア）	1
	看護ゼミナール（老年看護学実践ゼミ）	1
後期	教育方法の研究	2
	教育制度論	2
	カウンセリング概論	2
	生涯発達論（成人・老年）	2
	老年看護学（急性期実践方法）	1
	看護政策論	2
	看護研究Ⅱ	3

【実習施設】

実習施設一覧表

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
1	コミュニケーション実習	1	聖路加国際病院	6	臨地実習A	2	神奈川県立 こども医療センター
2	基礎看護技術実習	1	聖路加国際病院	7	臨地実習B	2	聖路加国際病院
3	看護展開論実習	1	聖路加国際病院	8	臨地実習B	2	東府中病院
4	臨地実習A	2	聖路加国際病院	9	臨地実習C	2	聖路加国際病院
5	臨地実習A	2	済生会横浜市東部病院	10	臨地実習D	2	聖路加国際病院

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
11	臨地実習E	2	永生会永生病院	43	臨地実習G	3	すみだ訪問看護 ステーション
12	臨地実習E	2	救世軍ブース記念病院	44	臨地実習G	3	医師会立品川区 訪問看護ステーション
13	臨地実習E	2	ブース記念老人保健施設 グレイス	45	臨地実習G	3	セコムとしま 訪問看護ステーション
14	臨地実習E	2	介護老人保健施設 リハポート明石	46	臨地実習G	3	セコム世田谷 訪問看護ステーション
15	臨地実習E	2	永生会老人保健施設 イマジン	47	臨地実習G	3	セコム田園調布 訪問看護ステーション
16	臨地実習F	2	東京武蔵野病院	48	臨地実習G	3	セコム吉祥寺 訪問看護ステーション
17	臨地実習G	3	杉並区荻窪 保健センター	49	臨地実習G	3	練馬区医師会立 訪問看護ステーション
18	臨地実習G	3	杉並区高井戸 保健センター	50	臨地実習G	3	自由が丘 訪問看護ステーション
19	臨地実習G	3	杉並区高円寺 保健センター	51	臨地実習G	3	白河訪問看護 ステーション
20	臨地実習G	3	杉並区上井草 保健センター	52	臨地実習G	3	板橋ロイヤル 訪問看護ステーション
21	臨地実習G	3	杉並区和泉 保健センター	53	臨地実習G	3	白十字訪問看護 ステーション
22	臨地実習G	3	豊島区池袋保健所	54	臨地実習G	3	あすか山訪問看護 ステーション
23	臨地実習G	3	豊島区長崎保健相談所	55	臨地実習G	3	訪問看護ステーション けせら
24	臨地実習G	3	千代田区 千代田保健所	56	臨地実習G	3	訪問看護ステーション みけ
25	臨地実習G	3	中央区中央区保健所	57	臨地実習G	3	おもて参道 訪問看護ステーション
26	臨地実習G	3	中央区月島 保健センター	58	臨地実習G	3	城北訪問看護 ステーション
27	臨地実習G	3	中野区中部すこやか 福祉センター	59	臨地実習G	3	東電さわやか訪問看護 ステーション中野
28	臨地実習G	3	中野区北部すこやか 福祉センター	60	臨地実習G	3	浅草医師会立 訪問看護ステーション
29	臨地実習G	3	中野区南部すこやか 福祉センター	61	臨地実習G	3	岩本町訪問看護 ステーション
30	臨地実習G	3	中野区鷺宮すこやか 福祉センター	62	臨地実習G	3	新みさと訪問看護 ステーション
31	臨地実習G	3	中央区いきいき桜川	63	臨地実習G	3	河北杉並訪問看護 ステーション
32	臨地実習G	3	中央区いきいき浜町	64	臨地実習G	3	すみれ訪問看護 ステーション
33	臨地実習G	3	中央区いきいき勝どき	65	臨地実習G	3	桜台訪問看護 ステーション
34	臨地実習G	3	中央区築地児童館	66	総合実習	3	聖路加国際病院
35	臨地実習G	3	中央区新川児童館	67	総合実習	2	永生会永生病院
36	臨地実習G	3	中央区堀瑠町児童館	68	総合実習	2	ひやしんす城北地域 活動支援センターⅢ型
37	臨地実習G	3	中央区浜町児童館	69	総合実習	2	多摩たんぼぼ 訪問看護ステーション
38	臨地実習G	3	中央区佃児童館	70	総合実習	2	多摩たんぼぼ訪問看護 ステーションむれ
39	臨地実習G	3	中央区月島児童館	71	総合実習	2	多摩たんぼぼ訪問看護 ステーションむさしの
40	臨地実習G	3	中央区勝どき児童館	72	総合実習	2	東京武蔵野病院
41	臨地実習G	3	医師会立中央区 訪問看護ステーション	73	総合実習	2	中央区医師会立訪問看護 ステーションあかし
42	臨地実習G	3	滝野川病院訪問看護 ステーション	74	総合実習	2	訪問看護ステーション パリアン

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
75	総合実習	2	東京武蔵野病院	80	総合実習	2	ウパウパハウス 岡本助産院
76	総合実習	2	成育医療研究センター	81	総合実習	2	結核予防会結核研究所
77	総合実習	2	東邦大学医療センター 大森病院	82	総合実習	2	東芝ヒューマンアセットサー ビス(株)保健支援事業部
78	総合実習	2	齋藤助産院	83	総合実習	2	小鹿野町保健福祉 センター
79	総合実習	2	助産婦石村	84	総合実習	2	N T T 東日本首都圏 健康管理センター

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
1	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	西早稲田中学校	7	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	千葉県茂原市立 萩原小学校
2	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	大妻中野女子中学・ 高等学校	8	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	大谷口小学校
3	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京学芸大学 附属世田谷小学校	9	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	鎌倉女子大学初等部
4	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	山形大学教育学部 附属小学校	10	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	南陽小学校
5	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京学芸大学 附属竹早小学校	11	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	成蹊中学・高等学校
6	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	宇都宮大学教育学部 附属小学校				

Class of 2012 (2012年3月卒業) 総合看護・看護研究Ⅱタイトル一覧

学籍 番号	氏名	領域	指導教員	タイトル
09B01	相原 令奈	老年	梶井 文子	介護保険施設の看護師による摂食困難のある認知症高齢者に対する食事援助の工夫に関する文献検討
09B02	栗飯原綾佳	教育	堀 成美	HIV・AIDS 看護の場に於いて専門の医療通訳がないことで生じる問題と看護師の困難感 ～現行の制度と比較し、必要となる新たな支援策を考える～
09B03	秋葉恵里子	基礎	大久保暢子	小学校低学年の子どもが訴える疲労の原因とその背景
09B04	秋葉友紀子	母性・ 助産学	蛭田 明子	周産期喪失後の次子妊娠における母親の不安への対処に関する文献検討
09B05	秋山 奈菜	母性・ 助産学	飯田真理子	母子分離状態にある母親の看護ニーズと看護介入の実際に関する文献検討 ～母親と医療者、双方の視点から～
09B06	阿部 仁美	母性・ 助産学	飯田真理子	思春期への性教育の現状に関する文献検討 ～助産師の介入の必要性～
09B07	荒川由里加	精神	木戸 芳史	仮設住宅入居者のメンタルヘルスに関する文献検討
09B08	安藤 瞳	母性・ 助産学	實崎 美奈	不妊症に関する看護学生の知識と意識
09B09	飯室 百代	老年	亀井 智子	高齢者ケア施設で働く介護職と看護職の連携・協働の認識に関する文献検討
09B11	石川 智美	国際	長松 康子	フィリピンのスラム街におけるティーンエイジャーの性についての意識調査
09B13	磯田 彩	学校 保健	岩辺 京子	保健室登校および別室登校における養護教諭の支援の在り方
09B14	井上 恵	教養	鶴若 麻理	経済連携協定(EPA)に基づく外国人看護師に求められる能力 ～高齢者へのインタビューを通して～
09B15	岩井 恵	母性・ 助産学	實崎 美奈	不妊治療後妊婦への妊娠初期におけるケアの様相 ～助産師・不妊症看護認定看護師へのインタビューを通して～
09B16	江畑 萌	学校 保健	三森 寧子	入院中の子どもの思い ～学童期の子どもに焦点を当てて～
09B17	遠藤ななみ	管理	倉岡有美子	“生き生き”と働く新卒看護師の体験に関する研究

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タ イ ト ル
09B18	大川 智子	学校 保健	鶴若 麻理	教員から見た児童のストレスとその支援
09B19	大城 友希	母性・ 遺伝	有森 直子	ダウン症候群児・者の健康手帳のニーズと普及に関する課題
09B20	太田 雄馬	教養	菊田 文夫	小学生の人命救助に関する意識・能力の開発：いのちの授業を通して
09B21	奥山ユリア	学校 保健	大久保暢子	小学生中高学年を対象とした家庭におけるストレスと生活習慣の関連性
09B22	押尾 麻希	老年	梶井 文子	回復期リハビリテーション病棟における認知機能障害を有する高齢者に対する退院支援 ～家族に着目したアセスメントの視点と支援の内容～
09B23	小田 薫	学校 保健	岩辺 京子	普通学級に在籍する発達障害児への支援で学校が求められるもの：学校内の組織と養護教諭の働きを中心に
09B24	片岡 香理	学校 保健	岩辺 京子	養護教諭に求められる子どもへの対応 ～子どもたちの成長・発達に効果的な対応や言葉かけを中心として～
09B25	川島 綾夏	学校 保健	伊東美奈子	養護教諭が保健日よりで伝えていること ～保健日よりの実態調査を通じて～
09B26	川端 涼子	学校 保健	岩辺 京子	子どもの出すサインにどう気づき、対応するか ～子どもとの関わりにおいて、養護教諭に求められる要素は何か～
09B27	川又 美波	教育	堀 成美	バングラディシュにおける思春期女子学生への月経教育の現状と今後の課題
09B28	木村 春香	教育	堀 成美	住所不定者に対して健康相談を行う団体に関わるボランティアへの結核感染対策の在り方
09B29	後藤 千恵	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	婦人科がん術後に外来受診を行っている女性のセクシュアリティに対する看護の実態と今後の課題
09B30	駒田茉莉子	母性・ 助産学	新福 洋子	初産婦の出産・育児に関する情報収集・活用の実態とそれに影響する因子～出産・育児のビジョンの視点から～
09B31	小宮山早紀	管理	倉岡有美子	専門看護師の仕事と結婚・出産・育児などのライフイベントの両立についての質的研究
09B32	齋藤野乃花	基礎	蜂ヶ崎令子	A 大学看護学部第4学年の病院実習における化粧に関する意識調査 ～学生は誰の評価を気にしてどのような化粧をしているのか～
09B33	佐々木浩子	基礎	大橋久美子	集中治療領域における、患者の安楽を目的としたタッチの実施状況
09B34	指旗 理奈	学校 保健	岩辺 京子	食物アレルギーの現状と学校・養護教諭に求められる課題
09B35	佐藤さやか	教育	堀 成美	OTC 医薬品の日米比較 ～セルフメディケーションに関する意識調査を通して～
09B36	島田 麻由	地域	小林 真朝	職場におけるメンタルヘルス不調の一次予防に対する取り組みの現状と課題～職場でのメンタルヘルス対策に関する文献検討から～
09B37	島津 頌子	精神	木戸 芳史	統合失調症患者の服薬アドヒアランス向上を目的として看護師が行う支援方法に関する文献検討
09B38	清水亜沙子	成人 (急性期)	林 直子 桜井 文乃	人工呼吸器を装着している患者とのコミュニケーションにおける看護師の体験
09B39	清水絵理子	学校 保健	三森 寧子	思春期を乗り越えるための支援を考える ～ソーシャルサポートに焦点を当てて～
09B40	菅谷 佳那	地域	小林 真朝	精神疾患を抱えたホームレスに対する受診支援の現状と課題 インタビューからの考察
09B41	鈴木 祥子	母性・ 遺伝	有森 直子	障がい者のきょうだいを受ける影響ときょうだい支援に関する研究 ～文献検討を通して～
09B42	鈴木 帆奈	成人 (急性期)	宇都宮明美	看護学生のBLS学習経験後における一次救命処置実施に対する認識 ～傷病者に近づくときに生じるためらいの要因と看護基礎教育における課題～
09B43	須田奈津美	母性・ 遺伝	有森 直子	先天異常に関する超音波診断についての現状とケアに関する文献検討
09B44	須藤紗緒里	基礎	菱沼 典子	軽度から中等度認知症高齢者における回想法の効果 ～認知機能低下進行抑制の効果に焦点を当てた文献検討～

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タ イ ト ル
09B45	春原野百合	精神	角田 秋	統合失調症の長期入院患者に対して病棟看護師が行う退院支援の現状と課題
09B46	瀬尾 沙織	精神	角田 秋	統合失調症患者家族における家族心理教育の教育形態別の効果の相違について ～単家族心理教育と複合家族心理教育の比較～
09B47	高木 慶子	老年	松谷美和子	認知症介護者の精神的負担 ～介護体験の「語り」から読み解く精神的負担の原因と強み～
09B48	高取 由美	母性・ 助産学	蛭田 明子	出産後すぐにNICUに入院となった子どもを亡くした父親がセルフヘルプグループに参加すること
09B49	高橋 奈弓	老年	佐居 由美	要介護高齢者の「思い」に関する文献的考察
09B50	高橋 裕美	地域	小野若菜子	在宅での看取りに向けた看護支援の現状と課題についての文献検討
09B51	瀧崎 琴乃	成人 (急性期)	池口 佳子	手術室入室から麻酔導入時における患者の精神的苦痛緩和に関する文献検討
09B52	西川 来実	成人 (慢性期)	高田 幸江	在宅療養をしている末期がん患者の家族に対する看護師のデスエデュケーション
09B53	野島 実来	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	ホルモン療法を受ける乳がん患者の体験と看護支援の実態
09B54	早川 香織	母性・ 助産学	實崎 美奈	不妊治療後に妊娠・出産した女性の心理や特徴に関する文献検討 ～看護についての一考察～
09B55	久永 仁美	管理	中村 綾子	一般病棟における音環境を考える ～医療機器のアラーム音に着目して～
09B56	房野紗矢子	小児	小野 智美	入院病棟でダウン症候群を持つ子どもと関わる際に新人看護師が経験する困難とその解決方法
09B57	船木 真理	老年	千吉良綾子	高齢者が介護予防運動教室参加修了後も運動を継続するうえで重要な要因について
09B58	細川 舞子	母性・ 助産学	新福 洋子	産後育児期の性生活に関する夫婦間の認識の相違についての文献検討
09B59	細川 らや	管理	倉岡有美子	新人看護師がプリセプターと良好な関係を築く方法の検討 ～就職を控えた看護学生が最終学年での実習中にプリセプターと良い関係を築けたと認識した経験を通して～
09B60	松岡 瑛里	成人	池口 佳子	術前の患者における看護の役割と取り組みに関する文献的考察
09B61	松本めぐみ	老年	亀井 智子	特別養護老人ホームにおいて吸引と経管栄養を行う看護職員と介護職員の思いと連携の実態
09B62	宮川 智帆	管理/教育 (災害看護)	中村 綾子	聖路加看護大学における災害時の学生ボランティア活動の実態
09B63	向 真理	管理/ 教育	倉岡有美子	看護系大学における看護職の労働環境に関する教育の内容・方法の探究
09B65	両角 捺希	老年	千吉良綾子	認知症女性高齢者に化粧療法を行うことで得られる効果とその介入方法に関する文献検討
09B66	矢澤 寛子	老年	梶井 文子	胃瘻造設を選択しなかった患者とその家族への看護援助とその困難
09B67	山内 麻衣	地域	大森 純子	保健師が自殺予防対策に着手するにあたっての障壁
09B68	山口保菜未	成人 (急性期)	宇都宮明美	救急領域に従事する看護師のストレスとその対処方法についての文献検討
09B69	山田 貴子	地域	小野若菜子	農村地域で生活を続ける高齢者夫婦の思い
09B70	山田 羽純	成人 (急性期)	宇都宮明美	クリティカルケア領域において看護師が抱く倫理的ジレンマに関する文献検討
09B71	湯浅麻衣子	老年	千吉良綾子	認知症啓発活動が認知症高齢者の家族に与える影響について
09B72	横林 典子	地域	小野若菜子	脳血管障害者と家族が在宅療養を継続するための支援に関する文献検討

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タ イ ト ル
09B73	米内 香織	母性・ 遺伝	有森 直子	遺伝看護教育の現状と課題について
09B74	和田真奈美	がん	林 直子	認知症を有するがん患者に対する緩和ケアの現状と課題
09B75	分目 早織	心理学	廣瀬 清人	昔話は子どもの心理発達にどのような影響を与えるのか
07B69	吉田侑香莉	管理	中村 綾子	臨地実習における指導者-学生間の相互作用に関する文献研究 ～指導者と学生を支える施策についての一考察～
08B31	白岩 憲子	地域	大森 純子	精神的な不調を抱えた人とその家族が支援を受けるまでに感じている困難
10B86	安達 麻衣	母性・ 助産学	森 明子	産褥早期の女性に対する子守唄伝承プログラムの試み
10B87	岩坂 典子	管理	堀 成美	途上国における日本企業のCSR活動と保健医療との相乗効果 ～バングラディシュの女性へのインタビューを通じて～
10B88	岩原 未沙	成人 (急性期)	宇都宮明美	救急患者領域において患者の予期せぬ死に直面した家族の悲嘆ケアの現状と課題
10B89	宇野智英子	地域	小林 真朝	小規模事業所のメンタルヘルスにおける産業看護職の支援のあり方について～産業看護職2名のインタビューを通して～
10B90	大久保宇啓	精神	角田 秋	統合失調症患者の認知機能障害に対する看護ケアの現状および新たな看護ケアの提案
10B91	太田麻希子	地域	小野若菜子	災害発生に伴う在宅療養の課題と支援に関する文献検討
10B92	甲斐 晶子	教養	菱田 治子	看護学生の「医療通訳」に関する認知度調査
10B93	明松 真喜	老年	梶井 文子	看護職と介護職の協働における看護職の役割に関する文献検討
10B94	唐澤美由紀	教養・ 情報	中山 和弘	家族性大腸腺腫症患者のピアサポートとしてのインターネットコミュニティの機能と可能性
10B95	川野 嘉子	母性・ 遺伝	有森 直子	ダウン症候群児のセクシュアリティ教育に関する親の認識 ～『豊かなセクシュアリティを育むために』講演参加者を対象に～
10B96	北西 恵	地域	大森 純子	児童虐待に関わる行政保健師と児童相談所職員の思いにある共通点と相違点からみえてくるもの ～連携強化の構築に向けて～
10B97	國分 綾香	精神	大橋 明子	がん看護におけるリエゾンナースの介入の実際とその成果 ～直接ケアとコンサルテーション、調整に焦点をあてて～
10B98	小林麻由子	教養	鶴若 麻理	看護大学生が臨床実習で遭遇した倫理的問題を教員に相談しない要因
10B99	近藤 優子	地域	大森 純子	行政機関における保健師が行う育児不安を抱える母親への心のケアの実践知～保健師へのインタビューを通して～
10B100	榎藤 尚子	母性・ 遺伝	有森 直子	学童期ダウン症候群児への音楽を用いた療育プログラムの実施 ～親の会と看護学生の協働を通して～
10B101	佐々木美和	成人 (慢性期)	川端 愛	外来化学療法を受ける再発・転移のあるがん患者の家族に対して外来看護師が行う援助の検討
10B102	武田 晶子	地域	麻原きよみ	労働者の抑うつと生活習慣の関連についての文献検討
10B103	谷口絵里奈	教養・ 情報	中山 和弘	ヘルスコミュニケーションを促すための医療者及び患者・市民向け Web コンテンツ作成
10B104	藤井亜紀子	教養・ 情報	中山 和弘	受診前の人々が糖尿病に関する情報源として遭遇する検索上位サイトの信頼性と課題
10B105	松井香保里	国際	長松 康子	フィリピンスラム地区の妊産婦の食事内容及び栄養に対する意識について
07B81	竹内 博美	教養・ 情報	中山 和弘	医療の現場に『ナラティブ』という視点を生かす意義 ～看護師・患者間のコミュニケーションギャップの実際を通して～
09B88	高橋 里沙	学校 保健	三森 寧子	精神疾患を持つ母親と生活する子どもへの支援方法の検討 ～都内公立中学校に勤める養護教諭の関わりから～
09B91	アンプルズ麻子	管理	中村 綾子	子育てをしながら新人看護職として就職した女性の体験

【学部選択科目履修状況】

(新カリキュラム)

		授業科目	学年	人数
教養科目	人間と文化	キリスト教倫理	1年	2
		音楽	1・2年	44
		美術	1・2年	20
		文学	1・2年	37
		哲学	1年	13
		倫理学	1・2年	15
		宗教学	1・2年	9
	人間と社会	歴史学	1・2年	2
		法学（日本国憲法）	1年	93
		教育原理	1年	60
		教育方法の研究	1年	25
		社会学	1年	50
		心理学	1年	33
		教育制度論	2年	14
		カウンセリング概論	2年	22
		教職概論	2年	15
		女性学	2年	12
	人間と言語	国語表現法	2年	4
		選択英語Ⅰ	1・2年	0
		選択英語Ⅱ	2年	5

		授業科目	学年	人数
教養科目	人間と言語	海外語学演習	1・2年	22
		ドイツ語Ⅰ	1年	41
		ドイツ語Ⅱ	2年	1
		中国語	1・2年	14
	人間と情報	基礎統計学	1年	22
		生物学	1年	3
	人間と環境	物理学	1年	0
		化学	1年	開講せず
		体育Ⅰ	1年	75
	総合科目	体育Ⅱ	1・2年	69
		総合科目Ⅱ（健康科学）	1年	2
		総合科目Ⅲ （ボランティア活動学習）	1年	8
		総合科目Ⅳ（自校学習）	1年	16
		総合科目Ⅴ （国際交流演習）	1・2年	4
	専門科目	看護実践	国際看護学	1年

(旧カリキュラム)

		授業科目	学年	人数
基礎科目	人間と文化	倫理学	3年	0
		宗教学	3年	0
	人間と社会	法学(日本国憲法)	4年	8
		教育課程論	4年	14
		道徳及び特別活動論	4年	14
		生徒指導論	4年	13
	人間と言語	文献講読B	3年	13
		英語表現法ⅢーW	3年	0
		異文化コミュニケーション	3年	36
	人間と情報	統計学演習	4年	7
	体育	体育Ⅰ	3年	1
		体育Ⅱ	4年	10
	総合科目	総合科目Ⅳ (国際交流演習)	3・4年	2
	看護の基本	看護提供システムⅡ	4年	17
		看護技術論	4年	0
	人間の作用と環境の相強互化	生涯発達看護論Ⅲ	4年	開講せず
		家族発達看護論Ⅱ	4年	12
		地域看護論Ⅲ	4年	12
		学校保健	3年	34
		看護概説	4年	13

		授業科目	学年	人数
専門科目	人間相互作用の修正 と環境の修正	慢性期看護論Ⅲ	4年	2
		リハビリテーション看護論Ⅱ	4年	8
	人間の作用と環境の回復・保護 の相互	急性期看護論Ⅲ	4年	35
	看護学統合	看護研究Ⅱ	4年	90
		総合看護	4年	7
		看護ゼミナール(権利が脅かされやすい状況にある子どもと家族の看護)	4年	4
		看護ゼミナール(遺伝看護)	4年	9
		看護ゼミナール(看護教育)	4年	6
		看護ゼミナール(国際看護)	4年	5
		看護ゼミナール(老年看護実践)	4年	8
		看護ゼミナール(学校における救急処置)	4年	13
		看護ゼミナール(自校史演習)	4年	0
		看護ゼミナール(感染症看護)	4年	5
		看護ゼミナール(がん看護)	4年	4
		看護ゼミナール(緩和ケア)	4年	2
		看護ゼミナール(チームチャレンジ)	4年	13
		養護実習Ⅰ	4年	13
	養護実習Ⅱ	4年	13	

【立教大学全学共通カリキュラム】履修状況

授業科目	履修者数
平和と人権	1
朝鮮語圏の文化1	1

【立教大学科目履修状況】

	前期	後期
開講科目数	100	100
履修科目数	2	0
履修者数	2	0
単位習得率	100%	

(1)入試委員会

1. 役割・職務

- 1) 聖路加看護大学入試委員会規程により看護学部入学者選抜の実施に関する事項を審議し公正な方法で実施運営を図る。
- 2) 審議事項は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、入学者選抜方法の検討と選抜試験の実施、入学選抜に関する情報提供および情報開示、各委員（出題、校正、面接、採点）の人選、入学者選抜の統計、その他入学者選抜に関すること。重要事項は教授会の議を経て決定する。

2. 活動内容

- 1) 委員会は常設で定例会は原則毎月1回開催した。
- 2) マークシート方式導入に関する情報収集および検討の結果、読み取り・価格で今回は見合わせた。
- 3) 入試ミス防止のための第3者による入試問題チェックは2013年度学士編入学「生物」を従来の事後から事前へと時期を変更し、2013年度一般入試は従来の「理科（生物Ⅰ、化学Ⅰ）」の2科目から「英語」「国語」を追加した4科目で実施した。
- 4) 一般入試出願者増を図るため願書の書式を簡素化、2次試験内に調書記入を設けた。
- 5) 一般入試マニュアルの見直しを行い、入試ミス発見時の周知方法、事務局業務内容、災害時の対応も含めた改訂版を作成した。
- 6) 2013年度一般入試の出願速報を受付開始5日目、10日目、最終確定の計3回公表。
- 7) 2013年度推薦・帰国生入学試験受験者を対象に、本学を知った時期、受験勉強開始時期、本学来校回数等のアンケート調査を実施し集計結果を広報委員会と共有した。
- 8) 指定校推薦入試検討のため、首都圏の聖公会高校（立教池袋高、立教新座高、香蘭女学校、立教女学院）4校にヒアリングを行い、2014年度より全国の聖公会高等学校10校を対象（男子校を含む）とした指定校推薦入試を開始することになった。
- 9) 2013年度一般入試および2013年度学士編入学入試において情報開示を実施した。
- 10) 平成21年告示高等学校学習指導要領に対応した平成28年度一般入試（理科は平成27年度から）の出題教科・科目等について検討を続けた。

3. 課題

- 1) 新学習指導要領による一般入学試験の出題教科・科目の決定と公表
- 2) 一般入学1次試験会場確保に伴う費用削減
- 3) 他大学（看護系）との入試日程調整による受験生の確保
- 4) 広報室・広報委員会との連携
- 5) 募集要項へ記載可能な時期の奨学金制度の決定
- 6) 募集要項の取得資格に関する標記の確認

(2)カリキュラム運用委員会

1. 役割・職務（カリキュラム運用委員会規程）

本学の教育理念のもと、現行の看護学部教育課程の運用により編成に係る事項について所要の審議を行い、必要により教授会に上程する。具体的には、以下のことを審議する。

- 1) 教育課程の編成に関すること
- 2) 授業科目および実習の実施に関すること
- 3) 時間割の編成に関すること
- 4) 前各号に係る評価に関すること
- 5) 単位の認定に関すること
- 6) 非常勤講師、臨時助教の採用に関すること
- 7) 学生の履修状況に関すること
- 8) その他教育課程に関すること

2. 活動内容

定例会議11回および臨時2回の委員会を開催し、例年の上記審議事項の他に、以下について審議を行った。

- 1) 旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行期にあたり、旧カリキュラムを履修している学生の再履修となった科目についての履修の方法を検討した。
- 2) 「忌引届」の忌引期間を延長して解釈し使用した学生がいたことに対し、防止策や対応について話し合い、便覧記載や忌引届の用紙を変更した。
- 3) 現在利用している体育館が2年後に閉鎖となることが決まっており、保健師国家試験受験資格選択者や養護教諭1種免許に必修となる「体育」の履修方法について検討が行われた。
- 4) 養護教諭1種免許状取得希望者が現3年生は29名となり、その指導体制や対応について検討した。それに伴い、2013年度入学生より、養護教諭1種免許に係る実習科目の履修者を上限20名とする定員を設

けた。

5) 「栄養学」担当者から1単位(15時間)を2単位(30時間)に変更する提案があり、検討が行われた。

6) 保健師国家試験受験資格取得に関する科目の履修について、上限30名とし、上限を上回った場合は選抜を行うことの周知徹底がされていなかったため、2度の臨時の会議を開催し、対応を検討した。

その結果、2011年度および2012年度入学生に限り、保健師国家試験受験資格取得希望者は全員が公衆衛生看護学実習を履修出来ることとした。

そのため、履修希望予定者80名を見越し、次年度5月頃を目途に、その実習場の開拓と指導体制について検討を行っていくこととなった。

また、2013年度入学生からは、上限を30名とし、その選抜方法について検討を行い、選抜時点での全科目のGPAで決定することが決まった。

7) 科目ナンバリングについて提案があり、導入することが承認され、教授会に上程された。

8) GPAの導入について提案があり、アドバイザー制とともに検討され、教授会に上程された。

3. 課題

1) 保健師国家試験受験資格選択者の具体的な選抜方法について検討されたが、2011年度、2012年度入学生については希望者全員が履修できることとしたため、その実習がスムーズに実施できるよう対応を検討する必要がある。

2) 科目等履修生の養護実習1単位の開講について検討課題であったが、未だ検討されていない。科目等履修生の開講の在り方とともに引き続き検討が必要である。

3) 体育の開講について、早急に開講可能な方策を考える必要がある。

4) 新カリキュラムへの移行期であるため、引き続き円滑な運用が課題である。

①実習単位認定者会議

1. 役割・職務

各実習レベルの実習単位認定者による学生の指導を円滑にすすめるための連絡会議

2. 活動内容

1) 実習の積み重ね(レベルⅠ～Ⅲの実習目標と自己評価)について

新カリキュラムが適応された実習レベルⅠでは、事前に検討した実習目標や自己評価法に矛盾や問題が起きないか注意して実習を展開したが、課題は生じなかった。実習レベルⅡでは、実習レベル目標Ⅱ達成度自己評価用紙を活用して、個々の課題を次の領域実習やレベルⅢの実習に活かせるように継続して支援した。

2) 実習に対する学生個々のニーズへの支援について

実習前にアンケートを実施し、学生各自により示された実習に向けての課題や心配事を単位認定者のみが把握し、事前に学生と話し合ったり、健康管理室(木暮聖子保健師)と連携して対応策を考慮する等、各領域で実習環境を整えて支援した。効果的な支援法が次の実習領域や次のレベル実習に継続されるように会議で実習状況や課題を共有した。聴覚や身体内部に障がいがある学生に対する実習レベルⅠでの支援体制や実習状況について意見交換や情報共有を行った。

3) 実習でのハラスメントについて

担当者によって作成された資料をもとに学生に対して、全体の実習オリエンテーションにおいて説明し、さらに領域毎のオリエンテーションにおいても周知した。事態発生時には臨時会議を開催し、学生便覧(事故発生時の報告ルート)を基に対応する旨を再確認すると同時に、実習中や実習後に細かな観察や状況の把握に実習担当教員および実習単位認定者が務めることで早期の発見や対応を目指し、学生に不利益が起らないように支援すること等を話し合った。

4) 個人情報の取り扱いについて

近年は実習記録に電子記録媒体を使用する傾向が増加していることから、個人情報の管理に対する学生各自の徹底と、流出の際の厳格な対応について全体の実習オリエンテーションと領域毎のオリエンテーションで周知し、対象者の権利を厳守すると同時に、専門職を目指す学生の意識を向上させるように支援した。

5) 実習中の安全対策について

インシデントやヒヤリハットの事例を会議で共有し、対策の評価や予防策について意見交換を行っ

た。

3. 課題

- 1) 新カリキュラムによる実習レベルの目標や評価方法の妥当性を継続して検討する。
- 2) 実習におけるハラスメントへの予防策と早期発見に対する具体的な方法を検討する。
- 3) 個人情報の厳守に対する専門職としての意識を学生の中に育てていく必要がある。
- 4) 実習に関する学生個々のニーズを学生自身が対処できるよう、相談しやすい環境や支援法を検討していく。
- 5) 聴覚や身体内部に障がいがある学生の長期的実習における支援体制を整備する。

②臨地実習Ⅱ担当者会議

1. 役割・職務

臨地実習Ⅱの実習運営のための検討および運営

2. 活動内容

4月と6月に構成員で会議を開催し、臨地実習に向けた準備と指導體制について検討した。

1) 実習オリエンテーションの目的と内容の検討

臨地実習に向けて2回（7、9月）のオリエンテーション（以降オリとする）を行った。

7月オリは、教務と健康管理からのオリに加えて、各領域5分程度の概要説明と、その他の留意事項の説明とした。9月オリは、全体オリ、Smile for、感染管理、ハラスメントへの対応、健康管理、災害時の対応に加えて、各領域10～20分の説明を行った。

- (1) ハラスメントへの対応に関するオリ：暴力・ハラスメントの定義、それらが生じる要因、予防・回避する方法、即座の対処について配布資料を用いて説明した。
- (2) 災害時の対応に関するオリ：「災害時の学生行動マニュアル実習版」のフローチャートを使用して、災害の定義、緊急連絡先、安否確認システムへの状況報告のタイミングなどを説明した。

(3) 電子カルテシステム Smile for のオリ：電子カルテの活用方法と情報管理のあり方を含めてオリを行った。

2) 技術チェック

実習で静脈採血は滅多に実施されないため、比較的施行機会が多い血糖値測定採血を行い、全身清拭とリネン交換は時間内で終了するように短縮化した。

3) 新カリキュラムへ準備

2013年度は新カリキュラムとなり日程調整ができないため、全員での技術チェックは行わずに各領域で行うこととした。また全体としてはオリのみ7月に行うことに決定した。

3. 課題

- 1) オリ内容と進め方を検討する必要がある。

(3)実習室委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学の学生が必要な看護技術を修得するために実習室の環境を整える。

- 1) 地下および6階実習室と教材が、学生の学習環境として整うように管理・運営する。
- 2) 実習室自己学習支援員を配置し、学生の自己学習支援を行えるように依頼・調整する。

2. 活動内容（表1・2参照）

3. 課題

- 1) 新カリキュラム移行2年目となり、各科目の実習室利用状況がこれまでと異なる可能性がある。各種研究会等にも多く利用されている状況において、学生の自己学習環境の確保、整備が課題である。
- 2) 今年度は実習室支援員が継続に確保でき、学生に有効な学習環境が提供できた。2013年度も、週2回の支援員の継続確保は課題である。また、今年度は、支援員の活用をアピールし利用者の増加がみられた。学生の空き時間、実習室スケジュールに配慮した、勤務日時の調整が必要となると考える。

表1 2012年度実習室委員会活動内容

活動項目	活動内容
実習室支援員の確保・支援業務依頼・日程調整・勤務管理・学内周知	原則週2回(火・木)、各1名の支援員が在室できるように調整した。勤務時間は学生の空き時間を考慮し、午前中からの勤務日も設けた。掲示とメールで学内に周知した。
地下、6階の実習室インベントリー	3月13日(水)10:00~17:00、教員(10:00-12:00)学生アルバイト(10:00-15:00)、実習室委員(9:30-17:00)計51名で実施した。不要物品の整理、修理依頼・アーカイブへの移行もあわせて行った。
医療機器・教材の点検	①臨床工学士による医療機器の点検を依頼(7月、3月)、②蘇生・シミュレーター人形の点検を業者に依頼(2月)、③機器の充電、通電・作動点検を毎月確認(自己学習支援員による)。
物品の修理・破損物の処理	年間を通じて実習室物品・教材の修理や破損物処理の窓口となった。用紙を改善し修理・破損物報告方法の簡便化をはかった。
物品の貸し出し・実習室使用の調整	学内教員の教材・物品貸し出し表により貸し出しを把握。学生への貸出票(教務課保管)による管理。白楊祭や病院の研修等の貸出しの相談・調整・準備・返却確認を行った。
業者による清掃依頼・インベントリー時の棚・物品の清掃	業者への清掃依頼(8月、2月):倉庫内ワックスがけ(2月)、ベット、床頭台、棚扉や枠等の清掃。インベントリー時(3月)は全棚内・教材物品類の清掃
全ベッドのリネンの洗濯・交換	8月、3月(2回)実施
実習室必要物品の購入・予算計上	各領域からの要望を聴取し、必要性の検討を行って予算を計上した。今年度実習室購入備品は、沐浴人形・血圧計・自己学習関連消耗品品等である。ベッドマットレスの老朽化のため、インベントリー時に交換を行った。
実習室環境整備	①ベッド整備、②日々の環境整備、③設備修繕上の連絡調整 ④環境整備についての周知 ⑤倉庫の整備 を行った。
実習室使用に関するアナウンス	①自己学習室マップの掲示とアナウンス、②実習室使用上のマナーの呼びかけ(掲示等)、③実習室に関連する情報のアナウンス
災害対策環境の整備	震災時に使用が予測される物品のマップ、懐中電灯の確認を行った。

表2 2012年度実習室自己学習支援員による自己学習支援件数

(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	0	37	2	2	0	0	218	105	42	72	0	0	478
2年生	0	174	319	275	0	5	133	156	66	16	114	0	1,258
3年生	0	0	0	0	0	75	0	8	6	2	5	0	96
4年生	0	4	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37
大学院	0	0	7	2	0	0	0	11	41	11	0	0	72
計	0	215	361	279	0	80	351	280	155	101	119	0	1,941

(4)体育デー委員会

1. 役割・職務

体育デーは、1. 他の学年の人たちや先生方との親睦を深める、2. 身体を動かし、気持ちの良い汗を流す、3. 楽しむ、という目的で行われる(2012年度体育デーのしおりより)。本委員会は学生委員が主体となって体育デーの企画・運営を行ない、教職員顧問は学生委員のサポートを中心に行なう。

2. 活動内容

4月に新入生委員の勧誘を行い、学生委員内で前年度の引き継ぎが行われた。体育デー委員会は体育デーの企画・準備のため週1-2回程度、昼休みに開催された。主な準備内容は、役割分担・種目決め・ルール決め・必要物品の準備に加え、各チームの参加者出場種目の決定・体育デーのしおりの作成と参加者への配布(学生全員、参加教職員)などであった。教職員は委員会に参加し、学生の自主的な活動にむけたアドバイスや支援、教職員の出場種目の調整等を行った。昨年度の課題であったワ

ンドリバスケットについては廃止とし、昼休憩時間に Dance Performance Battle と題した企画を設け4団体の発表を行った。なお、聖路加看護大学同窓会からの協賛金を運営費の一部とし、その旨をパンフレットに掲載した。

2012年度の体育デーは、6月7日(木)中央区総合体育館にて開催された。競技種目は、バレーボール・ドッジボール・台風の目・玉入れ・障害物競走・綱引き・チーム対抗リレーであった。当日は、サポーターとして募集した学生スタッフとともに各種目の審判や司会進行などを実施した。またマナー委員会による競技観戦におけるマナーの啓発活動も行われた。競技の結果は、1位：4年生、2位：2年生、3位：3年生、4位：1年生、であった。

3. 課題

- 1) 競技中に怪我をした学生が2名おり、競技内容やルールについて次年度の課題とした。
- 2) チーム対抗リレーに参加を希望する教員が少なく、次年度の検討課題とした。

(5)多様な学生の学びに関するプロジェクト

1. 役割・職務

- 1) 多様な学生の学生生活および修学・就職支援に関すること
- 2) 支援を行うための財源の確保と人的・物的資源の調達

2. 活動内容

- 1) 聴覚障害学生の情報保障に関するニーズの把握と支援方法の検討、パソコンテイク、ノートテイク、手話通訳、DVD/ビデオ教材文字起こしの手配並びに支援に関わる人件費の処理
- 2) 財源の確保および必要物品の購入
- 3) 下級生および新任教員を対象とした該当学生自己紹介企画(災害避難誘導手話含む)
- 4) FM マイクの性能確認と関係者への周知
- 5) 定期試験における座席位置の配慮と試験監督アナウンス原稿作成
- 6) 科目担当教員による履修状況等の情報交換
- 7) 大学行事(白楊祭、クリスマスの集い、創立講演会等)参加に伴う情報保障に関するサポート
- 8) 「大学における障害学生の受け入れ状況に関する調

査2013」(全国障害学生支援センター)への回答

3. 課題

- 1) 私学事業団補助金の削減に伴い本学での予算化が必須となるがその財源が学費収入を超過すること
- 2) 各科目によって講義形態、資料作成方法が異なるため、個々に支援内容の検討が必要であること
- 3) 講堂、校舎外など広い場所ではさらに情報伝達の困難さが生じること
- 4) 3年次「臨地実習」の支援は個々の障害に応じた方法が必要となるが未知であり、人材資源も乏しいこと。

(6)看護教育会議

1. 役割・職務

- 1) 主たる実習病院である聖路加国際病院看護部と連携をはかり、本学の看護教育の質の向上をはかることを目的とする。個別の実習科目については、看護部、教育研修部ならびに当該病棟との事前打ち合わせ、事後の報告・反省会を行うので、看護教育会議では実習全体の課題の共有や、看護教育界、実践現場の新しい情報を相互に提供しあう。

2. 活動内容

1) 会議

上記の目的で会議を4月、7月、2月の3回開催した。参加人数は4月は病院28名、大学38名、7月は病院28名、大学33名、2月は病院27名、大学40名であった。

2) 内容

- 4月：病院からは看護部の体制、新人オリエンテーション、採用計画、病院の新規事業計画、周麻酔看護師等。大学からはメンバー紹介、学生数、国家試験結果、カリキュラムの年間計画(実習計画を含む)、多様な学生の学びについて、チームビルディング力育成プログラム、研究センター事業、交換留学生等。学生の就職先の選択の仕方について意見交換をした。
- 7月：双方からの報告のほか、特定能力認証制度のその後の動向と看護系大学の動向をレポートした。大学の広報活動の病院との連携、実習の状況と就職について、意見交換があり、良い学びができるよう実習のあり方を継続して検討していくことと

なった。

2月：双方の報告の後、実習のあり方について、自由な意見交換を行い、新たな方法が複数提案された。

3. 課題

- 1) 双方のスタッフが集まる貴重な機会であり、活性化が課題であったが、本年度実習に関する討議を重ね、新しいアイデアがでてきたことは、評価できる。次年度も枠を超えた、新しい案を詰めていきたい。

(7)教育会議

1. 役割

本学専任の教職員の他に、非常勤講師、臨床教員が一同に会し、その年度の本学の活動内容および次年度の活動内容を知ってもらうこと、また、意見交換を行い本学の教育の質の向上を目指す。

2. 活動内容

毎年年度末に1回開催している。2012年度は3月22日（金）16：00～17：42に開催し、理事長、名誉理事長、専任教職員70名、客員教授（3名）、兼任教授（1名）、非常勤講師（7名）、臨床教員（2名）、新任教職員（9名）、計94名の出席があり、以下の内容で進められた。

- 1) 理事長挨拶
- 2) 学長挨拶
- 3) 名誉理事長挨拶
- 4) 大学の状況報告
- 5) 教育に関する意見交換

意見交換では、英語での授業をもっと取り入れるべきであるとの意見があり、学生の能力の問題、教える側の問題が挙げられた。日本の看護のレベルを上げるためにも、大学の方針を明確にしていく必要があるとの意見があった。一方、日本語のコミュニケーションが出来ていないことの問題点が挙げられ、TBLを取り入れた授業の紹介があった。

また、生物学担当の非常勤講師から、履修者が2012年度は2名であったことの報告があり、遺伝学や、放射線被害について、どのような科目で学習しているかの質問があり、本学での遺伝教育の紹介があった。

3. 課題

非常勤講師や臨床教員に本学の活動を知ってもらうよい機会である。外部講師の出席者が少ないことは変わっていない。今回は、報告事項についてパワーポイントが加わり、意見交換も活発に行われたが、短い時間の中での意見交換であるので、事前に審議したい事のアンケートを取る等の工夫を行い、なお一層の積極的な意見交換がなされることが課題である。

(8)養護教諭ネットワーク会議

1. 役割

- 1) 養護教諭をしている卒業生・修了生に、本学の保健師教育と養護教諭養成課程について説明し、実習が効果的に行われるよう協力を依頼する。
- 2) 入試広報の効果的なあり方について意見を伺う。

2. 活動内容

開催日時：2012年7月7日（土）15:00～16:30

場 所：本学506教室

出席者：卒業生・修了生 6名

教職員 7名 計13名

議 題：

- 1) 本学のカリキュラムと保健師教育について（教務部長）
- 2) 本学の養護教諭養成課程（教育実習を含む）について（地域看護学・養護教諭養成課程）
- 3) 2013年度入試日程について（広報委員長）
- 4) 意見交換

3. 課題

学校によって、養護教諭の働き方や求められる役割、実習指導体制が違うことがわかったのは興味深いことであった。これからも学生が充実した環境で実習を受けられるよう、受入先の担当者との連携を強めていきたい。また、入試についていただいたご意見を、今後の入試広報にいかしていく。

2 看護学研究科

大学院収容定員に対する在籍者数（2012.4 現在）

修士課程

学 年	収容定員	現 員 数
1 年	㊦ : 15	21 (5)
	㊧ : 15	15 (0)
2 年	㊦ : 15	23 (5)
	㊧ : 15	20 (1)
3 年		7 (7)
計	60	86 (143.3%)

博士後期課程

学 年	収容定員	現 員 数
1 年	10	12
2 年	10	13
3 年	10	29 (内留年者 19)
計	30	54 (180.8%)

() : 社会人うち数

大学院入学状況（2012 年度入学者）

		入学志願者						計
		当該大学 出身者	他大学出身者			外国の 学校卒	その他	
			国立	公立	私立			
修士 課程	看護学専攻	6	4	2	14	0	2	28
	ウィメンズ	6	5	2	13	0	1	27
博士後期課程		8	3	1	0	1	0	13

		入 学 者						計
		当該大学 出身者	他大学出身者			外国の 学校卒	その他	
			国立	公立	私立			
修士 課程	看護学専攻	5	3	1	10	0	1	20
	ウィメンズ	6	2	1	5	0	1	15
博士後期課程		7	3	1	0	1	0	12

看護基礎教育機関別入学状況（2012 年度入学者）

		看護教育機関	大 学	短期大学	専門学校	なし	計
志願 者数	修士 課程	看護学専攻	16	3	7	2	28
		ウィメンズ	24	0	3	0	27
	博士後期課程			9	1	3	0
入学 者数	修士 課程	看護学専攻	13	3	3	1	20
		ウィメンズ	14	0	1	0	15
	博士後期課程			9	0	3	0

修士課程大学（学部）卒業年別入学状況（2012年度入学者）

大学卒業年度		2012年3月 大 学 卒	2011年3月 大 学 卒	2010年3月 以前大学卒	その他* (外国卒等)	計	左記のうち 有 職 者 数
志願 者数	看護学専攻	1	1	24	2	28	28
	ウィメンズ	18	4	4	1	27	9
入学 者数	看護学専攻	1	1	17	1	20	20
	ウィメンズ	11	0	3	1	15	5

*その他に大学評価・学位授与機構を含む

研究生等の学生数（2012年度）

研 究 生		計
学部卒以上	左記以外	
0	1※	1

※修士課程修了者

大学院修了者数

修 士 課 程		博士後期課程 (学位授与)	博士後期課程 (単位取得後退学者)	論文博士 (学位授与)
看護学専攻	21 うち社会人6	11 (2)	5	1
ウィメンズヘルス・ 助産学専攻	18			

() 内は学位授与者のうち単位取得後退学後再入学し学位を受けたもの

大学院科目等履修者受け入れ状況

授業科目	単位数	履修者数	単位取得者数
看護教育学特論Ⅰ	2	1	1
急性期看護学特論Ⅱ	2	2	2
急性期看護学特論Ⅲ	1	1	1
急性期看護学演習Ⅲ	1	1	1

研究生受け入れ状況

指導教授	研究生数
田代順子教授	1

大学院受入状況

	修士課程			博士後期課程	博士後期課程 2次募集	研究生
	学内推薦	I期	看護学専攻II期			
試験日	2012年7月25日	2012年9月12日	2013年2月27日	2012年10月16日	2013年3月4日	
願書 受付期間	2012年7月1日 ～7月7日	2012年8月22日 ～8月29日	2013年2月 5日 ～2月12日	2012年9月25日 ～10月2日	2013年2月12日 ～2月19日	2013年1月10日 ～2月 9日
募集人員	若干名	㊦： 12 ㊧： 15	㊦： 3名	10	若干名	若干名
志願者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 19 うち社会人 8 ㊧： 23 うち社会人 2	㊦： 9 うち社会人 6	13 うち社会人 8	6 うち社会人 1	3 (継続1名を 含む)
受験者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 19 うち社会人 8 ㊧： 23 うち社会人 2	㊦： 9 うち社会人 6	13 うち社会人 8	6 うち社会人 1	—
合格者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 12 うち社会人 3 ㊧： 14 うち社会人 1	㊦： 7 うち社会人 4	8 うち社会人 6	5 うち社会人 1	—
入学者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 12 うち社会人 3 ㊧： 14 うち社会人 1	㊦： 7 うち社会人 4	8 うち社会人6名	5 うち社会人 1	3 (継続1名を 含む)

㊦：看護学専攻 ㊧：ウィメンズヘルス・助産学専攻

(1)がんプロフェッショナル養成プラン

1. 役割・職務

本学は平成19年度より文部科学省が助成する「がんプロフェッショナル養成プラン」において、北里大学を事業推進代表校とし全9大学から成る【南関東圏における先端的がん専門家の育成】に参画してきた。本年度はさらに1大学増え、全10大学15研究科が連携し「高度がん医療開発を先導する専門家の養成」として新たに第2期がんプロを開始した（主幹校：慶應義塾大学）。このプロジェクトにおいて、本学は前期に継続して看護系大学院を設置する北里大学、慶應義塾大学とともにがん看護専門職の育成を推進するプログラムに参画すると共に、全研究科横断的に結成されたトランスレーショナルリサーチ

(TR) 推進委員会、QOL 委員会、緩和ケア委員会のメンバーとして、大学院教育ならびに現任教職、継続教育、さらには研究活動において協働、教育の相互交流を図った。

2. 活動内容

①大学院修士課程において、がん看護上級臨床実践コースとしてがん患者に特化したフィジカルアセスメントや、がん患者の生殖医療、がん特有の症状マネジメントに関する講義と演習を踏まえ、がん治療専門施設、在宅緩和ケアを実施する訪問看護ステーションにおける実習を実施した。各科目においてはがん治療専門医やがん看護専門看護師等に講師・指導を依頼し、複雑化するがん治療や多様な療法の場で

生かす、系統的な専門的知識、技術、態度の育成を図った。

②がん化学療法看護認定看護師教育課程として6月～2月に教育コース(615時間)を実施し、27名が受講、フィジカルアセスメント演習や、中心静脈挿管シミュレーターを用いた薬剤投与管理演習を取り入れ、26名がコースを修了した。今年度がん化学療法認定看護師資格取得者は29名であった(2011年度修了生24名、2010年度以前の修了生5名含)。

③がん看護専門看護師コース修了後認定審査を受ける candidates、がん看護専門看護師を対象にしたがん看護事例検討会を開催した。またがん看護専門看護師が主催するコンサルテーション事業を開催した。がん化学療法看護認定看護師を対象にしたスキルアップセミナーを開催し84名が参加した。2012年度 CNS 資格取得者は2名である。

④11月に米国 MayoClinic のナースを講師に迎えがん看護・急性期看護の現状に関する研修会を開催し、情報や意見交換を行った。また、3月には、米国 National Institutes of Health、The George Washington University School of Nursing を訪問し、がん上級実践看護師教育、緩和ケアやがん治療における、症状マネジメントや看護ケアに関する視察を行った。

3. 課題

今年度より第2期がんプロがスタートし、これまで以上にプロジェクトチーム間の連携が問われている。本学では特に TR 委員会での役割が十分に果たせて折らず、将来的には国際病院の医療スタッフとも協働してがんプロに取り組める体制作りをすることが課題である。また、コース受講生の継続的獲得ならびに増加も今後の課題である。

(2)組織的な若手研究者等海外派遣プログラム

「市民参画型ケアを推進する看護学若手研究者の育成」に関する委員会

1. 役割・職務

2009年度末に日本学術振興会の組織的な若手研究者等海外派遣プログラム(3年)に採択された。本プログラムの効果的に運用し、プログラムの目的を達成することが本委員会の任務である。

- 1) 派遣課題の募集と採用の決定
- 2) 派遣結果の評価
- 3) 本プログラムの公開
- 4) 日本学術振興会へ報告書提出

2. 活動内容

- 1) 派遣課題の募集を2回行った。応募課題に対し、選定基準に従い採否と、派遣費用の決定を行った。
- 2) 派遣結果の評価として、学会発表や論文作成の成果を追跡した。
- 3) ホームページで、本プログラムについて紹介し、派遣課題を公表した。
- 4) 2013年2月に本プログラムが終了したことから、派遣内容と決算の報告書を提出した。

3. 課題

本プログラムにより、11名の助教が2ヶ月の海外研修を行うことができ、各自の研究の視野の広がりをもたらされた。また本プログラムの支援を得て、博士論文ならびに修士論文が提出され非常に効果があったと評価している。本プログラムの終了により、本学としては教員・博士研究員・院生の海外派遣の継続が、今後の大きな課題である。

4. 資料・データ

表1 応募件数・採用件数

	2012年度 (第1回)	2012年度 (第2回)
応募件数	12※	1
採択件数	11	1

※指導教員同行申請1件を含む

表2 派遣課題一覧

氏名	派遣期間	派遣先		研究テーマ	研究成果
角田 秋 助教	2012/4/2～ 2012/6/1	英国	ウィルトシャー州国民保健サービス、ウェストイングランド大学、ボーンマス大学他	英国の地域精神保健における他職種チームの機能と看護職の専門的役割	英国イングランドの地域精神医療と看護師の役割。第32回日本看護科学学会学術集会、東京、2012。 イングランドの地域精神医療における「連携」の実際。第17回聖路加看護学会、東京、2012。
蜂ヶ崎 令子 助教	2012/7/17～ 2012/9/21	米国	セントルークルクリニック、メディカルコーナークボレイクリニック、ハワイ大学他	米国における上級実践看護師(NP)の役割と活動	
小野 若菜子 助教	2012/7/31～ 2012/8/16	米国	セントフランシス緩和ケア/ホスピス病院、カイザーパーマネンテ医療センター他	看護師・看護学生を対象としたグループケア(遺族ケア)の教育プログラムの開発	
蛭田 明子 助教	2012/8/1～ 2012/10/7	米国	ラトガース大学、ハワード郡総合病院、アンアールンデル医療センター他	ペリネイタルロスで子どもを亡くした家族のケアに携わる看護者への支援～支援プログラムの開発に向けて～	
五十嵐 ゆかり 助教	2012/11/25～ 2013/1/28	イタリア	カレッジ病院、サンジョバンニ病院、モデナ大学、MEDU 他	イタリアにおける多様な背景を持つ女性への文化を超えたケア：医療施設と地域におけるスタッフ教育の現状	
新福 洋子 助教	2012/12/28～ 2013/1/12	米国	イリノイ大学シカゴ校、ノースカロライナ大学チャペルヒル校	汎用性のある紙芝居教材を用いたタンザニア農村部の妊娠期教育プログラムの開発と評価	
Yenita Agus 博士後期課程 3年	2012/6/10～ 2012/9/13	インドネシア	国立イスラム大学	Women's Satisfaction of Quality of Maternal Care; Midwife versus Traditional Births Attendant in Indonesia	Factors affecting women's choice of maternal health services; midwife versus TBA in Indonesia "Factors influencing the use of antenatal care in rural West Sumatra, Indonesia", BMC Pregnancy Childbirth. 2012; 12: 9. "Factors Affecting the Women's Choice of Maternal Health Services in Indonesia ; Midwife versus Traditional Birth Attendants" 2012年度聖路加看護大学大学院看護学研究科学位論文(博士論文)
忍田祐美 修士課程2年	2012/4/24～ 2012/5/3	バングラデシュ	Grameen Caledonia College of Nursing Dr. Barbra Parfitt	バングラデシュ、ダッカ在住の急性期看護師への救急診療場面を想定したロールプレイ型のケーススタディの学びを探求する	「バングラデシュ都市部の看護師らによるシミュレーションを用いた急性期看護継続教育ワークショップの評価」2012年度聖路加看護大学大学院看護学研究科学位論文(修士論文)
渡邊 奈穂 修士課程2年	2012/6/16～ 2012/6/25	オーストラリア	オーストラリア看護師連盟 ヴィクトリア支部	看護師の勤務体制と人員配置に関する研究	
須坂 洋子 修士課程2年	2012/7/17～ 2012/7/25	英国	プリマス大学 (国際協働論)	神経内科領域における遺伝専門看護師の実践能力	
喜納 瑞貴 修士課程2年	2012/7/17～ 2012/7/25	英国	プリマス大学 (国際協働論)	イギリスにおける男性助産師による助産実践	
中留 理恵 修士課程2年	2012/9/1～ 2012/9/10	英国	International Conference on Communication in Healthcare 2012	保存期腎不全患者における疾患関連情報の入手とリスク対処行動の現状	「保存期慢性腎臓病患者の塩分摂取量とヘルスリテラシー情報源の関連」2012年度聖路加看護大学大学院看護学研究科学位論文(修士論文)

(3)アジア・アフリカ学術基盤形成事業

タンザニアの母子保健改善に貢献する持続的な若手研究者の育成

1. 役割・職務

「アジア・アフリカ助産研究センター」共同研究拠点

を形成し、交流を通して東アフリカ初となる助産学専門の修士課程をタンザニア・ムヒンビリ健康科学大学に設立する。

最終的な目的は、高い妊産婦死亡率の続くタンザニアにおいて、大学院教育を推進することで、助産教育を向上させ、Women-centered Care (女性中心のケア)、Evidence-based Practice (エビデンスに基づいた実践)

の概念に沿った臨床助産ケアの改善と妊産婦の健康の改善をもたらすことである。

2. 活動内容

1) 研究者交流・セミナー

2012年8月にタンザニアで開催した **Humanization of Childbirth** セミナーでは、123名の参加者を得て学び合うことができた。タンザニアにおいて“助産師は冷たい人”とのイメージが持たれている現状に対し、業務多忙や人材・設備不足の状況下であっても、ケアの精神を忘れず実践することが重要であり、社会の助産師イメージを変えることにつながるという発言が寄せられた。セミナー開催を通じ、助産師は高学歴であると同時に人々に寄り添う援助者である、という概念をセミナー参加者にもたらしたことが成果として挙げられる。

2) 研究

インドネシアの助産研究者が、本事業の活動を基に研究論文を発表した。Yenita Agus, Shigeko Horiuchi, and Sarah E Porter: Rural Indonesia women's traditional beliefs about antenatal care, *BMC Research Notes*, 2012, 5:589, doi:10.1186/1756-0500-05-589、本事業の成果がアジア他国への波及効果につながった。他国内外で5つ学会発表を行った。第7回聖ルカ・アカデミア(東京2013年、2月)英語セッションで発表した“Process report of the collaborative project to develop the Master's program in Midwifery in Tanzania: The seminar of “Humanized Childbirth” ”はアウトリーチの活動として高く評価され、実行委員長賞を受賞した。

3. 課題

本年度、タンザニア訪問に際し、今後国際的な助産研究に携わる意思を持つ日本側拠点機関の大学院生を3名同行させ、国際貢献の実際という多くの学びを得た。今後、大学院生の本事業への参画を恒常的に推進していくためのシステムづくりが課題である。

(4)専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業

「チームビルディング力養成プログラム」推進委員会

1. 役割・職務

1) 文部科学省専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業の採択を受け、大学院修士課程・上級実践コースにおいて、**People-Centered Care** (以下 **PCC**) を基本概念としたチーム医療を推進する高度看護実践家の育成を目的として、新規開講科目「特別講義『チームビルディング』」のカリキュラムを作成・実施し、評価を行う。

2) 特別講義「チームビルディング」の科目構成は、1) システムズアプローチと **PCC** の概念(講義)、2) チームを作る方策を具体的に理解する演習(合宿セミナー)、3) モデルとなるチーム医療の実践現場の見学(見学実習)、4) 実習におけるチーム作りの体験で構成し、保健医療の中での学際的チームを作る力を強化・育成し、チーム医療の効果を評価する視点をもつことができるように意図した。

3) 特に、合宿セミナーでは、米国ミシガン大学レクリエーション・スポーツ学部部長ジョン・スワロー氏、エリザベス・ゾルウェグ氏を招請し、軽井沢町において2泊3日のセミナーを開催した。両氏がミシガン大学で長年実践している「チャレンジプログラム」を本セミナーに導入し、体験型学習サイクルを用いて、チームを作る方法やコミュニケーションのとり方、メンバーやリーダーとしての役割発揮の方法、事例分析等を学習した。このセミナーを安全に開催するため、1年前からプログラム内容の事前打ち合わせ、道具の準備、合宿先ホテルの確保と詳細な段取りの打ち合わせ、**TA** の確保と打ち合わせを開始し、米国を訪問しての打ち合わせを含めた下準備を綿密に行った。

4) モデルとなるチーム医療の実践現場の見学については、上級実践コースの担当教員などが関連する医療機関7機関を選定し、事前の調整後、院生1～7名ずつ各機関に見学に出向いた。

2. 活動内容

1) 「特別講義『チームビルディング』」のカリキュラム作成、実施、および評価

前年度にカリキュラム作成を行い、4月からシラバスのとおり、本科目を開講した。

2) プロジェクトミーティング、オリエンテーション等の開催

表1 プロジェクトミーティング等の経過

開催月日	主な議題
4月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・米国ミシガン大学スワドロー氏、エリザベス氏とのプログラムミーティング(3/12-3/13 於ミシガン大学)の報告について ・宿泊先ホテルとの打ち合わせ(3/31-4/1 於：軽井沢すずかる荘)報告について ・科目オリエンテーション(4/12)の内容について
6月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・院生への合宿セミナーのオリエンテーションの実施(6/27)について ・参加申込みの方法について ・プログラムについて ・グループ分けについて ・グループワークの事例の作成について ・研究倫理審査委員会への研究計画書の提出について
7月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿セミナーの内容について ・チャレンジプログラムに使用する道具の確認、注文について ・宿泊先ホテルとの最終確認(人数、部屋割り、名簿、インターネット環境)について ・研究倫理審査委員会の審査結果について ・モデルチーム医療の見学先について
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・通訳の手配について ・バスの手配について ・使用する道具の確認について
9月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿セミナーの最終確認について ・モデルチーム医療見学要項の印刷について ・スワドロー氏、エリザベス氏との事前打ち合わせ(9/5)について ・通訳、TA とのプログラム打ち合わせ(9/5)について
9月7～9日	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿セミナー開催中、評価会を開催
10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿セミナーの debriefing、および課題の明確化について ・アンケート分析結果について ・チーム医療見学の進捗について ・論文投稿の報告について
11月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療見学の報告について ・科目レポートの採点方法について ・実習ネットワーク会議の準備について(招待者、プログラム内容、司会) ・2013年度シラバス作成について
1月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ネットワーク会議について(3/18) ・レポート採点の結果と科目成績の提出について ・2013年度シラバス作成について ・院生への長期的評価について ・2014年度以降について

3. 課題と解決策

- ・講義を行った時期(4月)と、合宿セミナーを行った時期(9月)が離れていたため、科目の繋がりが分かりにくくなった。次年度は9月に集中講義と合宿セミナーを行い、見学実習も9月にスタートするよう、変更する。

- ・チャレンジプログラムを導入したことは、体験型学習サイクルに基づいてチーム作りを理解することにつながったため効果的であった。次年度も継続する。
- ・チャレンジプログラム進行中の各アクティビティ後の debriefing は通訳を介していたこともあり、意図したようには進まなかった。日本の院生は現場で生

じたことを言語化することに慣れていない。
Debriefing の時間をもっととり、言語化をはかるようにプログラムを改善する必要がある。

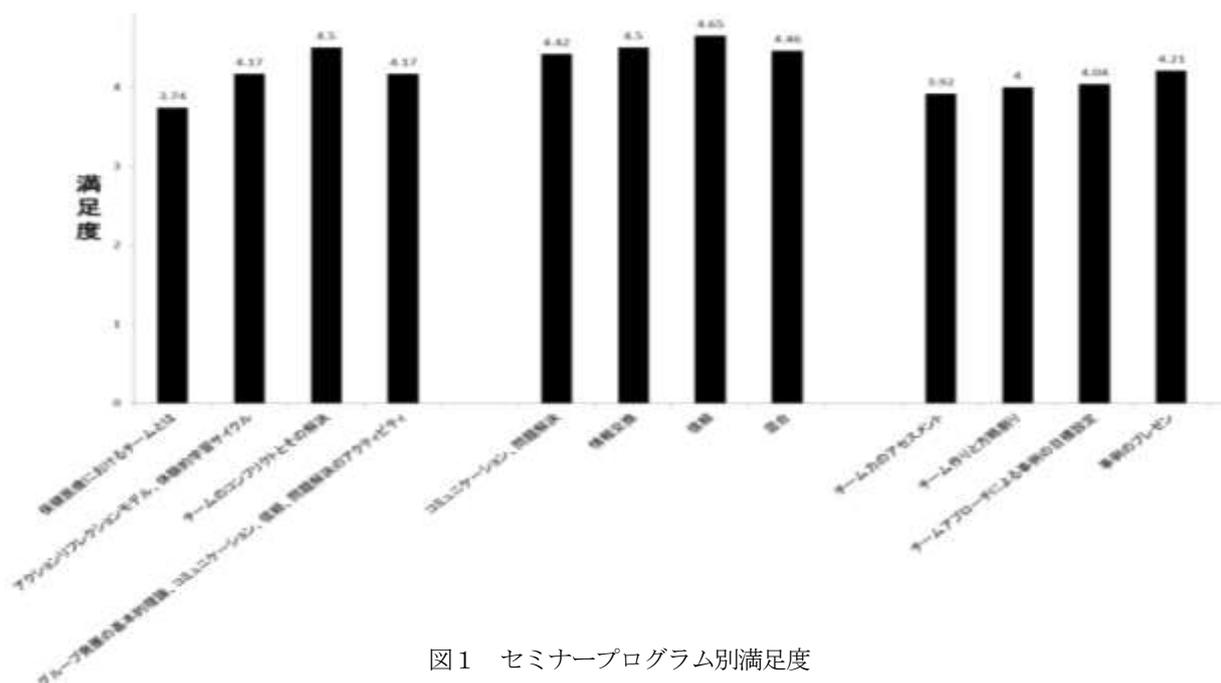
- ・チーム医療見学実習では、看護師を中心とした見学を行ったが、見学した職種の理解ができていない院

生がおり、質問の内容も稚拙なものがあつた。受講対象学生を上級実践コースに限定したが、看護学と助産学では、臨床経験や問題意識が異なっていたため、今後科目履修対象者を拡大して、修士論文コースの履修者も受講できるように変更する。

4. 資料データ

表2 履修者の専攻領域

上級実践専攻領域	性別	男性	女性
ウイメンズヘルス・助産学専攻		-	13名
看護学専攻 内訳		1名	10名
周麻酔期看護学		-	5
小児看護学		-	1
急性期看護学		-	1
在宅看護学		-	1
がん看護学		-	1
遺伝看護学		-	1
精神看護学		1	-
計		1名	23名



投稿論文

亀井智子、飯岡由紀子、片岡弥恵子、宇都宮明美、山田雅子、萱間真美、菱沼典子. (2013). 修士課程「チームビルディング力育成合宿セミナー」プログラムに参加した上級実践コース履修者のチームビルディング意識の

変化とプログラム評価、聖路加看護大学紀要、第39号、36-46.

作成した website

<http://www.slcn.ac.jp/graduate/master/teambuilding.html>

3 図書館

(1) 図書館

1. 役割・職務

「聖路加看護大学図書館規程」、「聖路加看護大学図書委員会細則」による。

2. 活動内容

以下、新たに実施したこと、変更があったことに関して記述した。通常の活動実績は「4 資料・データ」にまとめた。

1) 学習・研究環境の整備

【課題】学内の学習環境のなかで図書館が担うべき機能と備えるべき設備を検討し、大学の将来構想への提案を行う。

【対応】将来構想委員会における検討をもとに、図書委員会でアクティブ・ラーニング支援における図書館の機能と設備について意見交換を行った。この過程で、効果的な支援を実現するために、まず組織や人材の開発を優先して取り組むことが確認された。設備については、創立百周年事業における全学的な施設整備の一環として検討されることになった。

2) 利用者とサービス

【課題】「災害時の組織的な行動マニュアル」を受け夜間の危機対応を検討する。

【対応】まず18:20-20:00の時間帯の対応について検討し「夜間における危機対応マニュアル(案)」を作成した。来年度以降、危機管理委員会における検討を経て完成させる。

3) 資料の収集と管理

【課題】電子化、書架の狭溢化、学生の積極的なサービス利用等の変化に対応した収集方針を決定する。

【対応】蔵書全体を包括する収集方針については他大学の例をもとに検討したが決定には至らなかった。現在、2010年度図書委員会にて承認された「外国雑誌のうち電子ジャーナルでアーカイブ権が保証されているものについて冊子体を中止する」という方針にしたがい電子化をすすめている。2013年の外国雑誌契約においては、電子版がない15タイトル、アーカイブ権が確認できなかった22タイトルを除き、すべて電子版に変更している。電子化、書架の狭溢化がすすんでいるため、収集方針の決定を急ぎ、書架の再編成を実施する必要がある。

3. 課題

- 1) 情報技術を用いたアクティブ・ラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり
- 2) 電子的な情報源の積極的な収集と維持
- 3) 情報源の電子化に対応した書架の再編成

4. 資料・データ

表1 開館日数と入館者数

開館日数 (日)	272
うち土曜開館	46
入館者数 (人)	117,002
1日平均入館者数	430
(夜間)1日平均入館者数	29

表2 館内複写件数

複写機	179,238
月平均	14,937
プリンター	216,689

表3 ノートPCの貸出 (件)

学部生	院生	教職員	その他	計
457	84	5	4	550

表4 資料別の貸出し数

	学部生	院生	教職員	その他	総計
図書 (冊)	7,339	4,364	1,042	1,237	13,982
雑誌 (冊)	1,274	692	206	497	2,669
視覚資料 (巻)	82	12	59	9	162

表5 利用者別貸出し総件数

1年生	2年生	3年生	4年生	修士	博士	教職員	
545	2,292	3,430	2,428	4,373	695	1,307	
科目等履修生	研究生	研修生	卒業生	聖路加国際病院職員	研究センター研修生	その他	総計
4	0	0	608	800	292	39	16,813

表6 分野別貸出し冊数ベスト5

(冊)

1位	2位	3位	4位	5位
WY (6,308)	WS(571)	W(558)	WB(494)	BF(490)

表7 電子ジャーナルのダウンロード数

(件)

利用ポータル	全文ダウンロード
EBSCOhost	3,374
Journals Consult	1,204
Wiley Online Library	2,289
OVID SP	1,086
ProQuest	2,006
メディカルオンライン	9,403
CiNii	2,482

表8 カウンターにおけるレファレンス件数

	学生・院生	教職員	その他 (学外者、研究生、博士研究員など)	計
所在・所蔵調査	448	19	18	485
事項調査	212	5	11	228
利用指導	635	20	60	715
文献検索相談	51	4	0	55
その他	72	2	4	78
計	1,418	50	93	1,561

表9 オンライン相談件数

	学生・院生	教職員	その他 (学外者、研究生、博士研究員など)	計
所在・所蔵調査	0	0	0	0
事項調査	0	0	0	0
利用指導	5	2	0	8
その他	1	0	0	0
計	6	2	0	8

表 10 来館した学外利用者数

	学生・院生	教職員	その他	総計
人 数	38	9	14	61
複写件数	130		34	164

表 11 相互利用（文献複写）件数

当館から他館への申込件数		1,652	他館から当館における受付件数		1,220
申込者別 内訳※	学部生	552	受付館種別	大学・短期大学	1,01
	院 生	838		内 訳	その他
	教職員	244			
	その他	18			
申込先館 種別内訳	大学・短期大学	1,369			
	NDL	50			
	聖路加国際病院	174			
	海外(BLDSC,NLM)	1			
	その他	58			

表 11 蔵書点検結果（不明資料数）

	和	洋	合 計
図 書（冊）	14	13	27
ニュースレター・新聞・付録（部）	25	11	36

表 13 図書館利用教育

オリエンテーション	対象： 学部、学士編入、大学院修士課程、博士課程、各新入生、新入教職員
授業との連携	授業名（対象学年）： 看護学概論、情報処理演習（学部1年、学士編入2年）、家族発達看護論Ⅰ（学部3年）、 看護研究Ⅰ（学部4年）、看護研究法（大学院修士、博士1年）
研究センターとの連携	授業名（対象課程）： 看護情報論（認定看護師ファーストレベル）、文献検索・文献講読（認定看護師教育課程）、 文献検索～準備体操（ナーススキルアップ）
学生の要望による文献検索 ガイダンス	希望する大学院生、学部生のグループに、希望する内容でガイダンスを実施

表 14 展示図書

授業名	展示期間	展示内容
家族発達看護論Ⅰ指定図書フェア	2012年4月6日～5月11日	指定図書、模型、パネル
形態機能学 図書フェア	2012年5月14日～6月8日	形態機能学に関連する図書、模型
教員の著作展	2012年6月29日～30日、 7月27日～29日	オープンキャンパスに合わせて、 本学教員による図書を展示
形態機能学秋の図書フェア	2012年9月10日～11月9日	病理学、組織学、解剖・生理学の 図書、模型
周産期看護学（基礎）図書フェア	2012年9月21日～10月26日	関連図書、模型、パネル

表 15 社会的活動

	対象機関	派遣者
研修等の講師	東京都ナースプラザ (実習指導者研修)	松本直子
	神奈川県立こども医療センター (エキスパートナースコース)	〃
	日本看護図書館協会 (新人研修会)	〃
	図書館総合展 (図書館システム事例紹介 NJC 日本事務器株式会社 主催)	新沼久美
図書館団体活動	日本医学図書館協会 医学図書館員基礎研修会実行委員長	松本直子
	日本医学図書館協会 国際交流委員長	佐藤晋巨
	日本図書館協会 健康情報委員会	〃
	健康情報サービス研修ワーキンググループ	〃

表 16 受入資料

		和	洋	合計	
図 書 (冊)	購入	図書館	926	36	962
		研究室	67	17	84
		研究センター	279	28	307
		教育共通	-	-	-
		助成金等	1	-	1
		製本雑誌	146	161	307
	寄贈	図書館	348	21	369
		研究室	1	-	1
		研究センター	7	-	7
		助成金等	303	78	381
合 計		2,078	341	2,419	
視聴覚資料 (巻)	購入	図書館	17	2	19
		研究室	-	-	-
		研究センター	1	-	1
		教育共通	10	2	12
		助成金等	-	-	-
	寄贈	図書館	8	-	8
		研究室	-	-	-
		研究センター	-	-	-
		助成金等	7	-	7
	合 計		43	4	47
電子図書 (点)	購入	図書館	2	-	2
		研究センター	-	-	-
	合 計		2	-	2
逐次刊行物 (誌)	全タイトル		704	120	824
	新規		3	2	増減
	中止		2	0	3
購読電子ジャーナル (誌)		887	1,178	2,065	
提供電子ジャーナル (誌)		13,842			

表 17 見計らい選書会 実施状況

日時： 2012年9月4日（火）13：00～6日（木）12：00

（入場できる時間： 10：00～18：00）

場所： 本館 403 教室

入場者数： 18人（教員：14人、学生：4人）

（4日：7人 5日：6人 6日：1人）

購入図書	233冊	1,317,164円
------	------	------------

表 18 除籍資料（大学全体）

	和	洋	合計（冊）
図書	751	151	902
製本雑誌	0	0	0
計	751	151	902

表 19 所蔵資料総数（大学全体）

2013年3月31日現在

	和	洋	合計
図書（冊）	58,573	11,092	69,665
製本雑誌（冊）	5,544	4,341	9,885
視聴覚資料（巻）	1,447	106	1,553
電子図書（点）	38	7	45
計	65,602	15,546	81,148

表 20 購読雑誌／電子ジャーナルの変更（2013年1月より）

新規に購読が決まったもの

No.	タイトル	出版者	頻度	
1	Journal of community genetics	Springer-Verlag	季刊	EJ
2	Patient education and counseling	Elsevier Science	月刊	EJ
3	急性・重症患者ケア	日本質的心理学会	季刊	冊子体
4	日本クリティカルケア看護学会誌	日本遺伝カウンセリング学会	年3回	冊子体
5	生命倫理	日本看護遺伝学会	年刊	冊子体
6	健	日本学校保健研修社	月刊	冊子体
7	多聴多読マガジン	コスモピア株式会社	年6回	冊子体

購読の中止が決まったもの（廃刊、休刊）

	タイトル	出版者	発行頻度	
1	Newsweek	中山書店	週刊	冊子体
2	Aera English	朝日新聞社	月刊	冊子体
3	日本看護学会論文集(2011より)	日本看護協会出版会	年刊	冊子体

表 21 データベースの契約

	タイトル	ベンダー	同時アクセス数
1	CiNii	国立情報学研究所	無制限
2	医中誌 web	医学中央雑誌刊行会	8
3	聞蔵	朝日新聞社	1
4	MAGAZINEPLUS	日外アソシエーツ	1
5	最新看護索引 web	凸版印刷	10
6	CINAHL Plus with Full text	EBSCO	4
7	PsycINFO	〃	無制限
8	SocINDEX	〃	無制限
9	MEDLINE	〃 (特約)	無制限
10	The Cochrane Library	Wiley InterScience	無制限
11	Nursing Allied Healthcare Source	ProQuest	無制限
12	Clinical Evidence	BMJ	無制限
13	Maternity and Infant Care	OVID	1
14	Medline Nursing Database	〃	1

表 22 その他、リソース・アプリケーションの契約

	タイトル (機能)	ベンダー	同時アクセス数
1	AtoZ、LinkSource (リンクリゾルバー)	EBSCO	無制限
2	RefWorks (文献整理ソフト)	ProQuest	無制限

表 23 リポジトリへの登録

コンテンツの種類	一次情報 (件)	二次情報 (件)
学術雑誌論文	397	397
学位論文	3	686
紀要論文	549	549
研究報告書	129	129
その他	347	6,617
計	1,425	7,510

表 24 図書館資料 決算額

(円)

図書	製本雑誌	視聴覚資料	電子図書	逐次刊行物	電子ジャーナル	データベース・リソース他
3,456,954	709,170	639,345	21,700	3,928,173	8,360,486	5,986,418

表 25 図書館委員会 議事内容

日 時	作業内容
4月10日 (火)	蔵書点検報告、2011年度年報、 2012年度図書館予定、2012年度委員会計画
5月9日 (木)	2011年度図書館運営報告 国会図書館における博士論文のデジタル化実施に係る著作権処理
6月5日 (火)	貸出区分として「授業貸出」の新規作成、リポジトリにおける年報の公開と申請書の見直し 「聖路加看護大学サポーター制度に関する規程」施行に伴う図書館利用細則の修正
7月3日 (火)	資料費執行状況報告 (4月～6月)、出張研修報告 (佐藤、イリノイ大学) リポジトリにおける年報の公開と申請書の見直し
9月4日 (火)	修正依頼のあった大学年報のリポジトリでの取り扱い、見計らい選書会、看護ネット 図書館でのWi-Fiサービス提供についての要望
10月2日 (火)	学内の情報環境変更、見計らい選書会、本学の学習環境と図書館の整備 (学事協議会 報告) 本学の学習環境と図書館の整備について、見計らい選書会購入図書検討、2013年新規購読雑誌 検討、本学紀要の保管
10月11日 (木) 臨時	図書館におけるアクティブ・ラーニング支援と環境整備検討
11月6日 (火)	見計らい選書会購入図書決定、本学の学習環境と図書館の整備 (学事協議会 報告) 2013年度図書館予算案、2013年新規購読雑誌・電子ジャーナル決定、本学の学習環境と図書 館の整備、図書館振興財団 振興助成事業補助金申請
12月4日 (火)	図書館振興財団 平成25年度振興助成事業 助成金申請、出張報告 (図書館総合展)、電子資 料契約における聖路加国際病院図書館との共同交渉、資料費執行状況報告 (10月～11月) 教職員による「学生へのおすすめ本」リストの作成
1月8日 (火)	図書館振興財団 平成25年度振興助成事業 助成金申請 結果、出張報告 (佐藤、立教大学池袋図書館見学) 「情報技術を用いたアクティブ・ラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり」事業
2月12日 (火)	図書館スケジュール (蔵書点検等)、聖路加看護大学紀要のバックナンバー処分 OVID Nursing Full Textのアーカイブ購入、ProQuest NAHSと JBIの購入、図書展示コーナー の予約受付
3月5日 (火)	2013年度図書館事業計画 アクションプラン、年報 (状況報告)

表 26 学生図書委員会

日 時	内 容
4月25日 (水)	自己紹介、2012年度活動案の検討、委員会日程・司会、書記担当決定
5月23日 (水)	ブックレビュー募集のしおり配布検討
6月20日 (水)	しおり配布方法・周知方法の検討
7月11日 (水)	しおりデザイン修正検討、ブックレビューへリンクするバナー制作の検討
10月17日 (水)	しおりデザイン修正再検討、バナー決定
11月21日 (水)	しおり配布によるブックレビュー収集の途中報告
12月12日 (水)	しおり配布によるブックレビュー収集活動の評価、次年度活動案検討

表 27 海外研修

期間	派遣先	派遣者
2012年5月18日～6月19日	アメリカ医学図書館協会の年次大会 (米国 シアトル) Mortenson Center for International Library Program (米国 イリノイ大学)	佐藤晋巨
2013年2月27日～3月4日	TBLC (Team-Based Learning Collaborative) Conference (米国 サンディエゴ)	松本直子

表 28 学術情報の発信 「看護ネット」 訪問者数 (月別)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
37,274	44,326	45,404	44,738	39,080	44,444	47,258	45,726	38,844	50,800	44,191	37,035	519,120

(2)大学史編纂・資料室

1. 役割・職務

- 1) 本学に関連した史資料の収集・整理・保管
- 2) 収集史資料の公開・展示
- 3) 調査・研究および成果の発表
- 4) 自校史教育及び学習への支援
- 5) その他1)～4)に必要な事項

2. 活動内容

1) 課題の取組

資料室規程・資料収集基準を作成した。資料保管については大学の文書管理規程・文書保存規程が全面的に見直されたことを受けて2013年度以降に検討する。写真資料の整理状況を確認し整理手順をまとめて2013年度の実施計画を立てた。資料室職員がアーカイブズカレッジを受講し、インタビュー実施方法について検討した結果をまとめてコースを修了した。ブックレット1号の改訂版を制作中、2013年度完成見込みである。またブックレット2号以降の刊行構想と創立100周年史企画を取りまとめ、大枠について学長の承認を得、これに基づいて準備を進めることとなった。聖路加国際病院のアーカイブズと収集資料や業務についての情報共有を行い、また資料に関する聞き取り等の活動を共同で行うなど連携を深めた。

2) 通常の活動（「4. 資料、データ」参照）

3. 課題

- 1) 移管文書の受入体制と保管場所について事務局との話し合い
- 2) 史資料の開示に関する規程整備
- 3) ブックレット2号の企画
- 4) 創立100周年史の予算獲得と執筆・編集担当検討、資料収集の継続
- 5) 外国人居留地研究会全国大会が開催協力
- 6) 卒業生・遺族等への資料収集協力呼びかけ
- 7) 病院との連携に関するあり方検討

4. 資料・データ

- 1) 資料目録件数（年代別一覧） 2013年3月末現在

表1 入手経緯別 資料目録件数

	寄贈	貸与	購入	合計
2012年度登録	408	237	0	645
目録全体	1,297	513	1	1,811

表2 分類別 資料目録件数

	2012年度登録	目録全体
書類・手紙・証書	90	441
冊子・パンフレット	229	411
ノート	0	34
書籍	5	45
カード・葉書	50	66
記事	54	75
器具・物品	6	27
写真	190	494
記念品等	6	24
DVD・CD・ビデオ	6	8
その他	9	186
合計	645	1,811

2) 卒業生インタビューの収集

【年代別グループ/個人インタビュー】

- Class of 1954：山田恭子・内山芳子・宮本昭子・榎 仁子（7月31日）
- Class of 1957：深田清香・山本尚子・本多和子・田中昭子（11月7日）
- Class of 1953：相模はつ子（11月15日）

【特別企画】

「日本の看護教育のリーダー：学長としての私」
学長職にある卒業・修了生による座談会：河口 てる子（日本赤十字北海道看護大学）、丸山 知子（天使大学）、新道 幸恵（日本赤十字広島看護大学 前学長）、田村 やよひ（国立看護大学校）（6月17日）

【資料収集・貸借に伴う聞き取り】

- 新井克己氏（新井喜久子ご遺族）（4月19日）
- 森保子（別科 1945）（8月6日）
- 秋山秀子氏（秋山外子ご遺族）（11月9日）
- 竹内好香（Class of 1937）（10月29日）
- 岡田貞子（Class of 1941）（2月15日）

3) 展示室企画

【写真展示】

- 「ベッドメイキング」 5月9日～10月25日

-
- 「聖路加精神をあらわす言葉」 10月26日～1月17日
 - 「Class of 2013 & 学士14回生（学生展示）」 1月18日～2013年度まで展示中
- 【ケース展示】
- 「学園ニュース 300号記念展示」 6月7日～10月25日
 - 「先人たちの歩み-自伝や回想録などにみる足跡-」 10月26日～2013年度まで展示中
- 4) 調査・研究および成果の発表
- 第26回日本看護歴史学会ポスター発表：「太平洋戦争下の聖路加看護学生の活動」
 - 資料室 HP 「Lukapedia」継続
- 5) 自校史教育及び学習への支援
- 教育支援
 - (1) 「自校学習」開講（2012年4月、1年生前期選択）
 - (2) 学園祭参加（「歴史展示室クイズ」、同窓会共同）
- 6) その他
- 他組織機関との連携
 - (1) 全国大学史資料協議会における情報共有
 - (2) 築地外国人居留地研究会に協力して2013年度大会開催準備
 - (3) 東日本地区日本聖公会資料保管に関する協議会に参加（1月19日）
 - (4) NHK番組「Family History」へ調査協力（5月1日）
 - (5) 中央区女性史研究会へ調査協力（10月29日）
 - (6) 朝日新聞に資料提供（1月7日）
 - 広報等学内との協力
 - (1) 「学園ニュース」へコラム掲載（年3回）
 - (2) 「同窓会だより」へ大学史編纂資料室報告掲載（年1回）
 - (3) 校章・卒業章の変遷について大学運営会議へ調査結果報告（2月12日）

4 看護実践開発研究センター

(1)運営委員会

1. 役割・職務

看護実践開発研究センター運営委員会規定第3条に基づき、センター運営の基本方針に関する事、事業計画に関する事など、センター運営に関して審議した。

2. 活動内容

11回の運営委員会を開催した。今年度研究センター運営上の論点としては以下があった。

1) 研究センター事業について

- PCC 実践開発部門19事業、キャリア開発支援部門22事業を展開した。
- 2013年度に向け、PCC 実践開発室23事業、キャリア開発支援室19事業を展開する計画を立案した。

2) WHO コラボレーティングセンターとして5月に再委嘱された。委嘱機関は、これまでの学部から研究センターに移行した。以後、WHO コラボレーティングセンターのセンター長は、看護実践開発研究センターのセンター長が兼務する形とした。

3) 9月から、大学事務局にて、学内全規定の見直しが行なわれた。研究センターにおいても、以下のように規定等の構造および内容を見直した。

- 聖路加看護大学看護実践開発研究センター規定
 - ・聖路加看護大学看護実践開発研究センター構成員細則
 - －聖路加看護大学看護実践開発研究センター専任研究員選考内規
 - －聖路加看護大学看護実践開発研究センター構成員内規
 - ・聖路加看護大学社会連携事業に関する細則（聖路加看護大学共同事業功罪に関する細則より更新）

- ・聖路加看護大学看護実践開発研究センター認定看護管理者ファーストレベル講習実施細則

- ・聖路加看護大学看護実践開発研究センター認定看護管理者セカンドレベル講習実施細則

- －聖路加看護大学看護実践開発研究センター認定看護管理者講習運営委員会内規

- －聖路加看護大学看護実践開発研究センター認定看護管理者講習修了審査に関する内規

- ・聖路加看護大学における科学研究費助成事業取扱細則（新）

- ・聖路加看護大学看護実践開発研究センター運営委員会細則

- －聖路加看護大学看護実践開発研究センター施設利用内規

4) 学内組織全体の見直しに伴い、研究センターの組織改変を実施した。

(ア)「部門」を「室」に変更する…組織全体のバランスから考えると「部門」はもっと大きな単位として使われるべきと考えられるため。

(イ)「事務局」の中の「研究支援室」を「研究センター」の「研究センター事務課」とする。

5) 研究センター長任期満了等に伴い、次年度以降の新人事案を整えた。

6) 東日本大震災後、福島県災害支援プロジェクトを大学として実施することとなり、研究センターのPCC実践開発部門の活動として取り組んだ。

3. 課題

1) 次年度、聖路加・テルモ共同研究事業終了後の事業継続に関する財源確保

2) 聖路加国際病院との連携強化

3) 研究センター10周年(2013年)に向けた記念行事の開催

4. 資料・データ

表1 看護実践開発研究センター運営委員会各回の主な議題

回数	開催日	議 題
第1回	4月10日	2012年度の組織と会議スケジュールの検討 福島災害支援プロジェクトの今年度の活動について 客員研究員・博士研究員の承認
第2回	5月8日	客員研究員の承認 PCC 実践開発部門サブグループのあり方について 研究センター施設利用について
第3回	6月12日	認定看護師教育課程規則改正について 客員研究員の承認
第4回	7月10日	センター10周年をどのようにするかについて 平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者の推薦について
第5回	9月11日	「聖路加・テルモ共同研究事業の公募」について
第6回	10月16日	「聖路加・テルモ共同研究事業の公募」について 2013年度センター事業の申請について 客員研究員の承認 第28回日本国際保健医療学会東日本地方会 後援について センター専任研究員継続申請及び次年度公募について 築地3丁目プロジェクトについて
第7回	11月13日	2013年度研究センター事業・聖路加テルモ共同研究事業「事業計画書」・予算（案）について 「聖路加・テルモ共同研究事業の公募」について 看護実践開発研究センター構成員に関する規程について 客員研究員の承認 客員研究員の英文委嘱状について
第8回	12月11日	2013年度研究センター事業・聖路加テルモ共同研究事業「事業計画書」・修正予算（案）について 研究センター関連規程の改正について 認定看護師教育課程規則改正について 認定看護管理者講習規則改正について
第9回	1月8日	研究センター関連規程の改正について
第10回	2月26日	次年度の研究センターの体制について 教員の大学院進学に伴う科研の継続について 次年度以降のセンター共有スペース内の柵使用ルールの取り決めについて ぼるかルームの椅子の買替えについて
第11回	3月12日	2013年度新規センター事業について 規程の変更について

表2-1 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（文部科学省科学研究費助成事業＜補助金・基金＞）

氏名	代表・分担	研究テーマ	研究種目
麻原きよみ	代表	「公衆衛生看護の倫理」教育のモデル構築と検証：カリキュラム・教育方法・教材の開発	基盤研究B
麻原きよみ	代表	保健師の倫理的実践に関わる自治体行政組織のエスノグラフィー	挑戦的萌芽
*有森直子	代表	女性のリプロダクション健康課題に対する意思決定支援の評価研究	基盤研究B
飯岡由紀子	代表	女性生殖器系がんサバイバーのためのテーラーメイドケアの開発と評価	基盤研究B
飯岡由紀子	代表	セルフトリートメントシステムの開発ーホルモン治療中の乳がん患者に焦点をあててー	挑戦的萌芽
飯田真理子	代表	多言語による簡易版“女性を中心としたケアー妊娠期尺度”の開発	研究活動 スタート支援

五十嵐ゆかり	代表	多文化共生社会に望まれる外国人ケアを習得するための周産期看護者教育プログラム	若手研究 B
伊東美奈子	代表	既卒採用看護師の職場適応促進策ー日本版メンターシッププログラムの構築に向けてー	若手研究 B
井部 俊子	代表	わが国の病院に勤務する看護師の交替制勤務のあり方に関する研究	基盤研究 B
及川 郁子	代表	小児看護における外来看護師育成支援プログラムの開発	基盤研究 B
及川 郁子	分担	子どものヘルスプロモーションのための予防接種介入プログラム・ガイドラインの作成(研究代表者:川口 千鶴)	基盤研究 C
大久保暢子	代表	脳卒中背面開放座位ケアプログラムの定着を促す看護師支援ツールの開発と評価	基盤研究 C
大隅 香	代表	妊産婦が安心できる助産師のワーク・ライフ・バランス実現に向けたアクションリサーチ	若手研究 B
大橋久美子	代表	看護師の行うモーニングケアの実態調査:術後回復を促すモーニングケアの導入にむけて	若手研究 B
大森 純子	代表	新興住宅地の向老期世代を対象とした“地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発	基盤研究 B
小野 智美	代表	日帰り手術に向けての幼児の自律性を支援する看護介入プログラムについての効果研究	基盤研究 B
小野 智美	代表	大都市・都市部以外に居住する幼児の経皮水分蒸散量(TEWL)の基礎的調査	挑戦的萌芽
小野若菜子	代表	訪問看護師を対象としたグリーンケア教育プログラムの開発	基盤研究 C
梶井 文子	代表	在宅認知症高齢者のための学際的チームの連携強化を支援する評価システムの開発と検証	基盤研究 B
片岡弥恵子	代表	DV女性と子どもの生き抜く力を支えるアドボカシープログラムランダム化比較試験	基盤研究 B
片岡弥恵子	代表	乳がん合併妊産婦の看護ケアスタンダードの構築	挑戦的萌芽
*亀井智子	代表	長期テレナーシングによる在宅呼吸不全患者の憎悪予防効果の検証とガイドライン創生	基盤研究 B
*亀井智子	代表	地域高齢者のための包括的転倒予防 SAFETY on! プログラムの開発と効果の検証	挑戦的萌芽
萱間 真美	代表	看護学の知識体系を構築するための質的研究方法を用いた学位論文指導プログラムの作成	基盤研究 B
萱間 真美	代表	認知症の周辺症状(BPSD)による精神病床入院から地域移行への看護ケアモデル開発	挑戦的萌芽
木戸 芳史	代表	精神疾患の未受診者や受療中断者等へのアウトリーチ支援が多職種チームに与える影響	若手研究 B
草川 功	分担	被災者の記憶に残る地域の伝統的生活文化の認識と再生・継承に関する研究(研究代表者:池邊 このみ)	基盤研究 C
倉岡有美子	代表	経口摂取に替わる栄養管理の導入を検討する患者・家族の意思決定支援ガイドの開発	研究活動 スタート支援
小林 真朝	代表	生活習慣特性を活用したコミュニティ支援プログラムの開発と評価	若手研究 B
佐居 由美	代表	看護実践における「安楽」の理論家〜ミックスメソッドデザインによる検証〜	基盤研究 C
新福 洋子	代表	汎用性のある紙芝居教材を用いたタンザニア農村部の妊娠期教育プログラム開発と評価	研究活動 スタート支援
高橋 恵子	代表	看護師の「市民目線に立ったケア」を育むリフレクションプログラムの開発	挑戦的萌芽
*田代順子	代表	インドネシアの看護・助産強化モデル開発と PHC 専門看護師育成の協働的開発	挑戦的萌芽
*田代順子	代表	高度実践看護師の臨床判断力強化支援のためのウェブアシスト学習プログラム開発・評価	基盤研究 B
千吉良綾子	代表	早期認知機能低下高齢者の包括的意思決定支援システムに関する基礎的調査研究	研究活動 スタート支援

角田 秋	代表	訪問看護師による精神疾患を有する人への電話相談の効果評価	若手研究 B
鶴若 麻理	代表	看護学士課程における体系的な新しい生命倫理教育の創出：アジア比較研究	若手研究 B
鶴若 麻理	分担	高齢者による医療の選択と意思決定を支える体制の構築に関する研究（研究代表者：高橋 龍太郎）	基盤研究 B
長松 康子	代表	困難が重積する中皮腫に関する看護職向け教育プログラムの開発と評価	基盤研究 C
永森久美子	代表	長期的な子育て力につながる「女性を中心としたケア」の実証	基盤研究 C
中山 和弘	代表	ヘルスリテラシー不足の患者・家族・市民を発見・支援する看護学習コンテンツ開発	基盤研究 B
中山 和弘	分担	特定看護師へのクラウド型 Advanced フィジカルアセスメント教育ツールの開発（研究代表者：藤井 徹也）	挑戦的萌芽
蜂ヶ崎令子	代表	点滴スタンド提供方法に関するモデルの提案	若手研究 B
林 直子	分担	オンライン学習と電子メール相談による子宮頸がんに対するリスクコントロールの促進（研究代表者：稲吉 光子）	基盤研究 B
林 直子	分担	乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの開発と妥当性の検討（研究代表者：鈴木 久美）	基盤研究 B
*菱沼典子	代表	看護技術の構成要素と効果－看護技術の確立に向けて	基盤研究 C
平林 優子	代表	慢性疾患幼児の在宅における療養行動発達支援を家族と協働する外来看護システムの開発	基盤研究 C
平林 優子	分担	難病疾患患児のためのモニタリングシステムを含む地域連携支援バスの開発（研究代表者：豊田 ゆかり）	基盤研究 B
蛭田 明子	代表	周産期喪失後の危機的状況を夫婦で歩み新たな家族をつくる物語	基盤研究 C
堀内 成子	代表	晩産化妊婦の心と身体を充電するプログラムの産後うつ病重症化への予防効果	基盤研究 B
堀内 成子	代表	タンザニアでの持続的な若手助産研究者教育課程の開発と評価	挑戦的萌芽
堀内 成子	分担	日本人体験者のナラティブに基づくペリネイタル・ロスのケアガイドラインの開発（研究代表者：太田 尚子）	基盤研究 B
松谷美和子	代表	看護学士号をもつ新人看護師に求められる臨床実践能力開発のための学習モデルの研究	基盤研究 B
三森 寧子	代表	現代の多様な子ども達に向き合う養護教諭の養成教育とカリキュラムに関する認識調査	研究活動 スタート支援
*森 明子	代表	妊娠を望む女性の気がかりとプレコンセプション・サポートの検討	基盤研究 C
柳井 晴夫	代表	臨地実習適正化のための看護系大学共用試験CBTの実用化と教育カリキュラムへの導入	基盤研究 A
柳井 晴夫	分担	医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題－看護職志望者の適正と大学入試－（研究代表者：倉元 直樹）	基盤研究 B
*山田雅子	分担	地域包括的視点に基づく看護管理学の創出に向けたアクションリサーチ（研究代表者：吉田 千文）	基盤研究 C

合計58件

表2-2 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（厚生労働科学研究費補助金）

氏名	代表・分担	研究テーマ	事業名
梶井文子	分担	チームによる効果的な栄養ケア・マネジメントの標準化をめざした総合的研究～大学－施設連携による研究基盤・人材育成システムの構築のために～（研究代表者：吉池信男）	長寿科学総合研究事業
*亀井智子	分担	高齢者在宅医療に関する多職種協働の阻害要因を克服する克服する教育システムの構築に関する研究（研究代表者：鳥羽研二）	長寿科学総合研究事業
*亀井智子	分担	認知機能低下高齢者への自立支援機器を用いた地域包括的ケアシステムの開発と評価（研究代表者：藤原佳典）	認知症対策総合研究事業

萱間真美	代表	アウトリーチ（訪問支援）に関する研究	障害者対総合研究事業
萱間真美	分担	新しい精神科地域医療体制とその評価のあり方に関する研究(研究代表者：安西信雄)	障害者対総合研究事業
堀内成子	研究協力	「看護師等の高度な臨床実践能力の評価及び向上に関する研究」(分担研究者：池ノ上克、宮崎大学) 班	地域医療基盤開発推進研究
堀内成子	分担	「母子保健に関する国際的動向及び情報発信に関する研究(H24-次世代一般-005)」(研究代表者：森臨太郎)	成育疾患克服等次世代育成
*山田雅子	代表	診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究	政策科学推進研究事業

合計8件

表2-3 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（その他の研究課題）

氏名	代表・分担	研究テーマ	研究種目
麻原きよみ	代表	保健師による実際的な放射線防護文化のモデル開発・普及と検証：放射線防護専門家との協働によるアクションリサーチ	環境省 平成24年度原子力災害影響調査等事業「放射線の健康影響に係る研究調査事業」
梶井 文子	代表	認知症バストケアパートナー養成市民講座	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団「市民講座開催への助成」
萱間 真美	代表	精神障害者退院促進支援事業	東京都中央区事業委託
鶴若 麻理	代表	ハンセン病患者への看護ケアに関する日台比較研究ーハンセン病回復者へのインタビュー調査から	上廣倫理財団平成24年度研究助成
長松 康子	代表	重篤な症状が累積しやすい胸膜中皮腫患者の QOL 向上を目的とする看護師むけ緩和ケア教育ワークショップの開催と評価	公益財団法人笹川記念保健協力財団「2012年度ホスピス緩和ケアにおける QOL の向上に関する研究助成」
*菱沼典子	代表	年代による特徴を反映させた市民向け骨粗鬆症予防のための教材における活用評価	聖路加看護学会看護実践科学研究助成金

合計6件

(2)People-Centered Care (PCC) 実践開発部門

1. 役割

PCC 実践開発部門では看護実践開発研究センターの一部門として、People-centered health care にもとづく新たな看護サービスモデルの研究的開発、および看護モデルの実践提供を通じて、市民主導型看護ケア（PCC）のあり方を探求している。

- 1) 専任・兼任研究員が事業主となり、さまざまな世代にある人々のさまざまな健康課題に焦点をあて、ナースクリニックの場において、広く市民に看護実践を提供するとともに、研究成果を蓄積し、根拠のある看護を開発・創生する。
- 2) 各事業主が学部生、大学院生、専門職、他大学の

教員等を対象として、看護の実践開発を理解する等の目的で教育の機会、および場として各事業を提供する。

2. 活動内容

1) 事業の推進

看護ケア部門の各事業は、年度当初の計画のもとに計画的に事業を実施した。

開催回数、参加者数は表1の通り、年間3,601人の市民を対象に事業が展開された。

2) PCC 部門ミーティング

本部門に属する研究事業全体の内容や課題、および様々な対象者に安全に事業を展開するための方法について話し合うため、事業主によるミーティング

を年間3階開催した。

3) Quality control

本部門に属する事業の質を維持・向上するために「構造－実践過程－成果」の各要因から事業の質評価を行っている。今年度から、各事業に参加した者によるプログラム参加満足度を0～10のVAS (visual analogue scale) により評価した。表に示したように、どの事業も参加者の満足度は高かった。また、安全に看護実践を提供するため、事業開始時に各事業ごとに安全対策指針を策定

し、それにもとづく安全対策を実施して各事業を展開した。事業開催中のインシデント(転倒)が1件報告されたため、事業内で安全対策の方法を再検討した。

3. 課題

研究者と市民との協働により看護実践を研究開発する上で、最も重要な要素は相互のコミュニケーションと安全管理であると認識している。引き続き、事業主間のミーティングを通して情報交換等を継続したい。

表1 PCC 実践開発部門が実施した事業のまとめ

事業名	事業主	構造要因	プロセス要因			アウトカム		
		会場場所	事業主以外の学内従事者	学外従事者	プログラム	開催回数	年間参加者数	参加者満足度 ^a
赤ちゃんがやってくる	片岡弥恵子	聖路加産科クリニック	堀内成子	土屋麻由美	新しく赤ちゃんを迎える家族、特に姉妹が妊娠・出産・新生児について学ぶことで、赤ちゃんを迎えるこころの準備を行う・姉妹になる子どもたちが、生命の誕生について学び、体験を共有することで、自分の生・性を大切にすることができるように働きかける	5回	128人(44家族)	9.3
天使の保護者ルカの会	堀内成子	2号館3階交流ラウンジ	堀内成子 蛭田明子	太田尚子 石井慶子 北園真希 勝又里織 星野浩一 堀内祥子 今村美代子	体験者同士のお話会 手作りの会(ファーストステップシューズ、エンジェルキルト)	8回	65人	9.0
天使の保護者ルカの会; グリーフカウンセリング	堀内成子	2号館5階ミーティングルーム	—	堀内祥子 石井慶子	グリーフカウンセリング 面接	17回	17人	—
「自分のからだを知ろう」おはなし会	菱沼典子	杉並区中央図書館	岩辺京子 三森寧子 松谷美和子 佐居由美 大久保暢子	村松純子 中山久子 瀬戸山陽子 世良喜子 石井祐子 杉並図書館員 延べ9名 カメラマン1名	未就学児向け健康教育プログラム3回シリーズ ①消化器、骨と筋肉 ②循環器、生殖器 ③泌尿器、神経系 各回60～90分	3回	74人	参加してよかった。うちでも子どもが話す。
子どもの健康、知ろう、考えよう～子どもの健康を家族と考える学習・交流会	及川郁子	2号館3階交流ラウンジ、多目的ルーム 本館 601・602教室	平林優子 小野智美 眞鍋裕紀子	西野理英 下平友紀恵 加藤章子 大島千絵子 常山由美子 一之瀬くに子 藤澤真菜美 石川知恵子 合田直子	・虫歯のない歯でおいしく食べよう～正しく食べてすくすく育つために～ ・子どもの事故と応急処置・心肺蘇生法 ・子どものアレルギーについて ・子どもにかかりやすい病気と薬・予防接種(よくある質問) ・子どもとの関わりのコツ	5回	175人	8.8
乳がん女性のためのサポートプログラム	大畑美里	2号館/本館	大坂和可子(博士課程) 川端愛	金井久子(聖路加国際病院) 矢ヶ崎香 小松浩子(慶應義塾大学)	乳がんを体験した女性同士が集い自由に話し合う場の開催に加え、年に2回、乳がんに関する学習会を行った。	9回	254人	9.1

a: 参加者満足度は0～10のVASによる平均値

リンパ浮腫 ケアステーション	大畑美里	2号館3階 相談室	本田晶子	矢形寛 井上貴久美 中曽根朋子 金井久子 芳賀千織 細川恵子(聖路 加国際病院) 佐藤佳代子 米原恵理子 恒藤靖子(後藤 学園) 矢ヶ崎香 小松浩子(慶応 義塾大学)	がん看護を専門とする看護師、 あん摩マッサージ指圧師、乳が ん専門医がチームを組織し、が ん体験者へのリンパ浮腫の予 防、早期発見に関する教育、ケ アの提供、悪化予防のための専 門医への連携とコンサルテーシ ョンなど、統合的なケアを実施 する。	46回	206人	9.8
ダウン症候群 のよりよい療 育環境検討会 ー中央区ー 「ポルカの会」	有森直子	2号館1階 ぼるかるー ム	大浜あつ子 本学大学院 生・学部生	聖路加国際病院 看護師/医事課 神奈川県立こ ども医療センター 看護師、モンテ ッソーリ北尾ク ラス(北尾都先 生) 音楽家、助産師 (川島広江先生)	5月「話し合い」・6月「自分の 体を知ろう」・7月11月2月「大 浜先生の体操」・9月「セクシ ャリティーの講演会」・10月「音 と人とのふれあい体験」・12月 「更衣(ぼたんのかけかた)」・1 月「モンテッソーリ教育」・2 月「ミニミニコンサート」	9回	215人	9.2
介護者のため のリフレッシュ アートプロ グラム	梶井文子	2号館1階 ぼるかるー ム	亀井智子 千吉良綾子	矢沼秀美 NPO アロマテラ ピーボランティア 協会 渡邊純子	認知症高齢者の介護者家族のため の認知症の理解や接し方等の 教育的 content と、介護者間の情報 交換や心身の気分転換を促すた めの content を提供した。	8回	37人	9.9
高齢者ご家 族へオンリー ワンの「思い 出帳(メモリー ブック)」 作りプロジェ クト	千吉良綾子	2号館5階 ミーティン グルーム、 および対象 者宅	山本由子(博 士課程)	浅賀智恵子	幼少期、青春時代など毎回のテ ーマに沿った写真を認知症の方 とご家族に持参してもらい、ラ イフレビューを促し、セッション で語られた言葉や写真を用 い、メモリーブックを作成する。	6回	4人	8
多世代交流型 デイプログラム 聖路加和み の会	亀井智子	2号館1階 ぼるかるー ム、地域散 策他	梶井文子 千吉良綾子 山本由子(博 士課程) 渡邊麗子(修 士課程)	地域在住のボ ランティア 中央区書道連 盟 岡村大 NPO アロマセ ラピーサポー トセンター大 場奈緒	都市部在住の小中学生と高齢者 の世代間交流を促進し、高齢者 世代から子ども世代への知恵と 文化の伝承、子ども世代の高 齢者理解を促進し、互恵的ニ ーズの充足、ヘルスプロモーション、 およびソーシャルキャピタルを めざした看護ケアの提供。	27回	514人	高齢者 9.5 子ども 8.5
転倒骨折予防 実践講座	亀井智子	本館地下ア ーツルーム	梶井文子 千吉良綾子 山本由子(博 士課程) 金盛琢也・渡 邊麗子(修士 課程)	新野直明 入江由香子 杉本知子他	地域在住高齢者の転倒、および それに伴う怪我の予防のため に、心身機能の測定、各種ミニ 講義、運動プログラム、啓発用 教材等を用いた転倒骨折予防の 包括的プログラムを提供	6回	151人	9.5
在宅酸素療法 を行う方への テレナーシ ング	亀井智子	利用者宅	山本由子(博 士課程) 聖路加国際 病院医師	—	慢性閉塞性肺疾患で在宅酸素療 法を行う方を対象として、ネッ ト端末を貸与して心身の状態を 遠隔モニタリング、およびトリ アージし、テレメンタリング、 および看護・保健指導を行い、 急性増悪を防いで安定療養に資 する。	—	—	—
はじめの一歩 の会	山田雅子	2号館5階 ミーティン グルーム	麻原さよみ	篠原良子 勝田高之 木村紀子 他	ケアマネジャーからの紹介を受 け、在宅療養者へインフォーマ ルな生活支援サービスを届ける 活動を実施、家で死ねるまちづ くりについて「語る会」を年1 回開催	12回	132人	7.5

a: 参加者満足度は0~10のVASによる平均値

るかなび	山田雅子	2号館1階 ぼるかルーム、中央区保健所(中央区健康福祉祭り)	菱沼典子 有森直子 高橋恵子 佐藤晋巨 高木裕也 真部昌子 牛山真佐子 藤田淳子 るかなびボランティア(専門職/市民)	テルモ(株) チラン掲載協力施設:聖路加国際病院、中央区近隣住民・施設(商店街、銀行、図書館等)	1)【一般市民向け】:健康相談、健康測定(骨密度、体脂肪、身長・体重、血圧など)、情報閲覧サービス207回/年 ランチタイムミニ健康講座&ミニコンサート10回/年、 CHADO(ティーサロン)11回/年、 中央区健康福祉祭りへの健康支援活動参加1回/年、 白楊祭へのバザー参加1回/年	207回	1063人	9.1 (2月のランチタイムミニ健康講座の参加者)
					2)【市民・専門職ボランティア向け】:ボランティアミーティング5回/年、 ボランティア全体会2回/年、 ボランティア勉強会4回/年、 るかなびブックリストミーティング8回/年	19回	54人	
聖路加・テルモ共同研究事業 新健康カレッジ	高橋恵子	本館アリスC.メモリアルホール	看護実践開発研究センター教職員 るかなび運営メンバー ボランティア 本学大学院生・学部生	テルモ(株)中央区近隣施設	1)聖路加市民アカデミー:「自分らしく生きるための心の準備」特別メッセージ:日野原重明、講演:上野千鶴子、 ミニコンサート:渡辺峨山、 中林万里子、江森正敏	1回	344人	—
					2)カレッジセミナー(全4回シリーズ)「もっと知ろう 自分の中から」 講師:上村昭博(聖路加国際病院)、 亀井智子(本学老年看護学教授)、 門伝昌己(聖路加国際病院)、 西裕太郎(聖路加国際病院)	4回	168人	9.5
予防接種講座	堀成美	—	—	—	—	—	—	—

a: 参加者満足度は0~10のVASによる平均値

(3)キャリア開発支援部門

1. 役割・職務

- PCCの実現に向け、看護職の継続教育プログラムを提供する
- 部門長は、看護職の継続教育に関する各事業に対し、必要な教育システムが適切に運営されているか、各教育プログラムの成果を評価する視点を持って参画する
- 教育研修担当は、認定看護管理者講習及び認定看護師教育課程が円滑に運営されるよう部門長のサポートのもと活動する
(2012年度 第1回看護実践開発研究センター運営委員会 資料1-1の中に)

2. 活動内容

- 部門会議は3回開催した(2012年5月8日(火)、7月10日(火)、11月13日(火))
- 今年度の看護職の継続教育プログラムは24事業であった(表1)
- 今年度の重点活動計画として、看護職の継続教育プロ

グラムの評価が挙げられた

(2012年度 第1回看護実践開発研究センター運営委員会 資料1-2の中に)

1) 評価項目の設定

各事業共通の評価項目がない現状のため、まず、実績を把握するための項目を決めた。

実績把握項目は次のとおりとした。*担当者数、担当者以外の講師数等、担当者数+担当者以外の講師数等、*講義時間(時間/日)、*講義日数、*定員、*受講者数; 予定のべ人数、実績のべ人数、実績のべ人数/予定のべ人数、*応募登録者数、*応募割合(応募登録者数/定員)、*受講者情報[受講者の地域(都道府県)、所属、職種、年齢・年代]、*受講者への満足度調査実施の有無

2) データ収集

1)に定めた実績把握項目について、2011年度のナーススキルアップ講座15事業および認定看護師教育課程3コースおよび認定看護管理者ファーストレベル講習の実績に関する情報収集を行った。これらの情報収集に利用した情報源は、催し物案内・研究セ

ンター報告書・年報・事業申請書・支援室保有のファイル等であった。これらの資料から得られなかった項目については、各事業担当者にヒアリングを行った。

3) 評価結果

- ・認定看護師教育課程を除き他の講座では、聖路加国際病院の看護職の受講者がいなかった。
この結果を受けて、聖路加国際病院教育・研修センター担当者へのヒアリングを行ったところ、広報活動、受講回数と時間帯、学習者のニーズとテーマ等に課題があり、工夫を要することがわかった
- ・受講者は看護師(86%)が圧倒的に多く、保健師(2%)、助産師(2%)ときわめて少なかった
- ・比較的近郊からの受講者が多かったものの、北海道、本州、四国、九州と全国に分布した
- ・事業全体の1/4ほどが定員を充足している(定員割れ事業が3/4)
- ・認定看護師教育課程を除き他の講座では、受講者の年代・年齢を確認していたのは3事業のみで確認していない事業が大半であった。確認できた範囲では40歳代(52%)の受講者がもっとも多く、次いで30歳代(26%)であった。
- ・認定看護師教育課程を除き他の講座では、受講者の満足度調査を実施していたのは15事業中5事業(アンケートが3事業、ラップアップセッションが2事業)であった。

4. 資料・データ

表1 2012年度キャリア開発支援部門事業実績

(1) ナーススキルアップ講座

No.	講座名	開催数	受講者数
1	看護管理コンサルテーション	随時(予約制)	0
2	緩和ケアコンサルテーション	随時(予約制)	0
3	在宅看護コンサルテーション	9回(予約制)	6
4	看護研究コンサルテーション	随時(予約制)	9
5	語り合おう!看護マネジメント - 看護管理者のための‘サポートグループ’	5回/年	44
6	退院調整看護師養成プログラムと活動支援	1コース/年	47
7	精神看護事例検討会	2回/年	46
8	がん看護事例検討会	3回/年	1
9	英文献を読もう!パートⅠ～基礎編～	2コース/年	8
10	英文献を読もう!パートⅡ～構文理解強化コース～	2コース/年	8

3. 課題

- 1) 学習ニーズに合った講座と受講しやすい開催方法による受講率の向上
 - ・聖路加国際病院ナースマネージャー会に研究センターキャリア開発支援部門員が催しの案内チラシ等を持参する
 - ・看護職向けの研究方法・研究成果公表のしかたに関する講座を開催する
 - ・専門看護師(CNS)「の更新ポイントにつながる研修を積極的に行う。小児、老年、地域、急性期等で検討してもらう
 - ・保健師、助産師向けの講座をつくる
 - ・新人看護師向けの講座(講義の後に交流会を持つなど)をつくる
- 2) 各事業共通の評価項目の徹底と継続評価
 - ・受講者に年齢は聞きづらい、また年齢より臨床経験年数が重要である、との検討から、講座ニーズを把握するため、「臨床経験年数」を事業共通の情報収集項目とする。次年度の催し物案内に入れる
 - ・受講者数が少数の事業では難しさもあるができるだけ「満足度」を把握することを事業者に検討していただく
- 3) 研究センター事業収入への貢献
 - ・人気のあるテーマで単発に開催するなど、研究センターの収入につながる事業を検討するプロジェクトをつくる

11	不妊症看護認定看護師ポストコース	1回/年	48
12	がん化学療法看護認定看護師 スキルアップセミナー	1回/年	84
13	訪問看護スキルアップセミナー	4回/年	44
14	実践・在宅ケア入門 ～全ての対象者に緩和ケアを～	3回/年	21
15	看護職のための予防接種講座	—	—
16	看護管理塾	2回/年	16
17	ELNEC-J 聖路加 ～すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア～	2回/年	87
18	臨床疫学研究入門	5回/年	102(延べ)
19	文献検索 ～準備体操～	3回/年	14
20	聖路加看護大学・パラマウントベッド株式会社看護教育共同事業 クリティカルケア・シミュレーション教育プログラム SCC セミナー	12回/年	96

(2) 認定看護管理者講習・認定看護師教育課程

No.	教育課程	開講期間	受験者数	合格者数	受講者数	修了者数
21	(認定看護管理者) ファーストレベル講習	8/20～9/21	97	96	93	93
22	(認定看護師教育課程) 不妊症看護コース	6/1～2/28	9	9	9	8
23	がん化学療法看護コース	6/1～2/28	30	28	28	26
24	訪問看護コース	6/1～2/28	18	18	16	14
	計		57	55	53	48
	合計		154	151	146	141

() 内は修了延期者の内数

(4) 研究活動支援部門

1. 役割・職務

- 1) 研究助成金情報の提供
- 2) 科研費の申請経理手続き
- 3) 研究コンサルテーション
- 4) 研究倫理コンサルテーション
- 5) 研究助成に関する選考

2. 活動内容

- ・上記の活動内容実績数は、表1参照。

・3)～5)に関して、研究倫理委員会と協働し、「研究倫理審査」(便覧)内容の検討、今後の研究支援体制について、試案を作成し研究科委員会に諮った。

- ・1)～5)すべての活動内容に関して、聖路加国際病院研究管理部との意見交換の交渉を始めた。

3. 課題

- 1) 科研費申請経理業務の効率化。
- 2) 研究コンサルテーション、研究倫理コンサルテーションにおける研究科委員会および研究倫理委員会との役割分担の明確化。

4. 資料・データ

表1 研究支援部門活動実績

活動内容	件数	活動方法・手段等
(1) 研究助成金情報の提供	27件	学内メールによる周知
(2) 科研費の申請経理手続き	68件*	科研事務の諸ルールに基づく
(3) 研究コンサルテーション	37件	研究計画に応じた対面相談
(4) 研究倫理コンサルテーション	0件	研究倫理審査に関する対面相談
(5) 研究助成に関する選考	1件	研究助成に関する選考委員会規定に基づく

*科研採択率

文部科研：本年度交付 48 件+23 年度繰越 4 件+他機関分担分 10 件=62 件

厚生科研：6 件；計 68 件

文部科研採択率：新規・継続分 96%（新規採択率 89%）

(5)WHO コラボレーティングセンタープライマリヘルスケア WHO 看護開発協力センター事務局

(WHO Collaborating Center for Nursing in Development in PHC)

1. 役割・職務 (WHO PHC 看護開発協力センター事務局細則)

1) 第6期 (2012~2016) 看護実践開発研究センターにおける以下の People-Centered Care(PCC)開発事業等について成果をとりまとめる。

①コミュニティを中心としたケア；②世代間交流活動；③家族を中心としたケア；④ 女性を中心としたケア；⑤高齢者を中心としたケア；⑥看護職者の保健チーム形成；⑦遺伝的問題を持つ家族を中心としたコミュニケアシステムの開発；⑧アフリカ・アジアでのグローバルパートナーとの看護・助産職強化の研究成果に関する統合と発信

2) WHO 看護協力センターの活動の国内外への発信
3) WHO 本部及び WPRO からの情報の学内及び国内関連機関との共有
4) 看護・助産学系の WHO C.C.グローバルネットワークへの参与と連携

2. 活動内容 (上記1に沿って記述)

1) PCC 開発事業

① 2011年度研究活動：WHO WPRO への報告：

2010年度本看護実践開発センターでの市民主導型ケア開発研究を WPRO、WHO 本部へ年次報告書で提出し、Web で公開した。(備考1)。

② WPRO、WHO 本部へ提出予定の、2012年度研究活動報告書を準備中である。

2) 活動の国内外発信

① 国内広報として日本看護協会出版会「看護」WHONEWSに隔月に連載。Web で公開(備考2)。

② 厚生省大臣官房国際課主催の「国際看護活動に関する情報交換会」にて、本センターの活動を報告し、情報を交換した。

(出席機関：看護課、日本看護協会、国立国際医療センター、兵庫県立大学 災害看護 WHO 看護開発協力センター)

③ WHOC. C. グローバルネットワークの「Nursing & Midwifery Links」へ記事を送付した。

a) 東日本大震災の「きぼうときずな」プロジェクト

http://www.parlatore.com.br/whocc/nml_june_2012.pdf

b) 国際連携プロジェクト(タンザニアプロジェクトとインドネシアプロジェクト)の記事を送付した。

④ 活動概要紹介を、英文で作成した。近日中に Web で公開予定である。

3) WPRO 看護アドバイザーからの情報を学内および看護・助産コンソーシアムメンバーと共有

4) グローバルネットワークへの参与とその他国際連携

① アジア・アフリカ 助産研究センター；タンザニア、ムヒンビリ大学健康科学大学の助産修士課程（研究者育成コース）の設立協力を行っている。加えて、本年、8月30日、31日にタンザニア、ダルエッサラームにて『人間的な出産』セミナーを、タンザニア臨床助産師対象に、本学プロジェクトチームが加わり、開催した。

②インドネシア、看護助産強化への協働

- ・イスラム大学からの博士課程院生は博士号を取得し、4年2名の留学生の博士論文研究の支援を継続している。
- ・インドネシアにおける看護助産強化策を、ステークホルダーが考える看護・助産強化モデルをイスラム大学の研究者とともに協働的研究を進めている。

③ 2012年6月28日、29日に開催された2年毎総会に参加し、さらに、6月30日、7月1日開催のWHO C.C.グローバルネットワークとの学術大会を企画、実行活動を支援した。

3. 課題

- 1) 日本型 PCC 研究の統合の体制づくり
- 2) グローバルヘルス向上のための国際連携の強化

4. 資料・データ

(Word または Excel または Power Point)

備考1) WHO 看護開発協力センターのホームページで公開中。

備考2) WHONEWS 一覧：聖路加看護大学 WHO プライマリヘルスケア看護開発センターWeb 上及び「看護」雑誌（日本看護協会出版会）で公開

	執筆者	テーマ	「看護」
2013年03月	高橋 恵子	Community Centered Care	第65巻第3号
2013年01月	及川 郁子	Child & family Centered Care (FCC)	第65巻第1号
2012年11月	新福 洋子	日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業：タンザニアでの「人間的なお産」セミナー	第64巻第13号
2012年09月	山田 雅子	「WHO看護開発協力センター・グローバルネットワーク総会」報告	第64巻11号
2012年07月	田代 順子	聖路加看護大学 PHC/WHO看護開発協力センターの第6期活動開始	第64巻8号
2012年05月	小黒 道子	健康課題である飲料水と衛生設備の確保	第64巻6号

(6) るかなび運営会議

1. 役割・職務

- 1) るかなびの活動計画を立案する。
- 2) るかなびの運営に必要な企画・手段等を検討し、問題があれば改善策を講ずる。
- 3) 研究センターの機関事業として機能するよう、活動を推進する。

2. 活動内容

- 1) 11回の運営会議を開催し、るかなび運営に関する諸事を「実践活動（健康支援サービス）」「地域連携」「教育」「研究」の側面から検討し、その活動を推進した。

- 2) 活動資金獲得のために寄付金（るかなび基金）の広報手段について検討し、配布用のチラシを新たに作成した。

3. 課題

- 1) People-Centered Care (PCC) の実現
- 2) アカデミック・ナーシング・プラクティスとしての挑戦
- 3) 図書館機能としての挑戦
- 4) 継続的发展へのしきみ（財政基盤と人材）作り
*課題の詳細については別表の活動報告）参照

4. 資料・データ

2012年度 るかなび活動の実績

2013. 3. 31現在

るかなび事業	実施概要	人数など
実践活動 (健康支援サービス)		
健康相談・健康測定 (骨密度・体脂肪・血圧)	207日/年	利用者総数 721名 (うち骨密度測定者 526名)
ランチタイムミニ講座・ミニコンサート	10回/年	参加総数342名
CHADO	11回/年	参加人数約100名
ボランティアミーティング	5回/年	参加人数72名
るかなび全体会	2回/年	参加人数62名
ボランティア勉強会	4回/年	参加人数69名
開病記ブックリストミーティング	8回/年	参加人数89名
中央区健康福祉祭への参加 (10月)	1日/年	るかなびブースへの来訪者約200名
白橋祭への参加 (11月)	1日/年	2号館1階にてバザー実施
教育活動		
POC概論：コミュニケーション実習	1日	1名 (学部1年生)
POC概論：自分の生活と健康の調査 (骨密度・身体計測)	3日	96名 (学部1年生/学士16回生)
認定看護師教育課程：演習	健康講座計画・実施	16名 (認定看護師教育課程 (訪問看護コース) 受講生)
認定看護師教育課程：演習	健康相談実習 (1日/名)	16名 (認定看護師教育課程 (訪問看護コース) 受講生)
るかなび難病記文庫利用		計286冊 (学部生 151、院生 3、教職員 4、るかなびボランティア 128)
地域連携		
ボランティア	登録者総数	54名 (市民ボランティア32名、専門職ボランティア22名)
中央区内におけるるかなびボスターの揭示	揭示協力施設数	41施設
研究活動		
年代による特徴を反映させた市民向け骨粗鬆症予防のための教材における活用評価	研究代表者	菱沼典子 平成24年度 (聖路加看護学会看護実践科学助成基金)
看護師の「市民目線に立ったケア」を育むリフレクシオンプログラム	研究代表者	高橋恵子 平成24～25年度 (文部科学省科学研究費助成事業 高橋科研)
<活動報告>		
研究論文：看護大学が開設している市民のための聖路加健康ナビスボット「るかなび」の活動評価	高橋恵子、菱沼典子、山田雅子他 (2013)	聖路加看護大学紀要, 39, 47-55
研究発表：市民向け健康講座＆コンサートの評価-聖路加看護大学での初回参加者のアンケート結果から-	佐藤直子、高橋恵子、菱沼典子他 (2013)	第17回聖路加看護学会学術大会, 43
Academic Nursing Practice at St. Luke's College of Nursing in Japan, Community Walk -In Health navigation" Offered on Campus	Keiko Takahashi, Michiko Hishinuma etc.(2012).	The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery.77.
WHO NEWS Community Centered Care	高橋恵子 (2013)	看護, 65 (3) . 84.

(7) 聖路加・テルモ共同研究事業

(聖路加市民アカデミー・新健康カレッジセミナー)

1. 役割

[責任者] 高橋恵子

[企画・運営・広報] 吉川政司 (テルモ株式会社)

[企画・運営] 看護実践開発研究センター教職員、
るかなび運営委員、るかなびボランティア

2. 活動内容

1) 聖路加市民アカデミー2012

開催日は、2012年10月22日(月) 13:30-16:00
であった。内容は、「自分らしく生きるための心の準備」をメインテーマとし、少子高齢化が進む時代に

市民がよりよく生きるための心の準備について、参加者と考える講演会を開催した。

2) 新健康カレッジセミナー2012

開催日は、[講座Ⅰ] 2012年9月8日、[講座Ⅱ] 2012年11月10日、[講座Ⅲ] 2012年12月8日、[講座Ⅳ] 2013年1月12日(土曜日14:00-15:30)であった。メインテーマは、「もっと知ろう 自分のからだ」全4回シリーズで健康講座を開催した。

3. 課題

次年度も、テルモ株式会社との連絡調整を行いながら、研究センター教職員とるかなびボランティアとの協働運営を行い、一般市民の関心に沿った講演、講座の企画を検討する。

表1 聖路加市民アカデミー

講師名	参加者数
[特別メッセージ] 自分らしい生き方：日野原重明先生 (聖路加看護学園名誉理事長) [講演] おひとりさまの最期：上野千鶴子先生 (東京大学名誉教授) [ミニコンサート] 尺八・ピアノ・ベースのコラボレーション演奏： 渡辺峨山氏、中林万里子氏、江森正敏氏	344名

表2 新健康カレッジセミナー

講座	講師名	タイトル	参加者数
[講座Ⅰ]	上村昭博先生 (聖路加国際病院)	なぜなる脳出血?	51名
[講座Ⅱ]	亀井智子先生 (本学老年看護学)	家の中で転倒?	35名
[講座Ⅲ]	門伝昌己先生 (聖路加国際病院)	ストレスや生活習慣による糖尿病	39名
[講座Ⅳ]	西裕太郎先生 (聖路加国際病院)	気をつけよう高血圧!	43名

(8) 福島県災害支援プロジェクト

1. 役割・職務

大橋靖雄東京大学教授が理事を務める NPO 法人日本臨床研究支援ユニット (以下 J-CRSU) が立ち上げた「きぼうときずなプロジェクト」との協力関係のもと、2011年4月より継続している福島県の東日本大震災の被災者支援活動であり、2012年度は J-CRSU と行政(いわき市、富岡町)との業務委託契約のもと支援活動が展開され、本学では本学に縁のある保健師・看護師のボランティア派遣や、支援活動の学会発表、訪問活動で得られた研究

データの分析(計画)等を通して支援活動に関わった。

2. 活動内容

1) 組織

J-CRSU がいわき市、富岡町と交わした業務委託契約に基づき、研究センター客員研究員の石井苗子と鈴木陽子が主なコーディネーターとして現地ニーズに基づいた支援活動を企画し実行した。

2) 保健師・看護師の募集

J-CRSU が雇用する派遣要員の保健師・看護師をサポートするかたちで、本学教員、大学院生、卒業

生、本学認定看護師教育課程訪問看護コース修了者等に声をかけ、福島県内で活動可能な人材を募集した。その結果、2013年3月末までにのべ72名の看護師・保健師をいわき市、郡山市に派遣することができた。

3) 活動期間

2012年4月1日～2013年3月31日

4) 活動内容

支援活動：

いわき市では市の行政保健師の指示のもと、要継続支援ケースの訪問に加え、仮設住宅・借上住宅・県特例住宅に避難している住民の2年度目の全戸訪問を実施した。訪問世帯は3,258件、本学の呼びかけによるボランティア参加者は28人であった。また避難住民の健康状況を把握するための健康調査を実施、約1,000件の調査データが収集された。本学では、大和証券ヘルス財団からの研究助成金を受け、2012年度に収集された健康調査データの集計・分析を2013年度に行う予定。

富岡町への支援活動は、郡山市内に行政機能を移転している富岡町の行政保健師の指示のもと、郡山市内に非難している富岡町民へ実施された。5月と6月には株式会社岩城のかあさんの協力を得て、おかず箱プロジェクトを実施した。岩城のかあさんから、商品である、1食分のおかずの真空パックが50種類入ったおかず箱の提供をうけ、50世帯に配布、

アンケートを実施した。アンケートの結果を集計し、富岡町の健康づくり対策へ役立てた。また2012年10月から2013年3月まで土日の訪問活動を実施し、延べ19人の保健師・看護師を派遣、44世帯を訪問した。

学会発表：

2012年7月1日に神戸で開催された The 9th International Conference of Global Networks of WHO Collaborating Centres for Nursing & Midwifery Development で、Disaster Nursing Project のポスター展示を行い、2011年度のきぼうときずな活動を発表した。

5) 活動資金の調達

基本的に活動に必要な、交通費、宿泊費、車輛維持費等については、行政から J-CRSU への業務委託金、J-CRSU への寄付金より支出。大学としては、教職員、同窓会等へ寄付を呼びかけるとともに、大和証券ヘルス財団より研究助成金を受けた。

3. 課題

いわき市、富岡町とは引き続き業務委託契約を交わす予定。また2013年度は福島県相双健康保健福祉事務所いわき出張所との業務委託も検討中であり、いわき市に避難する他市町村の支援活動も行う予定。行政と協働し、変化する避難住民の健康ニーズに対応した支援活動を行うことが求められる。

4. 資料・データ

表 2012年度活動実績

活動地	活動期間	活動内容	件数		参加人数 (のべ)
			(世帯数)	(その他)	
いわき市	4～3月	全戸訪問(二巡目)	3258		425
		継続支援ケース訪問	138		
		健康調査		*1737	
		交流会参加		**33	
郡山市 (富岡町)	6月	おかず箱プロジェクト: 株式会社いわきの母さんの商品であるおかず箱を配布、食生活及び行動変容についてのアンケートを集計し、健康づくり対策に活かす	50		8
	10～3月	土日での借上げ住宅訪問	44		19
合計			3440		452

*調査対象者数、**参加回数

IV 学生支援組織

1 教務部

1. 役割・職務

本学の学生が本学の教育理念のもと、教育課程に従い単位を履修し、卒業または修了することが出来るよう支援し、その学籍を保管する役割を担う。

具体的には以下の職務を行う。

- 1) 学籍に関すること
- 2) 成績に関すること
- 3) 教育課程の編成、授業の実施に関すること
- 4) 国家試験に関すること
- 5) 入学試験に関すること
- 6) 国際交流に関すること

2. 活動内容

上記の例年の業務に加え、今年度は以下のことを行った。

- 1) 保健師国家試験受験資格取得について、定員を設けることが周知徹底されていなかったため、2011年度および2012年度入学生に限り、保健師国家試験受験資格取得のための公衆衛生看護学実習を、希望者全員が履修出来ることとし、学生への説明会を開催し、書面で通知した。また、学生便覧、大学案内の見直しを行った。
- 2) グローバル人材育成推進事業のプロジェクトチームの中心的な役割を担い、申請業務を行った。
- 3) 厚生労働省からの看護師特定能力調査試行事業の周麻酔期看護、小児看護、精神看護、老年看護の分野で2年目の調査対象となり、事務処理を行った。
- 4) 組織的若手研究者海外派遣プログラムにおいて、2012年度は教員6名、学生延べ6名の派遣の手続き等の事務処理を行った。
- 5) 「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」が2年目となり、2泊3日のチームビルディング力育成合宿セミナーを、ミシガン大学から講師を招聘して実施し、その事務処理を行った。
- 6) 多様な学生の学びに関するプロジェクトのメンバーの中心的な役割を担い、今年度は初めての臨地実習の支援を行った。
- 7) GPA、アドバイザー制、科目ナンバリングについ

て提案し、2013年度入学生より、科目ナンバリングおよびGPAを導入することが決まった。

3. 課題

- 1) 学生数の増加により、大学全体の部屋の割り振りや使い方を検討することが課題であった。講義室Bを教室仕様にし、301, 302, 601, 602教室の机の入れ替えを行い、最大限の座席数を確保した。しかしながら、ますます増加する学部学生数に対し、限界があり、本館以外の場所を検討する必要がある。
- 2) 日々増加し続ける書類や物品を、限られたスペースの中でいかに整理し、機能的に保管していくか検討課題であったが、日々の業務におわれ、改善されていない状況であることは変わっていない。次年度最優先の課題として資料の電子化の検討も含め、教務課全体で検討していく必要がある。
- 3) 公衆衛生看護学実習の実習場開拓に伴う事務処理を遺漏なく実施していく必要がある。
- 4) 科目ナンバリング、GPAの導入をスムーズに実施していく必要がある。
- 5) GPA導入にとまない、教務部、科目担当教員、図書館、PCルーム支援員、学生部等との協働・連携を強め、学習支援体制を整えていく必要がある。
- 6) 学部学生および大学院学生の主体的な学習活動を支援するためのe-ポートフォリオの導入を滞りなく進めていく必要がある。

2 学生部

1. 役割・職務

- 1) 学生自治会、課外活動支援、2) チャペル関係、3) 就職・進学、4) 奨学金、5) ホームページ、大学案内、6) 福利施設の利用案内

2. 活動内容

- 1) 学生自治会、課外活動支援：
 - ・毎月1回の学生自治会とのミーティング、学生自治会定期総会の開催支援、学事行事、課外活動等への支援を行った。

- ・自治会主催の白楊祭(学園祭)は、「彩〜未来の色は自分色☆〜」をテーマとして11月3日、4日に開催した。
来場者は、1,111名(前年比+56名)であり、北原茂実氏による「病院がトヨタを超える日〜医療の産業化とは〜」と日野原重明前理事長による「自分をデザインしよう」と題した講演会も開催された。
 - ・本年度も、学生マナー委員会は、体育デーなどの学事行事等でマナーの改善を呼びかける活動を実施した。
 - ・東日本大震災に関連した学生のボランティア活動に対して、昨年度に引き続き、同窓会からの交通費並びに活動費支援の申し出があり、学内メール等で学生への周知をした結果、学部生5名、院生1名の利用があった。
 - ・本学公認のクラブ活動に関し、一部のクラブで、顧問が未確定であったため、全てのクラブに関して、顧問を定めると共に、顧問に活動報告をするよう指導した。
 - ・学生自治会長は10月より山下奈緒子に交代した。白楊祭実行委員長は、組原真祐子がつとめた。
- 2) チャペルアワー委員会のページ参照
- 3) 就職・進学支援：
- ・就職・進学ガイドブックの内容を見直し、冊子として配布した。また卒業生の就職・進学体験談を幅広く多く知りたいという学生からの要望をもとに、「就職・進学体験記」の掲載を就職・進学ガイドブック内からイントラネットの「なでしこ」内へ変更し、該当学年等に周知した。
 - ・3年生後期から4年生前期にかけて就職・進学ガイドブックを用いて、就職・進学ガイダンスを計3回行い(12月・2月・4月)、時期別の就職活動におけるポイントとして、就職・進学先の選定、就職試験の対策、内定を受けた後の辞退の仕方等の説明を行うとともに、卒業生の体験談を語ってもらう機会を設け、就職ならびに卒業後の進路を具体的にイメージできるように工夫した。
 - ・その他では、病院等からの就職案内については、メールを通じて学生に情報を一斉配信し周知を徹底した。また聖路加国際病院への就職者が減少傾向にあったため本年度は病院関係者と話し合いを重ね、リクルートに関する相談の対応と病院主催

の就職説明会のサポートを行った。さらに学生の個別相談に適宜対応した。

- 4) 奨学金：聖路加看護学園貸与奨学金や日本学生支援機構奨学金など学内外の奨学金制度の学生への説明、募集、選考手続、貸与または給付、返還手続等を行った。学生には、学生便覧・大学ホームページ・学内掲示・大学パンフレット・新入生ガイダンス等さまざまなツールを用いて情報周知を徹底し、さらに奨学金募集説明会にて詳細な説明を行った。この他に随時、個別相談にも対応した。
- 5) ホームページ、大学案内：学業以外の支援について(クラブサークル活動、学園祭、福利厚生、奨学金等)掲載し、本学の学生が快適で安心した学生生活を送ることができるよう、担当項目について情報発信をしている。
- 6) 福利施設の利用案内：学生食堂、鎌倉アリスの家、ふじみ野大井テニスコート、同ターゲットバードゴルフ場、スポーツクラブオアシスの利用申込受付、日本看護学校協議会共済会共済制度 WILL の手続、アパート・学生会館の案内等の学生支援を行った。特に、鎌倉アリスの家については、利用者が昨年度より増加しておりリピーターが多く見られるが、防災対策(現地情報収集、備蓄品保管、利用者への指導)を徹底し管理人との連携強化に努め、常に注意喚起を行っている。

3. 課題

- 1) 学生自治会は本来学生主体の活動であり学生部はサポートの立場であるが、今年度は学生間の伝達がうまく機能せず、先輩から後輩への記録引き継ぎにも問題があった。
- 2) 就職・進学状況の変化や学生からの要望にタイムリーに応じるために就職・進学ガイダンスの内容を随時改変することが求められている。来年度以降、イントラネット内の「就職・進学体験記」の充実を図り、病院・施設や職種別に系統的に検索できるようにする。

聖路加国際病院の就職に関するサポート体制を今後も積極的に継続していく。

4. 資料データ

奨学金制度

表1 主な奨学金

名 称	対 象	貸 与 月 額	
		第一種/定額型	第二種/選択型
日本学生支援機構	学部	30,000円または、 自宅外64,000円 自宅54,000円	30,000円、50,000円、80,000円、 100,000円、120,000円から選択
	大学院(修士)	50,000円または 88,000円	50,000円、80,000円、100,000円、 130,000円、150,000円から選択
	大学院(博士)	80,000円または 122,000円	
東京都看護師等修学資金	学部	第一種 36,000円	第二種 25,000円
	大学院(修士)	第一種 83,000円	第二種 25,000円
聖路加看護学園貸与奨学金 *緊急採用奨学金(学納金の額を 限度とする)	学部	30,000円	
	大学院(修士)	50,000円	
	大学院(博士)	100,000円(1998年度より貸与月額改定)	
小澤道子記念奨学金	学部生	60,000円(月額,当該年度のみ)	

表2 2012年度奨学生採用状況

	奨 学 金 の 種 類	配布	申請	採用	
1	高島君子記念看護奨学金基金	7	2	1	
2	朝鮮奨学会	揭示のみ	自己申請	0	
3	岡村育英会	22	10	10	
4	茂木本家教育基金	6	2	2	
5	守谷育英会	18	1	0	
6	丸和育英会 休止中	—	—	—	
7	山口県人づくり財団奨学生	1	1	1	
8	石川県奨学生	0	—	—	
9	東京都看護師等修学資金(学部)第2種	2	—	—	
	東京都看護師等修学資金(修)第1種	8	1	1	
10	日本学生支援機構(1年)第1種<予約>	—	—	1	
	日本学生支援機構(1年)第2種<予約>	—	—	6	
	日本学生支援機構(1年)第1種	説明会	17	3	
	日本学生支援機構(1年)第1種<<緊急>>	—		1	
	日本学生支援機構(2年以上)第1種	説明会		4	
	日本学生支援機構(2年)第1種【追加】	説明会		2	
	日本学生支援機構(1年)第2種	説明会		4	
	日本学生支援機構(1年)第2種<<応急>>	説明会		1	
	日本学生支援機構(2年以上)第2種	説明会		2	
	日本学生支援機構(修1年)第1種	26		7	7
	日本学生支援機構(修1年)第2種			2	2
	日本学生支援機構(修2年)第1種			1	1
	日本学生支援機構(博1年)第1種		3	3	
日本学生支援機構(博1年)第1種【追加】	1		1		

11	あしなが育英会	0	—	1
12	川崎市大学奨学生	0	—	—
13	聖路加看護学園貸与奨学金 (学部)	3	3	3
	聖路加看護学園貸与奨学金 (院)	9	8	8
14	小澤道子記念奨学金 (学部)	6	2	2
15	聖路加同窓会奨学金 (学部、院)	13	1	1
16	青木奨学金 (修)	9	3	3
17	ウパウパ奨学金	10	2	2
18	小倉一春記念国際看護奨学基金 (院)	—	自己申請	5
19	有馬育英会助産師育成支援制度 (修)	—	—	—
20	未来の助産師基金	4	3	2
21	財団法人中島記念国際交流財団	学生部室保管	自己申請	—
22	財団法人平和中島財団	学生部室保管	自己申請	—
23	交通遺児育英会	掲示のみ	自己申請	0
24	青峰奨学財団奨学生	掲示のみ	自己申請	0
25	岡田甲子男記念奨学財団	—	自己申請	1

新規採用数合計 81

表3 奨学生内訳表

学生総数 510名 (学部学生 370名・大学院生 140名)

(単位：延人数)

学年	日本学生支援機構			東京都看護師 等修学資金	聖路加看護学 園貸与奨学金	その他奨学金	計
	一種	二種	小計				
4	8	21	29	1	1	3	34
学編4	0	4	4	3	1	5	13
3	10 ^{※1}	16	26	1	1	5	33
学編3	3	4 ^{※2}	7	2	3	5	17
2	9	15	24	3	0	2	29
学編2	2	1	3	0	1	0	4
1	5 ^{※1}	12 ^{※1}	17	0	—	4	21
小計	37	73	110	10	7	24	151
	10%	19%	29%	3%	2%	6%	40%
博3	3	0	3	—	0	0	3
博2	0	0	0	—	0	1	1
博1	4	0	4	—	3	1	8
修3	0	0	0	0	1	0	1
修2	10	3	13	2	6	12	33
修1	7	2	9	1	4	7	21
小計	24	5	29	3	14	21	67
	17%	4%	21%	2%	10%	15%	48%
総計	61	78	139	13	21	45	218
	12%	15%	27%	3%	4%	9%	43%

※1:緊急、応急採用 ※2:1名辞退

表4 奨学生受給状況

年度	奨学金の種類	日本学生支援機構	東京都看護師等修学資金	聖路加看護学園貸与奨学金	その他奨学金	受給総数 全学生数	受給率 (%)
2005(H17)	※1	101	※2 7	34	25	167/455	37
2006(H18)	※3	112	※4 10	41	26	189/476	40
2007(H19)	※5	111	13	40	29	193/480	40
2008(H20)	※2	115	19	44	33	211/477	44
2009(H21)	※1	138	20	※2 43	36	237/497	48
2010(H22)		134	19	※2 33	46	232/510	46
2011(H23)	※6	141	17	19	49	226/510	44
2012(H24)		139	21	13	45	218/510	43

- ※1 期中辞退2名
- ※2 期中辞退1名
- ※3 予約採用5名、追加採用4名、緊急貸与1名、期中辞退者3名
- ※4 2口貸与1名
- ※5 期中辞退者5名
- ※6 期中辞退1名、緊急貸与1名

(1)チャペルアワー委員会

1. 役割・職務

- 1) チャペルアワーの企画・運営
- 2) 「クリスマスの集い」礼拝の準備・担当
- 3) 聖路加国際病院礼拝堂のクリスマス・イブ礼拝でのプロセッション参加学生との連絡調整並びに準備
- 4) クリスマスツリーの飾り付け
- 5) 聖公会関係教職員研修会への参加

2. 活動内容

- 1) 毎週水曜日（12時30分～13時）に聖路加国際病院礼拝堂で実施されるチャペルアワー（礼拝、及び聖路加国際病院関係者や教員から話を聞く月1回の「お話し会」等）を、学生委員が中心となり企画・運営した。今年度はチャペルアワーへの参加を促すため、従来準備していた案内ポスターに加えて、12時20分に学内放送での案内と、参加者にスタンプを捺印するスタンプカードを導入した。また、院生にチャペルアワーをアピールするために、2号館にもポスターを掲示するようにした。

- 2) 2012年12月21日（12時30分から13時45分）の「クリスマスの集い」礼拝で、司会、開会の祈り、聖書朗読などを学生委員が担当。また、学生委員長が話をした。
- 3) クリスマス・イブ礼拝のプロセッションには、表1の通り19名の学生が参加した。プロセッションの参加者を募り、事前練習・当日準備の調整を行った。
- 4) 大学及びチャペルのクリスマスツリーの飾り付けを、学生委員が中心となり有志を募って行った。
- 5) 聖公会関係教職員研修会が8/21に開催され、教員2名と職員1名が参加した。

研修会の内容は、香蘭女学校が東日本大震災当日に行った対応の報告と、松蔭中学校・高等学校が実施している特別なニーズのある生徒への支援についてであった。

3. 課題

昨年度課題としてあがっていた、チャペルアワーの意義を理解してもらい、参加を促す試みに関して、チャペルアワー前の学内一斉放送開始や参加者を対象としたス

タンプカード導入が、今年度参加者数の若干の増加につながったと思われる。引き続き次年度は、大学 HP やフェイスブック・学園ニュース等の媒体を活用して、委員会の活動をアピールし、チャペルアワーの認知度をさらに高めていきたい。

一方で、チャペルアワーの意義が学生や大学教職員に十分理解されているとは依然言い難く、課題は残る。次

年度は、チャペルアワーの運営手順等を整備し、委員の誰が進行しても手際よく行えるようにすることや、その日の参加者に何をもちかえってもらいたいのかを意識した内容づくり、委員以外の人にも企画から参加してもらう等、企画内容や運営方法の見直しを図り、印象に残るチャペルアワーの開催を目指していきたい。

4. 資料

表1 クリスマス・イブ礼拝プロセッション参加人数

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
第1回目	1名	1名	0名	6名	8名
第2回目	6名	0名	0名	1名+学士4名	11名

V 大学事務局

1. 役割・職務

「聖路加看護大学事務組織及び事務分掌規程」に定められている。

2. 活動内容

- 1) 2012年10月より事務局体制の整備を開始。会議の見直しや議事録等資料の早期共有を実施。
- 2) 2012年12月の人事異動により、①「事務次長」を新設、②広報機能を強化、③危機管理機能を強化。
④情報システム室を設置。
- 3) 次年度学事暦の決定早期化を実施。2013年2月27日の理事会承認を得た。
- 4) 事務組織及び事務分掌規程の見直しと組織図再編を行い、2013年2月27日の理事会承認を得た。(財務経理課、教務部入試事務室、教務部国際化推進室、図書館学術情報課、図書館大学史編纂・資料室、看護実践開発研究センター研究センター事務課の新設)
- 5) 文書管理規程の新設に伴い、稟議書管理を整備。
- 6) 人事機能強化にそなえ、人事担当者採用を実施。
- 7) 情報システム室専任者の設置

3. 課題

- 1) 事務局すべての部署における業務効率化の推進
- 2) さらなる広報強化（本学志願者数の増加とブランドコミュニケーションの促進）
- 3) 危機管理体制の充実
- 4) 人事機能の強化
- 5) 施設・設備の整備

1 秘書室

1. 役割

- 1) 理事長、学長、学部長の秘書業務
- 2) 企画・調査に関すること
- 3) 学内の連絡調整に関すること

2. 活動内容

通常の秘書室業務に加え、今年度は下記業務を行った。

1) 日野原名誉理事長による「高級診察術」講義の運営

5月から6月にかけて全5回の講義が行われ、本学大学院生や聖路加国際病院の看護師、外部の訪問看護ステーションに勤務する看護師など、のべ127人が参加した。講義概要は資料のとおり。

2) ホルツマー名誉客員教授の外国人叙勲申請業務と受章祝賀会の開催

・叙勲の申請について

菱沼学部長、山口前事務局長とともに平成23年の夏頃から申請準備を始め、11月に全書類を提出した。その後、平成24年3月に外国人叙勲旭日中綬章受章の内示があり、4月29日に正式に発令された。

・祝賀会について

名 称：ウィリアム・ルイス・ホルツマー博士
旭日中綬章受章祝賀会

(Congratulations on Receiving The
Order of the Rising Sun, Gold Rays
with Neck Ribbon)

日 時：平成24年10月26日（金）18:30～20:30
場 所：コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

主 催：聖路加看護大学・公益社団法人日本看護科学学会（共催）

出席者：87名

3. 課題

平成24年12月より法人事務局兼務となった。今後は、学園の組織や関連業務をよく把握し、理事長、学長、学部長、事務局長らの大学運営をサポートしたい。

4. 資料

- 1) 日野原名誉理事長の「高級診察術」概要

	時間と科目	場所
2012年 5/8 (火)	18:00-20:00 診断術、診断学、POSの歴史 (日野原先生：20分) 電子カルテ時代のPOSについて (渡辺直医長：100分)	聖路加看護大学
5/15 (火)	18:00-18:30 脈拍、血圧測定 of 知識と技術 (日野原先生：30分) 18:30-21:30 頸動脈・心突拍動の視診触診と心音心雑音の聴取 (久代登志男日大医学部内科教授：180分) (米国式ハーバードールを使用した心音聴取実習)	砂防会館5階 ライフプランニングセンター (千代田区平河町2-7-5) Tel: 03-3265-1907
5/22 (火)	18:00-20:00 呼吸器系 (45分) 蝶名林 直彦先生 消化器系 (45分) 藤田 善幸先生 内分泌系 (30分) 門伝 昌己先生	聖路加看護大学
5/29 (火)	18:00-20:00 腎・透析・移植 (45分) 長濱正彦先生 泌尿器 (45分) 村石 修先生 電解質と血液ガスの読み方 (日野原先生：30分)	聖路加看護大学
6/5 (火)	18:00-20:00 脳神経、神経反射、MRA、 CT (60分) 竹見 敏彦先生 皮膚科 (60分) 衛藤 光先生	聖路加看護大学

2 総務課 (学生課)

1. 役割・職務

(1) 申請・届出 (2) 文書受領、作成 (3) 学内刊行物編集・配付 (4) 証明書発行、学内届出書受付 (5) 学生部・学生課業務 (6) 委託業務管理 (7) 学内施設利用受付 (8) 窓口受付業務 (9) 庶務 (10) 委員会事務局

2. 活動内容

- 東京都・文部科学省「学則変更承認申請=学部定員増の認可申請」(2012年6月および7月)、
- 郵便物・宅配便受領・仕分け、公文受領・回覧、諸資料配付、返信作成、常任理事会・理事会・評議員会議事録作成、諸官公庁申請書・調査票回答・送付
- 速報編集・発信 (No. 1812~No. 1856、45号)、年報2011年度編集 (自己評価委員会)、学園ニュース編集 (No. 299~No. 302、学園ニュース委員会)
- 学生証・職員証の発行・回収、ルカード発行管理、Will・e-kango (看護学生・看護専門職者のための傷害・賠償責任保険・共済) 加入手続・事故処理受付・

仲介、在職(勤務)証明書作成、重点目標・達成度評価の実施、ミセスセントジョン記念教育基金受付・採用手続・報告書受領管理

- 奨学金業務 (設計、説明会開催・募集・応募受付・選考・送金・返金管理・返金催促・返金免除者選考)、学生部対応事務、学生リスト作成、学生食堂運営管理、学生ロッカー・ロッカーキー管理、拾得物管理、学生アパート紹介
- 警備員・清掃員管理 (施錠・開錠時刻管理、派遣会社員管理)
- 講堂・教室・会議室利用申込受付・警備員配置・外部利用者に対する会場事前案内、アリスの家施設管理・利用受付、東急スポーツ・オアシス利用手続、ふじみ野グラウンド整備・管理、ふじみ野市とテニス・コートおよびクラブハウス(トイレ)利用契約、ターゲットバードゴルフ場管理
- 学割証発行、コピーカード販売、駐車許可証、自転車駐輪許可証
- 寄付金(一般寄付・サポーター募金・受配者指定寄付)受領・処理、募金活動推進委員会事務局、公益法人・寄付金税額控除対象法人申請、教職員出・欠勤管理、式典祝品準備、慶弔、贈答品手配

10) 自己評価委員会、学生部ミーティング、奨学生選考委員会、学園ニュース委員会、人権委員会、2号館ミーティング、事務局防災委員会、将来構想委員会、募金活動推進委員会

3. 課題

1) あらゆる業務を定式化して容易に対応できるようにすることが課題である。しかし多くの業務は頻度が少なく不定形さをもっており、それを難しくしている。

2) 庶務の比重も大きい。窓口来客対応、電話取り次ぎ、宅配物・郵便物受領・配付・発送、公文等文書の回覧・ファイリングなど。派遣職員に委ねるべき業務も多いが、現在まだフルタイムでないことや残業に対する職員との意識の差を埋めることが不十分で、繁忙時に職員の負担が大きかった。

4. 資料

WILL 手続の記録

	発生件数	補償済件数	事例
WILL 傷害事故	2	1	学内での傷害事故
	3	3	体育授業中または体育デーの傷害事故
	1	0	サークル活動時の傷害事故
共済で対応	1	1	オープンキャンパス来訪者の事故
	2	0	実習中の傷害を伴わない事故（感染検査費用）
合計	9	5	

ミセスセントジョン記念教育基金受付・実施記録

申請者	所属	期間	目的地	費用(円)
佐藤 晋巨	図書館	2012/5/19～6/21	米国シアトル、イリノイ	344,863
池口 佳子	成人・急性	2012/9/7～9/13	チェコ・プラハ	318,517
小林 真朝	地域	2012/10/27～11/1	米国サンフランシスコ	233,713
合計				897,093

奨学金の貸与・給付の状況

学生部IV-2を参照

講堂・教室等施設外部貸与記録

	件	金額 (千円)
講堂	50	3,983
教室他	64	2,212
合計	114	6,195

鎌倉アリスの家利用実績

宿泊者数(人)			日帰り利用者数(人)	利用者数合計(人)	利用金額(千円)
学生	一般	3歳～12歳			
212	208	22	18	460	1,099

東急スポーツ・OASIS 利用実績

学生・教職員の別

学生	教職員	計(人)
205	94	299

利用店舗別

聖路加ガーデン店	その他	計(人)
188	111	299

3 経理課

1. 役割・職務

経理課では現在次のような業務を行っている。

- 1) 予算関係業務（教育予算・大学全体予算・補助事業予算）
- 2) 決算関係業務
- 3) 補助金関係業務（文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団）
- 4) 給与事務（月次給与・賞与・年末調整等）
- 5) 社会保険事務（私学共済、労災・雇用保険、私立大学退職金財団）
- 6) 福利厚生（積立貯金・グループ保険・財形貯蓄）
- 7) 学納金徴収事務
- 8) 現金出納業務
- 9) 固定資産管理
- 10) その他の補助金関連業務
- 11) 教育費の執行および管理
- 12) 教員研究費の配付・管理
- 13) 現物寄付受入・管理
- 14) 公認会計士・税理士監査立会い
- 15) 公衆電話・FAX・コピーカード管理
- 16) 理事会・評議員会資料作成
- 17) 契約業務
- 18) 損害保険に関すること
- 19) 資産運用に関すること
- 20) 借入金の管理

2. 活動内容

2012年度も教育予算の申請時から予算作成に関わり、大学全体予算も含め、その執行や管理まで一連の流れを滞りなく果たすことができた。

補助金関係業務については、今年度も経常費補助金の配分基準が大幅に変更され、一般補助率が増加し、特別補助率が減少されることとなった。今年度は TA について、規程や書類、手続きを整理し、補助金の申請ができるようにした。配分基準が明確でない中で本学は補助金の大幅な減少が予想されたが、常に研究し、申請できるものは可能な限り申請し、結果的に予算を大きく上回る補助金を獲得できた。

3. 課題と取組

経理課の役割・職務内容は広範囲に及んでおり、しかも専門性が高い。そんな中で平成24年度は課員全員が専門的知識を習得するために下記の研修や勉強会に参加した。

- ① 税理士による消費税の勉強会を行った。
- ② 日本私立大学協会主催の経理研修会に参加し、中長期計画作成方法や補助金業務学校法人会計について詳しく勉強した。
- ③ 文部科学省・私学事業団主催の補助金研修会に参加し、補助金業務全体について勉強した。
- ④ 私学事業団主催の共済研修会に参加し、年金の仕組みや申請方法の実務について勉強した。

4 管財課

1. 役割・職務

- 1) 施設設備運用管理業務
- 2) 発注検収業務
- 3) 整備・修繕業務
- 4) 学内行事等の設営業務

2. 活動内容

1) 施設設備運用管理業務

受変電設備管理：電気室内キュービクル点検、法定点検（毎月1回、総合点検1回：3月）

空調設備管理：冷暖房配管切替作業（年2回）、中央監視盤スケジュール設定（随時）

消防設備管理：消防設備法定点検（年2回）

電話設備管理：交換機保守点検（毎月）、電話番号管理、他

水槽設備管理：汚水槽清掃点検（年3回、2号館は年2回）、上水槽清掃点検（年2回）、中水槽清掃点検（本館のみ年1回）、飲料水水質検査、他

昇降機設備管理：エレベータ保守点検（毎月：本館1基、2号館2基）、図書館ダムウォーター保守点検（2ヵ月毎）

講堂運用管理：設備保守点検（年2回）、設営業務、空調設定、他

照明設備管理：学内共有スペースの蛍光灯管理

放送設備管理：下校時放送スケジュール設定、非

- 常放送設備点検(消防設備保守点検)
- 電子ゲート管理:電子ゲート・スケジュール設定、ログチェックおよび点検作業(週1)、入退出システム機器保守点検(年1回)
- 館内清掃管理:日常清掃管理、ガラス清掃管理、ワックス掛け清掃管理、粗大ごみ処理
- 校舎建物管理:光熱水関係使用量管理(月末メーター点検)、害虫生息調査(毎月)、空気環境測定(2ヵ月毎)
- 印刷機器管理:コピー機運用管理(消耗品在庫管理、コピーカード入力作業含む)、リソ運用管理(消耗品在庫管理含む)、丁合機運用管理、
- 什器類管理:教室内机・椅子管理(棚卸作業含む)、研究室等の棚管理
- 鍵管理:教室・研究室等のドアキー貸出業務、本館研究室キャビネット鍵貸出業務、大学鍵台帳更新業務
- 情報機器管理:学生プリンタ管理(トナー発注含む)、コンピュータ管理(修理対応)、サーバ機器管理(SEおよび委託業者との調整業務)、ネットワーク機器管理(保守業者との調整業務)、保守点検調整作業
- ソフトウェア管理:ライセンス管理及び継続契約手続き等(学術教育用ソフトウェア、サーバ系ライセンス、ウィルス系ソフトウェア)
- アカウント管理:ユーザ登録抹消作業(学生利用者、教職員利用者など)
- 携帯電話管理:実習用携帯電話の貸出業務、契約更新作業
- 大判印刷機管理:大判印刷機の貸出、消耗品在庫管理、入金処理
- 2) 発注検収業務
- 大学教育予算関係(実習物品全般、各科目予算による消耗品・機器備品、教員個人研究費による機器備品など)、日用品関係消耗品全般(清掃用具類、衛生用品、蛍光管、コピー用紙など)、文部科学省科学研究費(消耗備品、機器備品、印刷物)、その他競争的資金(がんプロ、厚生労働科学研究費など)、その他事務管理物品全般
- 3) 整備・修繕業務(建物設備関係全般)
- 4) 学内行事等の設営業務
- 入学式、卒業式、入学試験、アリスホールイベント全般、その他学内諸行事全般
- 5) その他の活動
- ① 講義室の整備
- 301および302講義室の机や椅子の入替を実施。今まで使用していた机や椅子で比較的程度が良いものは他の講義室(310講義室、講義室B、601講義室、602講義室)で再利用し、従来の20人教室から50人教室へと収容力をアップできた。
- ② 2階学生ラウンジの整備
- 平日20時、土曜18時以降の図書館利用者に対し、飲食可能な学生ラウンジまでの利用エリア拡大を目的として電子ゲートの移設と防火戸の改修工事を実施した。
- ③ 耐震対策の実施
- (1) 遮熱フィルムの導入
- 地震発生時のガラス飛散防止対策として一部の教室に対し遮熱フィルムを貼付した。引き続き次年度は全教室に導入する予定である。
- (2) 家具転倒防止伸縮棒の設置
- 東日本大震災によりいくつかの研究室にて書棚のズレや落下が発生した。その対策として全学的に転倒防止用の伸縮棒を取り付けた。
3. 課題
- ここ最近、本館校舎は経年劣化に伴う建物設備関連の修繕が目立つ。本館校舎は今年で建築後18年を迎え、設備においてはそろそろ大規模なリニューアルが必要な時期でもある。2号館校舎も今年で改築後10年を迎えるため、一部の設備についてリニューアルの検討が必要である。また、現在は本館と2号館の建物管理に関して担当している外注業者が異なることから連携が取り難いという問題がある。今後は建物のリニューアルと同時に管理業務もアウトソーシングして総括的に管理する体制に移行したいと考えている。
4. 資料 ※次ページ以降参照

■固定電話利用実績

	2010年度	2011年度	2012年度	前年度比	備考
本館	2,146,186	2,001,985	1,949,171	97.4%	
2号館	737,274	747,178	692,634	92.7%	
鎌倉	69,221	68,117	67,400	98.9%	
その他	94,789	96,007	52,735	54.9%	ADSL回線費等
合計	3,047,470	2,913,287	2,761,940	94.8%	

※2009年5月24日より一部回線契約変更

■光熱水関係年間使用量実績 (※毎月末のメーター検針による使用量合計)

電気使用量

単位：kWh

	2010年度	2011年度	2012年度	前年度比	備考
本館	587,580	528,618	526,044	99.5%	
2号館	270,300	219,594	207,456	94.5%	
合計	857,880	748,212	733,500	98.0%	

水道使用量

単位：m³

	2010年度	2011年度	2012年度	前年度比	備考
本館	3,793	3,891	3,902	100.3%	
2号館	1,051	1,021	974	95.4%	
合計	4,844	4,912	4,876	99.3%	

ガス使用量 ※本館のみ

単位：m³

	2010年度	2011年度	2012年度	前年度比	備考
都市ガス	321.5	336.2	337.2	100.3%	

地域冷暖房(DHC)使用量 ※本館のみ

単位：GJ

	2010年度	2011年度	2012年度	前年度比	備考(運転期間)
冷水	805.6	568.6	638.2	112.2%	5月初旬～10月下旬
蒸気	704.2	731.8	708.8	96.9%	11月初旬～4月下旬

■大判印刷機利用実績

単位：件

	2010年度	2011年度	2012年度	前年度比
貸出数件数	64	54	59	109.3%
(有料件数)	42	39	40	102.6%
使用料(円)	24,750	25,050	25,250	100.8%

■携帯電話関係実績

携帯電話使用料金実績(年間)

単位：円

	2010年度	2011年度	2012年度	前年度比
年間合計使用料金	192,408	142,462	103,524	72.7%

■コピー機利用実績

設置場所別・利用料金実績

単位：円

設置場所(機種)		2010年度	2011年度	2012年度	前年度比
本館	1F 事務室	1,332,504	833,178	788,218	94.6%
	1F 秘書室	377,830	340,734	267,420	78.5%
	2F 図書館(DC507)	336,459	159,191	132,100	83.0%
	2F 図書館(DC402)	291,032	146,364	138,858	94.9%
	2F 図書館事務室	435,719	143,299	123,918	86.5%
	3F 図書館	320,758	261,595	118,688	45.4%
	3F 廊下	143,623	109,661	52,713	48.1%
	4F 廊下	248,477	298,547	124,467	41.7%
	5F 廊下	490,580	277,063	177,515	64.1%
	6F 廊下	331,195	198,152	164,001	82.8%
2号館	1F 受付	227,086	224,038	131,562	58.7%
	4F 廊下	228,217	164,263	114,440	69.7%
	5F 研究支援室	664,207	431,744	453,251	105.0%
	5F 廊下	369,178	223,754	162,296	72.5%
	7F 博士ラウンジ	207,233	121,860	82,957	68.1%
	8F 廊下	485,119	201,832	149,669	74.2%
合計		6,489,217	4,135,275	3,182,073	76.9%

※2012年7月,11月に現行機種の契約内容変更

設置場所別・印刷枚数実績

単位：枚

設置場所(機種)		2010年度	2011年度	2012年度	前年度比
本館	1F 事務室	307,513	258,338	328,421	127.1%
	1F 秘書室	83,953	117,990	127,729	108.3%
	2F 図書館(DC507)	72,198	74,317	65,414	88.0%
	2F 図書館(DC402)	68,610	67,838	69,738	102.8%
	2F 図書館事務室	77,969	63,729	68,948	108.2%
	3F 図書館	47,039	44,041	41,078	93.3%
	3F 廊下	25,377	19,377	9,314	48.1%
	4F 廊下	50,703	56,559	48,408	85.6%
	5F 廊下	113,519	108,487	110,368	101.7%
	6F 廊下	82,730	85,631	73,966	86.4%
2号館	1F 受付	41,220	40,296	24,943	61.9%
	4F 廊下	49,837	75,475	57,036	75.6%
	5F 研究支援室	110,855	115,238	177,153	153.7%
	5F 廊下	83,667	97,362	81,084	83.3%
	7F 博士ラウンジ	35,669	54,006	39,341	72.8%
	8F 廊下	115,182	94,602	73,740	77.9%
合計		1,366,041	1,373,286	1,396,681	101.7%

※2009年9月より秘書室専用を教務部・非常勤講師室・秘書室等の共用スペースに変更

■消耗品関係発注実績（管財課管理に限定）

コピー用紙発注実績

単位：枚

		2010年度	2011年度	2012年度	前年度比
本館	A4用紙	1,632,500	1,595,000	1,325,000	83.1%
	A3用紙	139,250	144,250	66,250	45.9%
	B5用紙	35,000	37,500	27,500	73.3%
	B4用紙	72,500	52,500	15,000	28.6%
2号館	A4用紙	695,000	760,000	650,000	85.5%
	A3用紙	27,000	28,500	16,250	57.0%
	B5用紙	2,500	7,500	0	0.0%
	B4用紙	10,000	10,000	10,000	100.0%
年間発注金額（円）		¥1,606,001	¥1,494,883	¥1,413,097	94.5%

その他日用品発注実績

		2010年度	2011年度	2012年度	前年度比	備 考
蛍光灯		96,510	134,840	106,845	79.2%	標準蛍光灯 FLR 40 の 発注個数のみ記載
		(350)	(450)	(475)	105.6%	
ペーパータオル		242,423	248,856	228,118	91.7%	()内は発注個数(束)
		(2,875)	(3,000)	(2,750)	91.7%	
トイレットペーパー		394,800	434,280	355,320	81.8%	()内は発注個数(ロール)
		(6,000)	(6,600)	(5,400)	81.8%	
RISO	インク	258,300	296,100	245,700	83.0%	()内は発注個数
		(76)	(94)	(78)	83.0%	
	マスタ	360,150	418,950	352,800	84.2%	〃
		(52)	(60)	(48)	80.0%	

上段：金額（円） 下段（ ）内：発注個数

■文部科学省科学研究費関係発注・検収実績

費目別・発注検収実績件数

単位：件

費目	2010年度	2011年度	2012年度	備 考
消耗備品	469	412	413	10万円未満備品
機器備品(※)	23	15	7	10万円以上備品
印刷物(※)	3	1	5	10万円以上
合 計	495	428	425	

※10万円以上の備品購入および印刷発注時は管財課による3社以上の入札制となる。

■施設設備修繕件数

	2010年度	2011年度	2012年度
10万円以上	13	14	19
10万円未満	44	40	29
合計件数	57	54	48
合計金額（円）	6,554,064	6,529,527	9,843,662

■携帯電話利用実績

携帯電話使用料金実績（年間）

単位：円

	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比
年間合計使用料金	175,438	165,085	164,532	99.7%

携帯電話貸出実績（部門別）

部 門	年間利用日数	備 考
地域看護学研究室	432	実習用
母性看護・助産学研究室	421	実習用
基礎看護学研究室	122	実習用
精神看護学研究室	47	実習用
大学行事（教務関係）	5	体育実習、新入生オリエン等

携帯電話貸出実績（月別・電話別）

2010 年度	No. 1		No. 2		No. 3		No. 4		No. 5		No. 6	
	貸出 日数	部門										
4月	0		0		3	大学	0		0		0	
5月	0		0				0		4	基礎	0	
6月	21	精神	11	地域	2	大学	21	基礎	26	基礎	11	地域
					11	地域						
7月	26	精神	9	地域	22	地域	26	基礎	26	基礎	26	地域
			8	助産					5	助産		
8月	0		0		0		0		31	助産	0	
9月	16	地域	15	助産	17	地域	17	地域	3	助産	17	地域
10月	31	地域	31	助産	31	地域	31	地域	31	地域	31	地域
11月	30	地域	30	助産	30	地域	30	地域	30	地域	0	
12月	0		31	助産	0		0		0		0	
1月	27	助産	31	助産	27	助産	19	基礎	27	助産	0	
2月	28	助産	18	助産	28	助産	0		28	助産	0	
3月	11	助産	0		11	助産	0		31	助産	0	
合計	190		184		182		144		242		85	

5 健康管理室

1. 役割・職務

学生・教職員がより健康で充実した大学生を送れるよう健康管理、感染管理、応急対応・健康相談、健康増進のための支援をする。今年度の重点目標は、学生健康管理データの電子化と効率的な運用、B型肝炎の免疫獲得の必須化の継続とした。

2. 主な活動内容（表1参照）

1) 健康管理

- ① 新入生へ健康管理オリエンテーション、健康手帳の発行、保健面接
- ② 学生定期健康診断の準備・実施と有所見者のフォローアップ
- ③ 教職員定期健康診断の手配、私学共済補助金申請・労働基準監督署への結果報告
- ④ 実習オリエンテーション（感染予防と心身の健康管理）
- ⑤ 健康状態調査の実施と調査結果に伴う対応（メール、面談、医療機関紹介）
- ⑥ 体調不良の学生への支援（面談、受診手配）
- ⑦ 学生基礎情報・健康診断結果・診断書・免疫状況等の電子化と運用

2) 感染管理

- ① 入学時、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の罹患・予防接種歴調査票回収と把握
- ② 入学時4種抗体検査結果の個別通知、免疫未獲得学生の実習前ワクチン接種の確認
- ③ 新入生及び前年度陰性の学生へのツベルクリン反応検査（2段階法）実施
- ④ 定期健康診断B型肝炎抗体検査結果の一斉個別返却、免疫未獲得学生・保護者へ安全と健康のた

めの年度内ワクチン接種を通知、接種機関の紹介、接種確認

- ⑤ 実習で結核に曝露した学生への対応
- ⑥ インフルエンザ等感染症罹患患者への対応と感染拡大防止のための対応
- ⑦ インフルエンザ予防接種の実施
- ⑧ 海外渡航における予防接種の情報提供

3) 応急対応・健康相談

- ① 学生及び教職員のケガ・体調不良などの身体的健康問題に関する応急対応
- ② 学生の精神的問題に関する対応
- ③ 校医・近医の紹介と連携
- ④ 学内カウンセリングへの紹介、カウンセラーとの連携
- ⑤ 入学試験・学内行事の救護待機
- ⑥ 防災対策（救護用備蓄品整備、救護訓練実施）

4) 健康増進のための支援

- ① 感染症に関する情報提供
- ② 学生保健委員会の開催（クラスへの保健情報伝達）

5) 就職活動・インターンシップ参加等の支援

- ① 診断書発行
- ② 相談への対応

3. 課題

- ① 電子化データの安全・効率的な運用
- ② 健康管理に関する個人情報の扱い方の検討
- ③ 大学行事としての定期健診時間の確保
- ④ 2013年度新設の衛生委員会の有効な運用

4. 資料・データ

表1 2012年度 健康管理 活動内容

活動内容	分類	年間主要業務																
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
(1) 健康管理	① 新入生健康管理オリエンテーション・健康手帳・健康状態調査票配布	↑																
	① 新入生の保健面接	↑																
	② 定期健康診断 (於: 予防医療センター 血液検査・胸部X線) の実施		↑															
	② 尿検査・血圧・体重・身長測定 (於: 健康管理室)		↑															
	② 校医による内科健診		↑															
	② 定期健康診断・内科健診結果の有所見者フォロー			↑														
	③ 35歳未満教職員健康診断 (於: 予防医療センター 学生定期健診内)			↑														
	③ 35歳以上教職員健康診断 (於: 予防医療センター 半日人間ドック) 対応				↑													
	④ 実習オリエンテーション				↑													
	⑤ 健康状態調査の実施と調査結果に伴う対応				↑													
	⑥ 体調不良の学生への支援				↑													
	⑦ 全学生健康管理データの電子化と運用					↑												
	⑧ 次年度健康診断準備						↑											
	⑧ 健康手帳の改訂・発行準備、雇用時健診対応							↑										
	(2) 感染管理	① 入学時、麻疹・風疹・ムンプス・水痘の罹患・予防接種履歴回収と把握	↑															
		② 入学時抗体検査個別通知、免疫未獲得学生へのワクチン接種確認		↑														
		③ 〆A、B型肝炎検査 (2段階法)		↑														
		④ B型肝炎抗体検査結果の一斉個別通知。			↑													
④ B型肝炎抗体未獲得学生へのワクチン接種情報と機会の提供、接種確認					↑													
④ B型肝炎ワクチン接種 (於: 高尾クリニック) 予約調整・予診対応						↑												
⑤ 結核に暴露した学生への対応						↑												
⑥ インフルエンザ、流行性角結膜炎等感染症罹患患者への対応							↑											
⑦ インフルエンザ予防接種 (於: 高尾クリニック) 予約調整・予診対応								↑										
⑧ 海外渡航における予防接種、HPVワクチンの情報提供と相談									↑									
⑨ 認定看護師の健康診断結果と免疫獲得状況の把握と管理										↑								
(3) 健康相談・応急対応		①② ケガ・体調不良・精神的健康問題に関する応急対応																
	③ 校医・近医の受診紹介と連携																	
	④ 字内カウンセリングへの紹介、予約																	
	⑤ 入学試験・学内行事の救護、待機																	
	⑥ 防災対策 (救護用備品、救護訓練)																	
	① インフルエンザなどの感染症に関する情報提供																	
(4) 健康増進の 為の支援	② 学生保健委員会の開催																	
	① 健康診断書の発行																	
(5) 就職活動 支援	② 就職先提出書類 (保健関係) に関する相談への対応																	

表2 健康管理室来室者 対応

(人)

月	休養室 利用	経過 観察	受診 (WC/ER)	受診 (校医)	受診 (他院)	処置	服薬	面接	他	教職員 利用	ワク 予約	Bワク 問診	インフル 問診	合計
4	5	5	2	4	8	8	4	22	7	1	20	17		103
5	23	8	0	5	14	12	9	29	16	7	25	11		159
6	24	4	2	8	3	12	4	21	21	4	48	53		204
7	22	21	0	10	3	10	9	28	31	10	8	68		220
8	1	0	2	0	0	0	0	6	8	10	0	1		28
9	5	2	0	1	3	3	0	14	7	7	0	2		44
10	15	16	3	8	8	6	3	34	25	8	6	5	171	308
11	15	23	1	1	5	11	6	22	11	15	14	8	100	232
12	7	3	1	5	3	5	3	18	21	8	25	39		138
1	4	4	0	2	0	2	2	12	20	5	10	14		75
2	3	1	0	1	0	0	0	0	18	1	1	3		28
3	1	0	0	1	0	1	0	1	16	2	0	0		22
合計	125	87	11	46	47	70	40	207	201	78	157	221	271	1561

表3 麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘 ワクチン接種対象者

(2011年4月入学時健診結果)

(人)

学年	在籍	麻疹		風疹		流行性耳下腺炎		水痘	
		抗体(-)	ワクチン接種	抗体(-)	ワクチン接種	抗体(-)	ワクチン接種	抗体(-)	ワクチン接種
1年	77	33	6	6	4	17	16	3	3
学士2年	20	11	7	3	3	8	8	0	0
合計	97	44	13	9	7	25	24	3	3

※抗体(-)でワクチン接種歴2回未満の者を接種対象とした

表4 B型肝炎ワクチン接種対象者

(2012年4~5月定期健診結果)

(人)

学年	在籍	HB抗体(-)	ワクチン 接種開始	次年度接種 開始予定	備考
1年	77	72	70	1	次年度定期 健診で抗体 検査実施
学士2年	20	18	0	0	
2年	70	5	5	0	
3年	85	3	3	0	
学士3年	20	3	3	0	
4年	75	6	6		
学士4年	23	2	2		
合計	370	109	89	1	

表5 ツベルクリン反応検査結果 (2012年5~6月 検査実施)

(人)

	学生数	検査対象者	1回目検査実施			2回目検査			来年度検査
			実施者	陽性	陰性	実施者	陽性	陰性	
1年生	77	75	75	52	23	22	15	7	8*1
学士16回生	20	20	20	15	5	5	3	2	2
修士1年生	35	35	33	31	2	2	0	2	2
博士1年生	12	6	5	4	1	0	0	0	1*2
昨年度陰性	13	13	12	6	6	6	2	4	5*3
前年度未検査	9	9	9	8	1	1	1	0	0
計	166	158	154	116	38	36	21	15	4

*1: 2回目検査未実施1名を含む。 *2: 2回目検査未実施2名を含む *3: 今年度未検査1名を含む

表6 学生定期健康診断

(人)

学年	学生数	予防医療センター受診(2012.4~5)			他院受診	休学
		受診者数	血液検査	胸部X線		
1年生	77	77	77	77	0	
2年生	70	70	70	69	0	
学士15回生	20	20	20	20	0	
3年生	85	85	85	85	0	
学士14回生	20	19	19	19	0	
4年生	75	75	75	75	0	
学士13回生	23	22	22	22	1	
修士1年	36	32	32	32	4	
修士2年	43	36	36	36	7	1
修士3年	7	1	1	1	5	1
博士1年	12	9	9	8	3	
博士2年	13	1	1	1	7	
博士3年	29	8	8	8	3	1
計	510	455	455	453	30	3

表7 教職員定期健康診断

(人)

年度	35歳未満	35~40歳未満	40歳~75歳未満(特定健診)*1		
			私学共済加入	受診	受診率
2011年度	11	15	60	52	86.7
2012年度	8	11	61	59*2	96.7

*1: 予防医療センター半日ドック利用者

*2: 他院受診者2名を含む

表8 カウンセリング

(件)

月	利用数
4	6
5	5
6	10
7	9
8	0
9	4
10	5
11	8
12	3
1	1
2	0
3	2
合計	53

表9 学内メール

kenkou 対応 (件)

月	学生へ返信・送信
4	125
5	65
6	20
7	11
8	3
9	1
10	21
11	15
12	2
1	6
2	5
3	35
合計	309

表10 健康診断書発

(件)

月	発行数
4	0
5	88
6	25
7	13
8	6
9	4
10	2
11	5
12	0
1	0
2	1
3	3
合計	147

6 研究支援室

1. 役割・職務

- 1) 文部科学省科学研究費助成事業他競争的資金事務
- 2) 研究センター事業（聖路加・テルモ共同研究事業含む）運営サポート・会計事務
- 3) 認定看護師教育課程事務
- 4) 認定看護師管理者講習事務
- 5) センター運営委員会関係事務

2. 活動内容

- 1) 府省共通研究開発管理システム（e-Rad）上の研究者情報管理、各種相談対応、支払業務、文部科学省他提出書類のとりまとめ、取扱要領改訂作業、科研内部監査対応、
- 2) 事業申請処理、催し物案内等広報物及び報告書作成、センターHP管理・運営、教室予約調整、運営補助、会計業務、運用ルール（センター利用のしおり）の管理・更新
- 3) 教員会・入試委員会関係、募集要項・研修生便覧・シラバス作成、入試広報業務、学納金管理、入学準備、学籍・成績管理、講師依頼関係、時間割作成、フォローアップ研修、入学式・修了式等行事関係、講義運営補助、教科書販売手配、科目評価集計、教具管理、会計業務、助成金関係（日本財団他）、日本看護協会関係、HP管理・運営、実習関係業務、窓口業務（各種証明書、レポート）
- 4) 運営委員会関係、募集関係（要項作成、広報、審査）、学納金管理、学籍管理、講師依頼関係、時間割作成、教室予約調整、開講式・修了式等行事関係、講義運営補助、教科書販売手配、科目評価集計、教具管理、会計業務、日本看護協会関係、HP管理・運営
- 5) 議題取りまとめ、会議資料印刷、議事録作成、各研究員申請書取りまとめ及び委嘱状発行、実習・研究受入申請書取りまとめ他

3. 課題

- 1) 組織改編により、来年度から「研究支援室」から「研究センター事務課」に名称変更されることに伴い、業務範囲が大幅に広がるのが予想されるが、研究支援室のスタッフ数が増えない中、どのように従来の業務を合理化し、新たな業務に取り組める体

制を整えるかが喫緊の課題である。

- 2) 来年度は聖路加・テルモ共同研究事業の最終年度となるため、新たな社会連携事業に積極的に取り組み、収益を確保していくことが課題である。
- 3) 来年度は研究センター研究活動支援室の機能充実が、研究センターの事業計画の中で大きな課題の一つとして挙げられており、研究センター事務課としては、研究センター長及び研究活動支援室長と連携を図り、新たな競争的研究資金の獲得を目指していくことが課題である。

7 危機管理室

1. 役割・職務

大学に発生するおそれのある、または発生した危機に対し、迅速かつ的確に対処し、構成員の安全確保を図り、本学の社会的責任を果たす。

2. 活動内容

- 1) 危機管理委員会の運営準備
資料作成など危機管理委員会開催準備を行った。
- 2) 防災マニュアルの周知
「災害時の組織的な行動マニュアル」を各班別会議で検討・改訂し、周知した。
- 3) 危機管理規程の見直し
- 4) 聖公会関係学校災害対策担当者会議への出席
5月26日 神戸国際大学にて開催、稲田総務課長・進藤課長出席
8月21日 松陰学院にて開催、山口事務局長出席
2月25日 桃山学院高校教頭来訪、危機管理情報など意見交換
- 5) 防災訓練計画の企画立案、実行。
聖路加国際病院との災害訓練の連絡調整など
- 6) 安否確認システムの管理
登録者の管理、登録推進を行った。
- 7) 防災各班会議との連絡調整
防災各班と連携して備蓄品の補充や防災マニュアルの検討・改訂を行った。

3. 課題

- 1) BCP（Business Continuity Plan）の策定
- 2) 災害以外のリスク（海外渡航研修など）の検討

- 3) 聖公会関係学校との連携
- 4) 中央区帰宅困難者支援施設運営協議会との協働

8 広報室

1. 役割・職務

- 1) ブランドコミュニケーション
- 2) メディアリレーション
- 3) 大学HP管理・SNS運用・看護ネット管理
- 4) 広報計画（企画・検討）
- 5) 各種データ分析・データ管理
- 6) 広報的役割の集約等

2. 活動内容（上記2に沿って記述）

- 1) ブランドコミュニケーション
 - ・大学ロゴ商標登録（College Identity）
 - ・名刺リニューアル（リデザイン）
 - ・立教大学視察
- 2) メディアリレーション
 - ・ニュースリリース配信開始（文部科学省記者会宛）
 - ・NPO 法人広報駆け込み寺への参加（当法人主催マスコミ交流会等参加）
 - ・取材規約・誓約書、申込書等取材ルールの整備及び情報集約
- 3) 大学HP管理・SNS運用・看護ネット管理
 - ・ホームページ管理室及び広報委員会から広報室へ

HP管理体制の移行

- ・Facebook、Twitter 運用開始（2013.4.8現在「いいね！」211件、「フォロー」187件）
- ・看護ネット（株）ムーンファクトリーとの委託契約見直し
- ・看護ネット広告バナー導入（規程・申込書等ルール整備）

4) 広報計画（企画・検討）

- ・広報委員会・広報室の業務分掌見直し
- ・2013年度広報計画案検討、中長期計画検討
- ・入試戦略案企画・検討

5) 各種データ分析・データ管理

- ・2013年度出願者データ分析
- ・入試関連データの集約・分析
- ・ホームページアクセス解析

6) 広報的役割の集約等

- ・学園ニュース・年報等情報発信業務の移管
- ・新規広報誌企画等、情報発信媒体の見直し（企画・立案・実行）

3. 課題

- ・インナーコミュニケーションの強化
- ・ブランド展開
- ・100周年へ向けての中期計画策定

VI 学長諮問委員会

1 学事協議会

1. 役割・職務

「聖路加看護大学学事協議会規程」に定められている。

2. 活動内容

2012年度の学事協議会は16回開催された。

主な協議事項

- 1) 全規程の見直し
- 2) 2013年度事業計画などの立案
 - ・2013年度予算編成
 - ・2013年度学事暦の決定
 - ・2013年度委員会・会議メンバーの決定
- 3) 教職員人事
 - ・非常勤講師の定年検討
 - ・教員の実践活動調査
 - ・教員の担当およびグループの枠、教員組織の再検討
- 4) 施設・システムの整備計画の検討
 - ・学生証・教職員証の切り替え
 - ・情報システム整備計画の検討
- 5) 各種イベントの企画検討
 - ・ホルツマー先生祝賀会の企画
 - ・創立記念行事
- 6) 学生部関係
 - ・学生の健康状況・履修状況の把握
 - ・国家試験対策検討
 - ・オリゼミの安全管理
 - ・卒業生・修了生の状況の把握
- 7) 奨学金
 - ・太陽の光奨学金
 - ・ミセスセントジョン記念教育基金
- 8) 教務部関係
 - ・保健師選択課程の運用変更
 - ・アクティブラーニング検討
 - ・GPA導入検討
 - ・Numbering導入検討
 - ・e-ポートフォリオ導入検討
 - ・授業・実習状況の把握
 - ・グローバル人材育成推進事業の検討

9) 聖路加国際病院との連携

- ・実習体制運営
- ・電子リソース契約における聖路加国際病院医学図書館との協力

10) 修士学生からの請願書に対する回答

11) 博士取得支援策の評価

12) 教員進学に伴う科研継続の検討

3. 課題

聖路加国際病院との一体化にむけた新しいカリキュラムの構築

2 自己評価委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学自己点検・評価に関する規程において、自己評価委員会の設置が定められ、その職務は

- 1) 自己評価委員会は定期的に自己点検・評価を行い、記録を作成し、学長に報告する(第4条)。
- 2) 自己評価委員会は評価項目を選定し、各校務分掌に対して自己点検・評価の実施ならびに改善案の作成を委託する(第6条)。

2. 活動内容

11回の会議を開催し以下の内容に取り組んだ。

- 1) ①本学では年報を作成することで、毎年自己点検・評価をし、課題を明確化している。同時に年報は、大学基準協会での認証評価の際のデータとなる。本年度は2011年度の年報を発行し(5月)、2012年度の年報の作成を準備した。
- ②自己点検評価の一環として、教職員の目標設定とその達成度評価を実施した(資料)。
- ③昨年度実施した将来構想委員会からの提案について検討し、可能なものは実施した。
- ④重点活動計画の達成度と、次年度へ向けた見直しを検討した。
- ⑤規則・規定の見直しに伴い、組織図を検討し、修正を行った。
- ⑥本学の建学の精神からカリキュラムまでのつなが

りをわかりやすく説明し次年度便覧を変更することとした。

⑦次年度へ向けた課題を整理した。

- 2) 2012年度の年報について、評価項目は年報の項目を再検討して決定し、また、規則・規程に定める組織の役割職務に基づいて、点検・評価にすることに修正した。

3. 課題

- 1) 今年度まとめた課題⑦に取り組むことが課題になった。
- 2) 2014年度の大学基準協会への認証評価申請に向けて、次年度は自己点検評価を実施し、記録を作成する。
- 3) 点検評価項目は、大学基準協会の評価項目と合わせて検討するとともに、各部署の取り組みを相互に周知することが次年度の課題である。

4. 資料

教職員の目標設定とその達成度評価のスケジュール表

[教員]

評価者		1次評価者	2次評価者	提出先	本人に返却
教授		学部長	—	学長	
領域の長がいる准教授・助教		領域の長	学部長		
領域の長がいない准教授・助教		学部長	—		
提出期限	年度初めの目標設定	5/18	6/1	6/11	次年度目標設定までに
	年度半ばの報告	9/13	(学部長保管)		
	年度末の評価	2013/2/28	3/15	3/22	

[職員]

評価者		1次評価者	2次評価者	報告	本人に返却
課長、係長（課長不在の部署）		事務局長	—	学長	
係長・一般職員		課長	事務局長		
提出期限	年度初めの目標設定	5/18	6/1	6/11	次年度目標設定までに
	中間期の報告	9/13	(事務局長保管)	—	
	年度末の評価	2013/2/28	3/15	3/22	

3 研究倫理審査委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学研究倫理審査委員会規則に則り、聖路加看護大学研究倫理審査委員会内規ならびに研究倫理審査委員会小委員会運用細則の第一条（目的）を達成すべく、研究計画の倫理審査を行う

2. 活動内容

今年度は12回の研究倫理審査委員会と1回の臨時委員会の計13回開催し、提出された研究計画書について審査を行った（表1、表2参照）。

また、審査を迅速かつ適正に進めるため、学内委員を対象に審査担当制を導入し、担当者を中心に審議を進行する形式を取り入れた。また微細な修正事項は、予め配布したシートに記載し会議終了後書記に提出することで

迅速化を図った。結果通知の種類についても再検討し、「条件付承認」は条件が整ったことを委員会が確認した後に研究開始可とするよう改正した。大学院修士課程の学生の研究計画書については、計画書を十分に審査する機会を設けるよう研究科委員会に提案し、承認された。簡易審査の過程についても、研究支援室の関わりが明確になるよう改正した。4月11日に研究倫理セミナーを開催した。

3. 課題

一層の迅速化と適正化を図るため、次年度以降、各審査の対象を再考する。同時に審査申請書の不備等散見されるため、申請者への啓発をこれまでに引き続き行う。

表1 審査件数

	開催月日	出席委員数	新規申請			期間延長・ 一部修正等	審査件数 (新規のみ) 計
			通常審査	簡易審査	予備審査		
1	4月17日	6名	4件	0件	0件	1件	4件
2	5月15日	7	2	0	0	2	2
3	5月22日	6	9	0	0	0	9
4	6月19日	7	11	0	2	1	13
5	7月17日	7	18	3	2	2	23
6	9月18日	8	15	1	1	1	17
7	10月16日	8	8	2	0	1	10
8	11月20日	8	2	1	1	1	4
9	12月18日	7	6	0	0	1	6
10	1月15日	7	9	0	0	0	9
11	2月19日	6	1	0	0	0	1
12	3月19日	5*	8	2	0	2	10
計	*2月18日臨時 委員会開催	*申請書に対する コメント提出(2 名)がありこれら を含め開催可とし た。					108

表2 審査結果

審査結果	承認	条件付き承認	保留	不承認	非該当
通常審査	82	3	7	0	1
簡易審査	9	0	0	0	0
予備審査	6	0	0	0	0
計	97	3	7	0	1

4 人権委員会

1. 役割 (規程)

人権委員会規程第2条

- 1) 本学におけるセクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメント及びその他学習・研究・労働に関連して教職員、学生および研究者等に生じる権利・利益に関する諸問題に関する事項を審議すること
- 2) 本学における学内人権事項に関する苦情を受け付け、対応すること
- 3) 本学における学内人権事項に関する必要な措置を学長に具申すること
- 4) その他、本学における学内人権事項の解決のために必要な事項を実施すること

2. 活動内容

今年度は申し立てはなく、下記のとおり委員会を1度

開催した。

日時 2012年7月18日(水) 18時30分から19時40分

場所 聖路加看護大学会議室

井部学長より新任委員2名(林直子委員、佐居由美委員=欠席)紹介した。

また2012年3月に掲載された「Yahoo 知恵袋」の書き込み(下記枠内)についての自由討論を行った。

質問 北里大学・看護学部と聖路加看護大学だったらどちらの大学がおすすめですか? 志望校のことで悩んでいます。第三者の方からの意見を聞いてみたいと思い、投稿しました。よろしくお願いします!

Ganbare hansin sukisuki to lucky さん
2012/2/3011:36:28 閲覧数44 回答数5

回答(5番目) creamsoil さん

聖路加の学生です。聖路加は実習中のアカデミックハラスメントが酷い領域があり、オススメできません。2012/3/31 20:56:29

ほかに4件の回答、他はおおむね聖路加に対して好意的。

書き込みはすでに削除されている。しかし回答者が本当に本学学生かどうかの真偽は不明ながら、このような書き込みがされるような鬱憤が一部関係者に内在している可能性を考えておく必要がある。

実習の際、学生からの主張と教員から見た学生の態度とにギャップがあることがあり、学生に対話力が足りない場合、思いが鬱積してしまう。そのような結果、必ずしも多くの人に見られたくない手段で、主張の断片を記したのが、今回の書き込みではないか、との意見があった。

3. 課題

本年度もハラスメントにかかわる申立まで至る事案はなかったが、上記書き込みに見られるような不平不満を内在させていることについて注意を払う必要がある。

5 発明委員会

1. 役割・職務（聖路加看護大学発明規程）

教員等が行った発明等の取扱その他知的財産権に関する事項を審議する。

2. 活動内容

発明等の届け出があれば速やかに委員会を開催し、知的財産権継承の可否および出願手続き可否の審議を行う。出願が決定したものは委員会担当者が弁理士に出願依頼の連絡および請求書受取や支払依頼等の会計処理を行い、発明者は出願に必要な書類を弁理士と相談して準備提出する。

今年度は、3月6日に委員会を開催した。

1) 出願、審査請求中であった特願2007-182020

（遠隔看護システムおよび遠隔看護の方法）に対して、特許庁より拒絶理由通知が届き、今後の対応について検討がなされた。結果、発明者が担当弁理士と相談のうえ、意見書を提出するか否かを決めることとなった。

3. 課題

特許権を得るためには様々な手続きがあり、法務の知識を備えた専門家に相談できる体制整備が必要である。発明、実用新案等に該当するかどうかを事前相談できる特許事務所を用意しておく必要がある。

また、有事に備え相談窓口となる特許事務所において、

専門的知識を有する担当者を定めておくことが望ましい。

6 将来構想委員会

1. 役割、2. 活動内容

前年度により引き続いて教職員全員が6つの班に分かれて3度のミーティング（第7回2012年5月28日、第8回6月26日、第9回7月24日）で検討し、その成果を9月18日に全体会を開いて発表した。その成果報告書は9月28日の理事・評議員懇談会にも提出された。

各班のサマリーは以下の通り。

第1班 「学部教育のレベルアップ」「優秀な学生の確保」

I. 放牧型教育プログラム（聖路加アクティブ・ラーニング）の導入、II. 教育課程や体制の転換、III. 学習支援システムの整備、IV. アドミッション活動の充実、V. ファカルティ&スタッフ・ディベロプメント

第2班 「大学院のあり方検討会」

提言1-1. 本学卒業見込み者のストレート入学制度促進、1-2. 既卒者優先入学試験制度、2. 聖路加国際病院就業看護師の入学促進、3. 保健師国家試験受験資格・養護教諭専修免許取得コース新設、4. 大学院博士課程一貫教育と短縮化、5. 学士編入コース+1年の修士一貫教育、6. 看護学博士の学位を研究者 PhD と高度実践家 DNP の二本に分ける、7. 公衆衛生大学院の開設

第3班 「教育と研究のための実践フィールドをもつべきか」

看護実践の場をもつ是非についてメリットとデメリット（経済的リスク）の検討が必要、1) 小規模多機能型居宅介護事業と訪問看護が一体化した「複合型事業所」、2) るかなびの機能充実、3) シミュレーション教育の実践

第4班 「本学を教職員にとって魅力的な職場にするにはどうしたらよいか」

提言1. 本学の理念を支える聖路加フィロソフィ（教職員の行動基準）を掲げる、2. ダイバシティ（多様性）を受容し、ワークエンゲイジメントの向上を図る、3. 部署の垣根を超えて効率よく仕事できる環境を整える

第5班 「経営的に成り立つには何を考えるべきか」

即効性、実現可能性のあるもの。キーワードは「遠隔」「夜間」「関連講座と新学部」具体的取組優先順位①学部の定員増②広報活動の強化③ICTを活用した教育④教育環境の整備⑤オープンカレッジの開催⑥科目等履修を夜間・休日に開講⑦大学院修士課程修論コースに遠隔授業を導入⑧博士課程に遠隔授業を導入（社会人学生の便宜）⑨学部学生へのサービス向上⑩生涯教育に夜間・通信・遠隔⑪学部定員の再増加⑫学部の新設

第6班 「本学の情報戦略について」

提言1. 大学で大規模サーバを導入するよりも現状のままの方が低コスト。2. 現在の「広告なし」の状態優秀な学生を集められるのか？進学情報ポータルサイトの検討。3. 「聖路加の売り」と100周年に向けた情報戦略、広報戦略室兼100周年委員会を設置しプロを配置

3. 課題

提案内容の実現に向け、新たに大学運営会議を発足させた。事業の実現可能性や優先順位などを今後の検討を委ねる。

7 奨学生選考委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学奨学生選考委員会規程より選考委員会は下記について審議する。

4. 資料

表

	開催日	選考奨学金名	申請人数	推薦決定人数
1	4/24	茂木本家教育基金	3	2
		高島君子記念看護奨学基金	2	2
		岡村育英会	11	10
		守谷育英会	9	1
		山口県ひとづくり財団奨学金	1	1
2	5/15	東京都看護師等修学資金	1	1
		日本学生支援機構学部定期採用	16	13
		岐阜県選奨奨学生奨学金	1	1
3	6/5	日本学生支援機構大学院定期採用	14	13
		日本学生支援機構学部緊急応急採用	2	2

- 1) 学校法人聖路加看護学園貸与奨学金の奨学生の選考および貸与奨学金の運用
- 2) 独立行政法人日本学生支援機構の奨学生の選考
- 3) 独立行政法人日本学生支援機構大学院第一種学資金返還免除候補者の選考
- 4) その他の奨学生の選考
(奨学生選考委員会規程第3条)

2. 活動内容

- ・計7回の委員会を開催し、提出された各奨学生申請書について選考した（資料参照）。地方自治体奨学金の内、学内の推薦が必要な制度についても選考委員会にて協議した。また、これ以外に、給付奨学金制度導入について臨時会議を計4回開催した。
- ・1月23日(水)創立記念行事、3月8日(金)卒業・修了式にて、奨学金給付者と奨学生との懇談会を設け実施し、次年度も本学へご支援いただけることを了承していただいた。懇談会実施は、学生にとっても、勉学に対する意欲を高める貴重な機会であり、今後の学生の支援のためにも継続して行う。

3. 課題

既存の給付・貸与奨学金不採用者を聖路加看護学園貸与奨学金にて支援することで、奨学金申請者全体の採用率と学生の満足度は上がっていると思われるが、次年度以降、学生数の増加により本学園貸与奨学金貸与者が増加し資金減少が懸念され、さらなる資金確保の必要があると思われる。

4	7/3	小澤道子記念奨学金	2	2
		聖路加同窓会奨学金	7	1
		聖路加看護学園貸与奨学金	11	11
		ウパウバ奨学金	5	2
5	7/17	青木奨学金	5	3
6	10/30	未来の助産師基金	3	2
7	3/19	日本学生支援機構 特に優れた業績による返還免除候補者	8	4

8 危機管理委員会

1. 役割・職務

- 1) 危機情報の収集とその分析
- 2) 想定される危機の洗い出し、評価と優先順位付け
- 3) 順位付けされた危機への対応策の検討、立案、実施
- 4) 危機管理マニュアルの作成、見直し、学内周知
- 5) 教職員、学生への防災教育・訓練の実施
- 6) 大学を取り巻く危機動向の把握や報告
- 7) 緊急時の災害対策本部の組織体制、活動内容、意思決定
- 8) 緊急時の情報伝達システムの整備
- 9) 災害対策本部を設置する場合の場所の確保、備品、通信機器の準備

2. 活動内容

- 1) 防災訓練、聖路加国際病院との災害対策訓練の実施

6月25日、地震・津波想定訓練を実施した。

10月4日、聖路加国際病院避難訓練に呼応した訓練実施。

12月2日、文部科学省依頼の「地震情報を発信した訓練」を実施した。

1月16日、2号館トリアージ訓練を実施した。

- 2) 危機管理規定の制定・災害時の行動マニュアルの再検討

各班会議でマニュアルの内容の検討を重ね改訂を行った。

- 3) 災害用備蓄品の補充・管理

防災各班会議と連携し、必要な備蓄品の検討補充を行った。

- 4) 総務課との安否確認システム運営・管理の連携

安否確認システムへの登録推進を行った。また、災害対策訓練時に安否確認システムを作動した。

- 5) 中央区帰宅困難者支援施設運営協議会との連携

1月28日中央区防災課担当者との話し合いを行った。

3. 課題

- 1) 災害対策各班会議との連携緊密化
- 2) 中央区帰宅困難者支援施設運営協議会との協働
- 3) 聖公会関係学校とのいっそうの協力・連携
- 4) より実効性のある危機管理・対策の検討と実現

VII 常設委員会

1 教育予算委員会

1. 職務・役割

教育予算委員会の検討方針：「大学予算に関する検討会」及び「大学運営会議」からの要請を受け、教育予算申請書の内容を検討した。その際、教育の質の担保に留意しながら申請内容の妥当性を検討し、無駄を省き、今後の課題を明らかにして提言をまとめた。

2. 活動内容

1) 教育予算委員会開催

委員会の日程調整、予算申請方法・配布資料の確認、予算申請書の審査、修正予算の確認のため、計6回の委員会を開催した。

2) 予算申請に関する説明会の実施

2012年10月19日に予算関連の資料をイントラにアップし、2012年10月23日全教職員を対象に、「2013年度の教育予算の概算要求の方法について」「予算申請用紙」についての説明会を行った。また、11月20日のファカルティスタッフミーティングにて、2013年度教育予算総額は50,000千円以内を目標とすることを伝えた。

3) 予算調整過程

第一次予算申請総額は54,841千円（2012年度予算第1次申請額より16,510千円減）であり、4,841千円の削減が必要であった。委員会では、申請された教育予算について以下の5点を中心に確認・検討を行った。

- (1) 授業に関する科目予算および教務予算については、申請基準に照らし、①申請根拠、②優先度、③単位数および教育内容・方法の3点をもとに、教育予算として適切であるか否かを検討した。
- (2) 委員会活動予算については、委員会活動の内容と照合し適切であるか否かを検討した。
- (3) 全ての科目において申請予算の内容が教育予算として妥当かを書類、理由書、申請資料にて検討した。
- (4) 必要時予算担当者にヒアリングを行い、実質的に必要な予算のみを計上することを徹底した。
- (5) 2013年度実習費等（実習謝金、実習打合せ費用、

非常勤講師、特別講師、TA、臨時助教）に関する予算について、申請基準に照らし検討した。

3. 2013年度教育予算調整結果

- 1) 申請された教育予算に対し最大限の検討を行った結果、最終予算は48,644千円となり、目標の50,000千円を下回った。
- 2) 申請のあったDVDのうち、8件113千円分については今年度ビデオ予備費で購入することとした。
- 3) 外国からの客員教授人件費700千円、看護ネット維持費2,483千円は教育外予算とした。
- 4) 大学共通一視聴覚予算のうち、電子黒板はその必要性から2台追加（+360千円）し、3台購入することとした。
- 5) 大学運営会議の承認を得て、備品・消耗品の一部（2,265千円）については今年度中に購入することとした。

4. 課題

2013年度教育予算調整の過程において、今後の課題を次のようにまとめ提言とした。

1) 教育予算と教育外予算の分類について

実習室委員会の内容は直接教育に関するものであるため教育予算に含めた方が良い。

2) 特別講師について

学部・大学院共に原則として1単位につき1コマまでとし、それ以上の場合は理由書の添付を求めた。おおむね基準の範囲内で申請されていたが、基準を超えた場合に、書面のみで妥当性を判断することは困難であった。また、教育予算委員会に非常勤講師申請の可否を決定する権限は与えられていない。今後は、基準を超えるものについては、年度当初にカリキュラム運用委員会や研究科委員会にて検討し承認を得るなど、申請方法及びその可否について検討する必要がある。

3) 上級実践実習について

CNS コンサルテーション謝金として一律5万円支払うことができるが、科目により申請にばらつきがあるため、学内に周知する必要がある。

4) TA・臨時助教に対する謝金申請について

- ① 領域により申請時間および額の差が大きかった。
- ② 昨年度の実績と比べ、学生数や実習体制に大きな違いがないにもかかわらず倍近くの時間と額を申請している領域もあった為、次年度は実績額を勘案の上予算申請してもらう必要がある。
- ③ 演習・実習科目について、TA および臨時助教に対する謝金についてはこれまで別々の様式での申請を求めてきた為、人件費に係る全体像（総額）の把握が難しかった。次年度は同じ様式で申請出来るよう様式を変更する必要がある。
- ④ 今年度は、TA および臨時助教に対する謝金を申請する際に理由書の添付を求めた。TA と臨時助教の謝金申請には、様々な関連要因（科目担当教員と授業担当回数、大学から実習施設までの距離、実習指導に対する実習施設からの要望、科目担当教員の考える演習・実習内容・方法等）があると考えられるが、予算申請書だけではその詳細が把握できず妥当か否かの判断が困難であった。従って、TA と臨時助教の謝金申請に関する明確な基準を示すことは出来なかった。しかし、最低限の基準（例えば、講義や委員会出席のために学生指導ができないことから継続した教育の質を担保できない、あるいは学生および患者の安全が確保できない場合など）を決めて共有する必要がある。また、理由書の中には、科研等の研究調査および会議のためという申請理由もあり、研究活動のために TA・臨時助教に対する謝金申請を認めるか否か検討する必要がある。
- ⑤ 各領域がどのような申請をしているか公にすることによって、根拠に基づく慎重な申請が促進されると共に、全領域に共有される基準が形成されることが期待できる。今後は、申請内容をオープンにすることを検討する必要がある。
- ⑥ TA・臨時助教の確保が難しいという現状が判明した。その理由を明らかにし、関連部会でその原因を探る必要がある。

ットの作成等)を実施した。今年度新たに、中・高校生向け看護セミナー、Twitter および Facebook の開設等を広報室と協働してスタートさせた。また、聖路加国際病院との連携体制を構築し活動を拡大した。広報委員会の活動を効率よく遂行するために、昨年に引き続きチーム制にして各プロジェクトを展開したが、各プロジェクト活動が拡大したため、全メンバーが協力して行った。

- 1) オープンキャンパスの開催：(主メンバー) 角田、池口、大畑、三森
- 2) 大学ホームページ作成：福田、松崎、中村、榎田、進藤、高橋、片岡
- 3) 大学案内パンフレット作成：(主メンバー) 福田、その他の委員
- 4) 学生広報委員会との連携：高橋、池口、角田、三森、大畑、榎田、福田、松崎

2. 活動内容

プロジェクト毎に、年頭に目標と年間計画を立て、それぞれのチーム内で緻密に活動を展開した結果、昨年よりさらに発展がみられた。活動は、以下の通りである。

- 1) オープンキャンパス・看護セミナーの企画・運営
学生広報委員会との共同企画・運営による、オープンキャンパスを、6月下旬1回、7月下旬2回の計3回実施し、多くの来場者を得た(表1)。今年度は新たに、聖路加国際病院協力のもと、病院見学を企画した。6月は外来自由見学、7月は整理券を発行し、定時に病院スタッフがツアー形式で外来を中心に案内する企画であったが、就職先や実習先をイメージでき、病院と連携した教育環境を理解できると好評を得た。2階ラウンジには病院紹介コーナーを開設し、病院パンフレットを置き病院のVTRを映写し、また、副看護部長による病院紹介のプログラムをホールにて企画した。

例年実施の企画として、在校生による相談、実技体験、学生による学内ツアーは好評であり、大勢の参加があった。これらの企画は、学生と直接交流でき、本学の雰囲気を体感できると例年評価が高い。また、教員相談コーナーは進路や資格等についてのご家族からの相談が多く見られた。ホールでは、今年度より広報委員による大学案内オリエンテーションをおこなった。模擬授業は、今年度より実施回数を毎回1回とし、6月30日は成人看護学(急性期)、7月28日は地域看護学、7月29日は国際看護学の教

2 広報委員会

1. 役割・職務

大学および大学院の受験生獲得に向けて、大学広報戦略の検討、学外に向けた広報活動の企画・実施(オープンキャンパス、ホームページの更新、大学案内パンフレ

員がおこなった。また、今年度初めての企画として、3月に中・高校生向けの看護セミナーを実施した。

2) 病院との連携

今年度は初めての試みとして、夏休みに聖路加国際病院で一日看護体験をする高校生とボランティアに参加する高校生を対象に聖路加看護大学の紹介をした。病院の看護部の担当者やボランティアコーディネーターの方と打ち合わせを重ね、大学案内のパンフレットの配布と共にオープンキャンパス、白楊祭などのイベントの案内を通して広報活動を行った。オープンキャンパスのアンケートからは、この活動により本学を知り興味を持ったという回答があったことから、来年度も継続して同様の活動を展開していきたい。

3) 大学ホームページの更新

大学ホームページでは、2013年度の「新着情報」に88件の学内情報を掲載し、大学内の情報を学内外に発信した。学内情報入手から3日以内の掲載を目標に、広報委員長と広報室長への情報受け取り窓口を明確にし、メールによる情報を受付とした。受付後の流れも掲載内容の校正から掲載作業へとスムーズに依頼できるような役割とシステムを整えた。新着情報の掲載種類の枠組みは、「ニュース」「イベント」「学内情報」に加えて、掲載の多かった「入試」「受賞」の枠を増やし、情報を見やすく得られやすいよう工夫した。また、季節の変化や行事に伴い、トップページの写真を入れ替え、ホームページに関心を引くよう工夫を行った。また、トップページのバナーについても、再度見直しを行い、チームビルディングのバナー追加や、看護実践開発研究センターのバナーの移動など優先順位を確認し整えていった。学部や大学院等の願書受付期間や入試情報など、タイムリーな情報は、トップページの写真に付箋で情報を貼り付け目を引くように工夫も加えた。

今年度の新たな取り組みとしては、本学に関心を持ってくれる方々に幅広く情報を発信するために、聖路加看護大学のTwitterおよびFacebookの運用を2012年12月27日より始めた。Facebookでは、大学で開催するセミナー開催情報や、本学看護学部の卒業式や大学院の修了式の様子などを発信した。

4) 2013-2014大学案内パンフレットの作成

昨年度に引き続き、梁プランニング（3年契約2年目）とのパートナーシップを結び、作成を行った。

昨年度のものをベースに、今年度の新たな企画として著名な卒業生（石井苗子氏：女優・ヘルスケアカウンセラー・きぼうときずなプロジェクト実行委員会）へのインタビューページを設けた。著名な有名人を起用することにより、デジタルパンフレットを含めた露出の向上を狙った。

5) 学生広報委員会との連携

オープンキャンパスの開催にあたり、学生広報委員会と連携し、計画・運営を行った。白楊祭においては受験生相談コーナーを学生広報委員と連携して行った。さらに、夏休みの母校訪問を学生広報委員と進め、総人数35名（うち直接訪問29名）、大学よりパンフレット送付6件となった。

6) 学外における広報活動

今年度も新宿セミナー等の入試相談会に6回参加し、延67人の相談者が訪れ、個別の相談に応じた。

3. 課題

今年度は、新しい活動を展開させたが、受験生の増加という目標を達成することができなかった。以下に課題を明示し、今後の計画を挙げた。

1) オープンキャンパス等の内容検討と回数の増加

病院見学が好評であったため、病院と協力を密にし、説明スタッフと見学内容について検討し、より多くの人に実習環境を見ていただける環境を整えたい。また、学生広報委員との連携も密にし、学生の一人一人が広報委員としての自覚を持って関われる体制づくりが望まれる。大学院受験希望者対象のオープンキャンパスは、現在のところ学部と同時開催を予定している。次年度は、6、7月のオープンキャンパス以外の時期にも、本学の魅力を発信できる講演会やイベントを企画し実施する予定である。

大学案内パンフレットについては、大学のいろいろな情報を網羅する形で作成しているが、ステークホルダー及びニーズに合わせて、扱う情報の検討・精査および役割によって多様な広報誌等を作成することを今後検討していきたい。

2) ホームページ等の充実

これまで広報委員会で担っていた大学ホームページ作業は、次年度より広報室に委譲することになるため、広報室と広報委員会の役割を明確にしていく。

3) 大学広報活動のための連携体制の強化

学生広報委員会との連携については、各学生広報

委員の役割の整理、責任の明確化、指示系統の確立を目的に、全員に役割を付けて活動を行う予定であ

り、新たな協働体制の評価をしながら、改善すべきところは改善を行っていく必要がある。

4. 資料・データ

表1 2012年オープンキャンパス来場者数

(単位：人)

	開催日時	来場者数 (前年度数)	内 訳
1回目	6月30日(土) 13:00~16:30	362 (312)	学部志願者 215・大学院志願者 6・保護者 141 (前年度：学部志願者 183・大学院志願者 4・保護者 125)
2回目	7月28日(土) 13:00~16:30	530 (823)	学部志願者318・大学院志願者48・保護者200 (前年度：学部志願者486・大学院志願者58・保護者279)
3回目	7月29日(日) 13:00~16:30	855 (695)	学部志願者 517・大学院志願者 8・保護者 330 (前年度：学部志願者 413・大学院志願者 5・保護者 277)

3 学園ニュース委員会

2. 活動内容

学園ニュース No. 299 から No. 302 を4号編集・発行した。掲載記事概要は下記のとおり。

1. 役割

学園ニュースの編集、発行

No.	発行日 発行部数	巻頭記事/特集/その他	備考
299	2012年 4月26日	トップ「ようこそ聖路加看護大学へ」 学長 井部俊子	印刷紙はご家族、 役員等へ送付
	900部	特集 ご入学おめでとうございます 新入学生のひと言集 福井次矢新理事長就任ごあいさつ 新入教職員 自己紹介 また会う日を楽しみに 退職/休職教職員 Nurse を目指す学生たちへ応援メッセージ 表彰運営委員会より 受賞者のご紹介 2011年度 学部卒業生および大学院修了生の進路	
		INFORMATION 2012年度学事暦	
300	2012年 7月20日	Commemorative 300 th Issue トップ「学園ニュースの発刊と理事長退任まで」 名誉理事長 日野原重明	7月末のオープン キャンパス来訪 者にも配付する ため、印刷部数を 増加させた 12ページ構成
	1,400部	特集 学園ニュース祝 300号 昭和47年9月の第1号から300号に至る印象的な記事を再録した 体育デー 聖路加福島県災害支援プロジェクト1年間の活動総括	
		INFORMATION 2011年度決算報告	
301	2012年 12月7日	トップ「夫ヨセフの「正しさ」に抗って誕生する幼な子イエス」 キリスト教倫理担当 関 正勝	
	900部	特集 クリスマス 第36回 白楊祭「彩ー未来の色は自分色 (ワタシイロ)」 国際化推進委員会 Global Health Action	
		学術論文受賞 (亀井智子教授、新福洋子助教)、新人紹介	
302	2013年 3月5日	トップ「看護学を修め、社会に羽ばたく皆さまへ」 学部長・研究科長 菱沼典子	
	1,200部	特集 チーム・ビルディング育成プログラム 卒業・修了おめでとうございます (ひと言集) ホルツマー博士が叙勲 創立記念式典 (細谷亮太先生特別講演「いのちについて考えた こと〜小児科医としての40年」 2012年度学内表彰がありました。	
		INFORMATION 2013年度予算	

3. 課題

- 1) 菊田文夫委員長が上半期のサバティカルリーヴのため、記念号となった300号については萱間真美教授に代行した。
- 2) 300記念号は12ページ増大号とし、ホームページにも全ページを掲載した。紙面の web を通じた頒布の方法についてルール化したい。
- 3) 当委員会は活動を終了し、次号よりは広報室の事業として、広報部活動との連携を図りながら編集にあたることになる。

4 情報システム委員会

1. 役割・職務

- 1) コンピュータシステムに関する運用、管理上の諸問題の検討
 - ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク利用規程
 - ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク倫理規程
 - ・情報システム委員会規程
- 2) システムの運用の向上を図るための企画

2. 活動内容

- 1) 学生情報システム委員会について
学生委員は学部13名、大学院2名である。5月と7月の計2回、学生合同情報システム委員会を実施した。学生の意見として、学内 LAN や Wi-Fi の設置要望や、両面印刷ができるプリンタの設置要望が挙げられた。また、学生が Web 上で連絡事項などの情報確認ができる場や、学生が行なっている活動を情報発信できる場が求められた。資源削減と利便化の面から、講義レジュメの電子化についても提案があった。
- 2) 印刷枚数適正化への取り組み
昨年度に引き続き、各学年に年間印刷枚数の上限値を設定し、学修目的外使用（大量印刷物の放置行為等）の防止ならびに学修環境の向上に取り組んだ。印刷停止解除申請者19名のうち、実際に上限値を超えた者は15名（約3%）にとどまり、昨年実績の10%を大きく削減できた。次年度は新システム導入のため、今年度をもって印刷枚数制限は終了することとなった。

3) 無線 LAN サービスの利用拡大

昨年度、2号館の一部で大学院生を対象にインターネット無線接続サービス(Wi-Fi)の試験提供を実施した。実施に伴う運用上の問題はなく、学生情報システム委員会等を通してサービス拡大を希望する声があった。これを受けて、2012年11月1日より本館2階～4階にアクセスポイントを増設して試験提供を実施した。運用にあたり、利用上の手続きや免責事項、損害賠償について検討し、利用者へ周知した。サービス開始後、利用者を対象に任意のアンケートを実施し、31件の回答を得た。そのうち、一部 area で接続できないとの回答があったが、アクセスポイントの設置場所を変更したことで電波状況は改善された。学生の要望によりサービスを拡大したことで、学習・情報環境の向上につながっているものと考えられる。引き続き運用状況や利用者からの意見をもとに、今後のサービス提供を検討していく必要がある。

4) 両面印刷ユニットの設置

本館405号室及び2号館メディアルームにあるプリンタに両面印刷ユニットを3台設置した（2012年6月に405号室1台、2012年11月に405号室1台追加、メディアルームに1台設置）。設置後に印刷された全枚数のうち約10%が両面印刷によるものであった。引き続き利用状況をもとに、今後のサービス提供（設置台数など）を検討していく必要がある。

5) 新システムの検討について

昨年初めに Microsoft 社の WindowsXP(OS)が2014年4月8日でサポートを終了すると発表されたことにより基幹サーバを含む学内システムの見直しが必要となり委員会で検討を開始した。検討を始めるにあたり聖路加国際病院との将来的な連携も視野に入れるため双方の関係者を集めた意見交換会が3回行われた。8月以降1ヵ月半におよび情報システム委員長と情報システム室（11月設置）メンバーによるワーキンググループを立ち上げシステムの方向性について検討を行った。その結果、次年度システムはコスト削減と学生・教職員の ICT 活用における自由と自立を促すことを目的に、米国グーグル社が提供する GoogleApps（クラウドサービス）の導入が提案され10月の委員会で承認された。その後、チュータを含む情報システム室が中心となり技術的な問題点の洗い出しや導入スケジュールについての検討会が14回行われている。

3. 課題

1) 昨年度からの課題への取り組み

昨年度は大学院の共有スペースでのインターネット無線接続サービスの利用を開始したが、今年度は学生情報システム委員会で学部生からの利用拡大の要望があった。このため図書館、3階・4階教室にエリアを拡大した。学生からは概ね良好な反応が得られている。今後は使用状況および意見の集約を行い、サービス継続・拡大の検討を行う必要がある。

2) 今後の課題

来年度は、GoogleApps の導入によって、つぎのようなサービスが利用できるようになる。

- ・ gmail により、従来のメールアドレスの変更なしで場所を選ばずメールの送受信や検索
- ・ Google カレンダーによる学事歴や会議室予約等のスケジュールの共有
- ・ Google ドライブによるクラウド上でのファイルの共有や複数のパソコンとの同期
- ・ Google グループによるメーリングリスト作成
- ・ Google+による SNS と電子会議の活用やブログやサイトの簡便な作成など

これらと、Wi-Fi 環境の拡充により、どこでもパソコン、タブレット、スマートフォンなど端末を選ばずに活用できることで、いわゆるアクティブラーニングなどユビキタスな学習環境を整えることができる。これは、学生から提案のあった Web での情報確認、情報発信の場の提供、講義資料の電子化などを実現することにもなる。これらの移行プロセスでは、新しいサービスを現在のシステムと切れ目なくつなげ、学生や教職員が使いやすくニーズに合ったかたちで順次、紹介していく必要がある。

自由度が高いというシステムでは、そのぶん、ユーザーが自分の端末を自分で管理する必要があるため、基本的な情報リテラシーの獲得とその支援が不可欠である。定期的に講習を行ったり、わかりやすいマニュアルやガイド、FAQ などを作成する必要がある。この作業においては、専門家がただ一方的に作成しているのでは、学習効果も期待できず、ユーザーのニーズに合わせにくい。そのため、学生情報システム委員会を含めた学生有志や各部門の教職員と一緒に、それらの学習システムを作り上げていかななくてはならない。

5 国際化推進委員会

1. 役割・職務

国際化推進委員会規程に基づく

2. 活動内容

- 1) タイ・マヒドン大学ラマティボディ校交換研修参加者（4名、うち単位認定申請者2名）及び韓国・ヨンセイ大学交換研修プログラム参加者（単位認定申請者4名）に対する単位認定
- 2) ①マヒドン大学／ヨンセイ大学交換研修生（各4名）受け入れプログラムの実施
②マヒドン大学／ヨンセイ大学交換研修生（各4名）派遣学生の募集、選考の実施
- 3) 学生国際化推進委員会による交換研修生歓迎会、交流プログラムの企画及び実施
- 4) 聖路加看護大学 Global Health Seminar の実施
- 5) NCLEX-RN トライアル講座(全9回) の実施
- 6) 学術交流協定校との新規学生派遣・交換プログラム実施検討
- 7) 国際化推進に係る資金申請（グローバル人材育成推進事業、留学生交流支援制度）
- 8) 白楊祭参加：活動紹介展示・海外プログラム体験学生によるプレゼンテーション
- 9) SNS サービス（Facebook 及び Twitter）を活用した委員会情報発信

3. 課題

- 1) 2010年度で終了した米国・ヴィラノバ大学との交換留学プログラムに代わる新しいプログラムを引き続き検討し、次々年度を目標として具体化を目指す。
- 2) 本学学生のグローバル化を推進するため資金獲得の機会を伺うと同時に、本学教育予算内で取り組み可能なグローバル人材育成施策について検討を行い、実現を試みる。

4. 資料・データ

表1 2012年度交換研修プログラム等実績

国	派遣元/派遣先	滞在期間	参加者名
受 入	タイ マヒドン大学	2012年9月16日(日) ～9月29日(土)	Ms. Natacha Ownon (4年生), Ms. Nisara Tanphan (4年生), Ms. Wansiri Keawprasert (4年生), Ms. Sawita Charoenkla (4年生)
	韓国 ヨンセイ大学	2012年6月28日(木) ～7月11日(水)	Ms. Ye Rin Cha (3年生), Ms. Ha Rim Kim (3年生) Ms. Sung Hyo Lee (3年生), Ms. Sun Bok Park (3年生)
派 遣	タイ マヒドン大学 シリラート校	2012年8月8日(水) ～8月21日(火)	房野 紗矢子 (4年生)、手嶋 文香 (2年生) 藤井 真起 (学士16回生)、田所 裕佳 (学士16回生)
	韓国 ヨンセイ大学	2012年9月7日(金) ～9月20日(木)	明松 真喜 (学士14回生)、谷口 絵里奈 (学士14回生) 石渡 智恵美 (2年生)、堀田 真利子 (2年生)

表2 2012年度聖路加看護大学 Global Health Seminar 実績

日 時	講師/発表者名、内容		参加人数
2012年4月24日(火)	小山 幸子	第1部：看護師のキャリアとオーストラリア留学—私のライフプランニング 第2部：循環器看護の可能性—日豪の臨床経験から、その専門性と役割について	71名
2012年10月6日(土)	徳間 美紀	助産師として参加した NGO 国境なき医師団の海外派遣 (スーダン、シエラレオネ、エチオピア、パキスタン) での活動について	88名
2012年11月1日(木)	赤尾 和美	アンコール小児病院における HIV/訪問看護の専門家としての活動を中心として	98名

表3 NCLEX-RN トライアル講座(全9回)実績 (参加人数)

11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	1/10	1/17
66人	35人	16人	8人	8人	7人	7人	6人	5人

6 表彰運営委員会

1. 役割・職務

委員会は、本学の学生および教職員が互いの努力を称え、感謝の意を伝えあう機会を提供するため、以下に挙げる各賞等に関する事項の審議ならびに実務を行う。

- 1) 教員の教育活動・研究活動やその成果に関するもの
- 2) 学生の学習成果や活動内容に関するもの
- 3) 学内の職員の活動に関するもの
- 4) 学生の社会的活動に関するもの
- 5) キリスト教精神の学習や関連する活動に関するもの
- 6) その他表彰委員会で定めたもの

2. 活動内容

- 1) 表彰内容、対象者、方法の決定

教職員委員および学生委員との合同会議により本年度の表彰対象者と表彰名、対象選択方法、選択時期、授与の時期や場、表彰状や記念品の内容を決定した。今年度新たに「クラス表彰」を加えクリスマス会での表彰の機会を持った。「チャプレン賞」はチャプレンに依頼し、チャペルアワーの出席ポイントが多い学生と教員となった。「グッドディーチャー賞」は前期・後期を設け、「グッドプレゼンター賞」は総合看護・看護研究Ⅱの各発表会場で1名を選出し、表彰者は2階ラウンジに発表内容のポスター掲示をした。「SL スター」は表彰目的を明確にし、学生委員が選択した。「グッドボランティア」は学生委員の調査や大学院への呼びかけにより、過去に表彰されていない個人あるいはグループから委員会で選出した。

2) 広報

1年間の表彰内容とスケジュールのポスター等を

学内に掲示し周知を促した。また、学生委員による各クラス等への呼びかけにより、対象者の選択や投票を促した。その結果、グッドティーチャー賞は過去最高の122名が投票した。表彰結果は学園ニュースに掲載した。

3) 表彰式の運営

クリスマス会および創立記念行事での表彰式において、教職員委員および各学年の学生委員が式の運営を行った。

3. 課題

1) 投票や表彰者選出への関心、創立記念行事時に行

う表彰式の参加者の増加が課題である。広報および表彰時期についても検討したい。今回大学院の参加の機会が減少してしまった。大学院が参加できる企画をしていく必要がある。

2) 同様の方法を繰り返すと表彰者が固定化される企画も出てくる可能性がある。表彰企画の主旨からも、多くの人の活躍を知ってもらえる機会をつくる必要がある。

3) 教職員委員と学生委員とのスムーズな連携のために、学生が動きやすい時期や連絡方法を考慮しながら運営していく必要がある。

4. 資料・データ

表1 表彰名、表彰対象者、選出方法、表彰会場

表彰名	選出方法 / 受賞者 (敬称略)	表彰会場
チャブレン賞	【選出方法】チャペルアワーの参加ポイントが多かった学生および教員各1名 【受賞者】小島悠美(1年)・中村綾子(教員)	創立記念行事
グッドプレゼンター賞	【選出方法】総合看護・看護研究IIの発表会会場で各1名を選出 【受賞者】磯田彩・山内麻衣・小林麻由子・石川智美・川島綾夏・栗飯原綾佳・駒田茉莉子・後藤千恵・矢澤寛子・鈴木帆奈・瀬尾沙織・向真理	創立記念行事
グッドティーチャー賞	【選出方法】優れた教授を行った教員を、学部生が前期・後期に投票。各1名を表彰した。 【受賞者】佐居由美(前期)・大久保暢子(後期)	創立記念行事
クラス表彰	【選出方法】クラスに貢献したクラスメートを各学年・学士で選出 【受賞者】ハロア潤子(学部1年)・今元春華・川上小百合(学部2年) 政木朋子(学士16)・三橋りさ(学部3年)・鶴見晋親(学士15) 山口保菜未(学部4年)・谷口絵里奈(学士14)	クリスマス会
S Lスター	【選出方法】学内の職員で心にとまる心地よい行動をしてくださった方。どこがキラッと光ったのかを学生委員が発掘して紹介。 【受賞者】「学生思いトップスター」：平塚岳人(学食シェフ)、 「優しさスター」：池之上久美子(清掃スタッフ)、 「食堂トップスター」：伊藤節子・小川美千代・山下郁代(学食スタッフ)、 「クリーントップスター」：嵯峨高子(朝の清掃スタッフ)	創立記念行事
グッドボランティア	【選出方法】過去に紹介されなかったボランティアを行っている個人あるいはグループを調査し、委員会で表彰対象者を選択 【受賞者】山田舞衣子(2年)(被災地仮設住宅サロン開催)、増田拓也(1年)(カンボジア教育支援活動)、小池依於奈(1年)(ネパール学校づくり)、福室自子(1年)(福島県健康相談・障害を持つ子どもとの交流など)、篠崎克子(博士3年)(聖路加産科クリニック玄関案内・ボランティア調整)	創立記念行事
学会等受賞者紹介	【紹介内容】優れた研究により学会等で表彰された教員・学生を表彰式の場で紹介(氏名と受賞理由・研究テーマ) 【紹介者】田代順子・新福洋子・松谷美和子・及川郁子(WHO Collaborating Centre グローバルネットワーク会議 第9回学術集会 Good Presentation Award)、新福洋子(日本私立系看護大学協会看護学研究奨励賞)、「明日の象徴」看看護・保健部門受賞)、亀井智子(日本私立看護系大学協会看護学研究奨励賞)、亀井智子、山本由子、梶井文子他(日本看護科学学会学術論文優秀賞)、亀井智子(「Marquis Who's Who in the World 2013」のヘルスケア分野)、浅井宏美(博士1年)(日本看護科学学会学術論文奨励賞)、堀成美(性の健康医学財団賞)、看護実践開発研究センター事業「乳がんサポートプログラム」(日本がん看護学会表彰)	創立記念行事

7 紀要委員会

1. 役割・職務

- 1) 聖路加看護大学紀要委員会規程を参照。

2. 活動内容

1) 紀要第39号の発行

- (1) 投稿募集を5月および7月のファカルティ・スタッフミーティングおよびメールで呼びかけた。
- (2) 当初予定していた期限(9月5日)までの投稿申込数が少なかつたため、期限を9月21日まで延長し、投稿申込を募った。
- (3) 申込みのあった査読あり原稿(原著、研究報告)について、査読者を決定し、査読を依頼した。
- (4) 投稿申込み数が確定した後に複数業者から見積もりを取り、印刷業者を正式に決定した。
- (5) 10月・11月に投稿原稿を受け取り、編集作業を進めた。短報のうち、研究報告調で記述されている原稿について、内容の修正を依頼した。
- (6) 投稿申込み時点での原稿数は16本(原著4、研究報告4、短報8)であった。その後、原稿の取り下げがあり、最終的には14本(原著2、研究報告4、短報8)となった。
- (7) 3月15日に650部を発行した。

3. 課題

- 1) 昨年度と同様の投稿申込期限の設定(9月)と投稿への呼びかけを行った結果、今年度の投稿希望のこの時点での取り下げは、1件にとどまった。このため、次年度以降もこの手順を進めていくと良いと判断した。ただ査読結果を見ての取り下げが1件あり、これをどう考えてゆくかが今後の課題となる。
- 2) 次年度は紀要40号の発行年度である。今年度はそのための予算計上をしたが、記念号を発行するかどうかも含めて、その企画は、来年度の課題である。
- 3) 現在、校正をお願いしている学外校正担当者への依頼を、来年度以降も依頼できるかどうか不明である。学外校正担当者の確定を、来年度早々に検討する必要がある。

8 オリエンテーション・セミナー委員会

1. 役割・職務

新入生オリエンテーション・セミナーの企画、実施

2. 活動内容

1) 新入生オリエンテーション・セミナーの開催

本学学部入学生を対象として、本学の理念およびカリキュラムへの理解、上級生や教職員との交流、さらに、新入生相互の交流などの促進を目的に、2012年度新入生オリエンテーション・セミナーを、財団法人キープ協会清泉寮において開催した。企画・実施に当たっては上級生のオリゼミ委員と共同で実施し、またセミナー当日は教職員の協力を得た。

日 時：2012年4月6日(金)～7日(土) 1泊2日

場 所：財団法人キープ協会清泉寮(山梨県北杜市高根町清里3545)

参加者：新入生95名、上級生22名、教員16名

プログラム：

4月6日(金)

9:00 大学出発(バスで清里まで移動)

昼食後

13:30-15:15 グループワーク「聖路加看護大学入学のきっかけ」

15:45-17:15 上級生企画・交流

17:15-17:45 タベの祈り(ケビン・シーバー司祭)

17:45-19:00 夕食(新館レストラン)

4月7日(土)

7:00 朝の森の散策・礼拝(ケビン・シーバー司祭)

7:30-9:00 朝食

9:00-11:00 グループワーク発表会

11:00-13:30 フィールドワーク/昼食

14:00 清泉寮 出発(バスで大学まで移動)

2) オリエンテーション・セミナーレポート

新入生オリエンテーション・セミナーに参加した新入生の感想を学内イントラネットで公開した。

3) アンケート結果

新入生アンケートでは、「このセミナーに参加して満足でしたか」の問いに、97%の新入生が「満足」と回答した。3%が「普通」と回答した。

3. 課題

本学の理念やカリキュラムの理解、新入生や教職員との交流のために新任教員の参加を求めたが、効果的・効率的な運用を考えるのであれば、領域を考慮しながら希望する教員の参加でよいのではないかと。来年度は、スケジュールがスムーズに遂行できるよう、食事形態だけでなく、具体的な動線を考えて清泉寮と十分な打ち合わせをする必要がある。また、当日は気温が零下で雪が降る天候であった。学生の服装等、想定できる注意点について徹底していく必要がある。オリゼミのレポートとした「感想文」をイントラネットとして公開したが、オリゼミ終了後も活用でき、思い出として残るような内容を検討し、冊子として配布していく方向で検討したい。

9 FDSO 委員会

1. 役割・職務

学部・大学院の教育・研究活動及び大学組織運営推進のために行う、Faculty Development (FD) および Staff Development (SD) に関する事項の審議ならびに実務を行う。

4. 資料・データ

表1 2012年度 FDSO 研修一覧

時期	テーマ (MAP 領域)	講師 (所属)	場所	参加人数
8月1日(水) 2012 FDSO-Week 第1回(学事)	キリスト教精神と本学のミッション (教職員向・レベルⅢⅠ)	ケビン・シーバー氏 聖路加礼拝堂司祭 聖路加看護大学教授	聖路加礼拝堂・ 同ロビー	教職員 68
8月2日(木) 2012 FDSO-Week 第2回	一人ひとりの広報戦略：小規模単科大学の挑戦 (主に職員向・レベルⅡ)	染谷忠彦氏 女子栄養大学常任理事	本館 403	職員 23 教員 16
8月3日(金) 2012 FDSO-Week 第3回	遠隔地での学習を可能にするウェブ基盤省察的学習支援プログラムの活用 (主に教員向・レベルⅡ)	田代順子氏 聖路加看護大学教授	2号館 メディアルーム	教員 15 職員 6
12月4日(火) 研究法シリーズ	Lesson learned and implications for conducting RCT (主に教員向レベルⅡ)	Dr. Alicia Matthews イリノイ大学准教授	本館 505/506	教員 30 院生 6
1月26日(木) 役立つツール道場 第1回(新規)	出張パワポ道場 (主に職員向・レベルⅡ)	小田 薫氏 聖路加国際病院経営企画室	本館 PC ルーム	職員 10 教員 1
3月14日(木) サイエンスカフェ 第1回(新規) ※延期 近日開催予定	臨地実習適正化のための看護系大学共用試験 CBT の実用化と教育カリキュラムへの導入 (教職員向・レベルⅠ)	柳井晴夫氏 聖路加看護大学教授	本館2階ラウンジ	

2. 活動内容

- 1) 教職員のニーズに基づき FDSO 研修を企画・実施・評価した(表1)。
- 2) FDSO-Week は小グループによる参加型により実施し、本学で取り組むべき課題への関心を高めた。成果は FS ミーティングにて共有した。
- 3) FDSO マップに基づき研修を位置づけた。また自己の能力開発・管理について FS ミーティングにて解説した。

3. 課題

- 1) 本学の経営および教育研究活動を推進する FDSO 研修を企画・実施・評価する。
- 2) 特色ある大学をめざし、教員力・職員力を高める研究交流の場をつくる。
- 3) PC ソフトや WEB ツールの活用など業務遂行に役立つ実用的な技術研修を継続する。
- 4) 教職員の FDSO の自己開発・管理および FDSO の全学的な共有化を推進する。
- 5) 新任教職員ガイダンスの内容について総務課と検討・改良する。

VIII 連携等会議

1 ファカルティ・スタッフミーティング

1. 役割・職務

- 1) 教員および職員参加による学事全般に関する連絡、報告を行う。
- 2) 教員および職員参加による学事全般における討議事項を議論する。
- 3) 連絡報告および討議検討を通して、情報共有と周知を図る。

2. 活動内容

- 1) 月1回から2回(4/3、5/15、6/5、6/19、7/3、7/17、9/4、9/18、10/2、10/23、11/20、12/4、12/18、1/15、1/29、2/19、3/5)、連絡報告及び検討事項の活発な意見交換を行った。定例の連絡報告は、学長、学部長、事務局長、教務部長、学生部長、研究センター長、図書館長、健康管理室より行われ、委員会等からは伝達事項がある際に適宜行われた。
- 2) 主な討議事項は、「本学の将来構想」、「危機管理体制」、「広報活動の強化」、「グローバル人材育成推進事業における本学の取り組み」についてであった。
- 3) 主な情報共有と内容周知は、「大学運営」、「保健師科目履修」、「カリキュラム変更に伴う新科目の内容」、「多様な学びのプロジェクト」についてであった。

3. 課題

本年は特に、本学の将来構想について最終報告がなされ、また危機管理体制についての役割分担や業務内容の強化と再確認が行われ、全教職員において活発な意見交換と共に情報の周知がなされた。教職員一同が介する会議であり、情報共有するという点においては、十分に機能している。今後教職員がより活発な意見交換を交わせる場として発展するとよいと考えられる。

2 リエゾン・コミッティ

1. 役割・職務

St. Luke's Medical Center, Tokyo のための基金、Teusler Memorial Fund の使途に関する病院との合同協議

2. 活動内容

2012年度は開催なし

3 聖路加国際病院ナースマネージャー会

1. 役割・職務

- 1) 聖路加国際病院のナースマネージャー会への出席(原則として第1、第3水曜日13:00~14:00)
- 2) ナースマネージャー会における議題のうち、本学の教育・研究に関わる事項について教職員に伝達する
- 3) 必要に応じて、本学の教育・研究活動について伝達する

2. 活動内容

- 1) 2012年度のナースマネージャー会は23回開催され、開催日は下記のとおりであった。
4月11日、25日、5月2日、16日、6月6日、20日、7月4日、18日、8月1日、29日、9月12日、19日、10月3日、17日、11月7日、12月5日、19日、1月9日、23日、2月6日、20日、3月6日、27日。
なお、1月23日は、創立記念行事のため欠席した。
- 2) ナースマネージャー会では、聖路加国際病院並びに関連施設における看護提供に関わる問題の検討ならびに、変更事項の通達がなされる。このうち、本学の教育、研究に関連する事項について「ナースマネージャー会報告」と題し教職員に向けてメールを発信した。
また、看護手順の改訂がなされた際には、教職員にメールにて情報提供を行うとともに、図書館に看護手順等を新たな版に差し替えるよう依頼した。
- 3) ナースマネージャー会において、本学における学事行事、学会、研究会等の開催に関する情報提供を行った。

3. 課題

聖路加国際病院においては、看護手順も含め、いくつかの手順等が作成、改訂されている。これらについて、過不足なく本学教職員に伝達していくことや、更新情報が漏れなく伝達される仕組みを構築することが課題であると考えられる。

4 ウィリアムズ主教記念基金運営委員会

1. 役割・職務

- 1) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会（委員長：吉岡知哉立教大学総長）に、聖路加看護大学からの委員としてウィリアムズ主教記念基金の運営に参加する。

2. 活動内容

- 1) 5月8日の第103回運営委員会に参加し下記の報告を受け、課題について話し合った。
 - ・客員研究員3名の動向：1名、研究中、1名10月より研究開始、1名3月終了帰国。
 - ・2011年度の会計報告と2012年の予算案について
 - ・2012年度活動として記念講演会（Robert M. Bellah 氏9月27日～10月8日に招聘し、4回講演予定。招聘関係は小委員会が担当する。
- 2) 12月7日の第104回運営委員会に出席し、下記の報告を受け、課題を審議した。
 - ・客員研究員の状況および辞退報告
現在、来日中の研究員は順調に研究を進めている。10月より2014年3月予定の研究員から辞退があった。

- ・記念講座：“Religion and Civil Society in the Global Age: Voices from Japan and the US”の報告があり、どの講演会も盛況であった。

- ・2013年度の予算の審議

- ・2012-2014年客員研究員（応募者総数8名からの選考）

順位を決め、2名の客員研究の選考を行った。第1位フィリピントリニティー大学看護学部 地域看護選考の教員を聖路加看護大学にて研究予定で採択し、本人に連絡をする。

3) 連絡調整

- ・選考後、第1位の候補からは、辞退との連絡があったとのことで、聖路加看護大学学長・研究科長、教務等関係部署に連絡した。

3. 課題

- 1) ウィリアムズ主教基金で運営されている客員研究員は年々応募が少なくなっている。今後、研究員招聘制度のニーズの見直し等運営委員会の課題である。
- 2) 基金は減少しているが、追加の募金等は現在考えず、基金による活動の見直しが必要である。

聖路加看護大学年報 2012年度（平成24年度）

2013年5月

発行者 聖路加看護大学

〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号

TEL (03) 3543-6391

FAX (03) 5565-1626

<http://www.slcn.ac.jp/>

